

---

---

春日井市障がい者総合福祉計画  
改定に係るアンケート調査  
結果報告書

---

---

平成 29 年 3 月

春日井市



# 目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査の概要	2
3.	報告書の見方	4
II	調査結果	5
1.	障がいのある人とその家族について	6
2.	障がいのない人について	20
3.	日常生活について	21
4.	相談について	37
5.	障がい福祉サービスについて	43
6.	保健・医療について	60
7.	余暇活動について	63
8.	仕事や働くこと等について	68
9.	生活環境について	74
10.	情報の入手手段について	78
11.	災害など緊急事態の対応について	80
12.	障がい者の人権について	91
13.	障がい者施策について	103
14.	障がいのある人等の家族について	107
15.	共生社会について	118



# I 調査概要

---

# 1. 調査の目的

障がい者総合福祉計画の改定にあたり、障がい者の日常生活、社会生活、障がい福祉サービスの利用状況及び今後の意向等について実態調査を行うとともに、障がいのない人に対して、障がい者への理解や意識等の調査を実施し、計画策定の基礎資料を得ることを目的とします

# 2. 調査の概要

## (1) 障がい者のくらし・社会参加に関するアンケート調査

### ■調査に関する事項（各調査共通）

区分	内容
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成 28 年 10 月 1 日現在
調査期間	平成 28 年 10 月 14 日～平成 28 年 11 月 4 日

### ■対象者の抽出

(障がい者手帳所持者・福祉応援券受給者)

平成 28 年 9 月 1 日現在

種類	年齢			合計
	17 歳以下	18～64 歳	65 歳以上	
身体障がい	181	2,579	6,770	9,530
知的障がい	695	1,363	78	2,136
精神障がい	73	1,603	510	2,186
難病患者	133	902	645	1,680
障がい福祉サービス支給決定者(手帳なし・児)	420	-	-	420
合計	1,502	6,447	8,003	15,952



対象者の抽出

(アンケート送付者)

区分	人数		備考
身体障がい・介助者	600	65 歳以上 100	身体障がい及び難病等患者は、65 歳以上の比率が高いため、18～64 歳と 65 歳以上を分けて抽出し、統計処理をする。
知的障がい・介助者	450		
精神障がい・介助者	450		
障がい児・介助者	400 (手帳所持：250+サービスのみ受給：150)		
難病患者・介助者	250	65 歳以上 50	
小計(障がい)	2,300		
一般市民	700		3,000

■回収率

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのあ る児童等	難病患者	家族	障がいの ない人
配布数	700件	450件	450件	400件	300件	2,300件	700件
有効回収数	323件	196件	194件	202件	155件	1,070件	254件
有効回収率	46.1%	43.6%	43.1%	50.5%	51.7%	46.5%	36.3%

(2) 障がい福祉サービス利用者へのアンケート調査

■調査に関する事項（各調査共通）

区分	内容
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成28年10月3日現在
調査期間	平成28年10月18日～平成29年2月15日

■対象者の抽出

日中・居宅サービス利用者、グループホーム利用者、施設入所者に調査票を配布、回収して実施

■回収率

	日中・居宅サービス利用者	グループホーム利用者	施設入所者
配布数	473件	116件	146件
有効回収数	316件	75件	114件
有効回収率	66.8%	64.7%	78.0%

### 3. 報告書の見方

- 図表中の「N数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外のクロス集計の表は、「不明・無回答」「その他」を除いて高い割合の第1位と第2位のものに網掛けをしています。（第1位：濃い網掛けに白数字、第2位：薄い網掛けに黒数字）ただし、N数が1桁以下のものは網掛けをしていません。
- 各設問の調査結果に、調査票の問番号を記載しています。表記は以下の通りとなっています。

<b>身体</b>	…身体障がいのある人（18歳以上の身体障がい者手帳所持者）への調査
<b>知的</b>	…知的障がいのある人（18歳以上の療育手帳所持者）への調査
<b>精神</b>	…精神障がいのある人（18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者）への調査
<b>児童</b>	…障がいのある児童等（18歳未満の各手帳所持者、障がい福祉サービス利用者）への調査
<b>難病</b>	…難病患者（福祉応援券受給者）への調査
<b>家族</b>	…上記対象者の家族への調査
<b>一般</b>	…上記以外の人への調査

<b>居宅</b>	…日中・居宅サービス利用者への調査
<b>グループホーム</b>	…グループホーム利用者への調査
<b>施設</b>	…施設入所者への調査



## II 調査結果

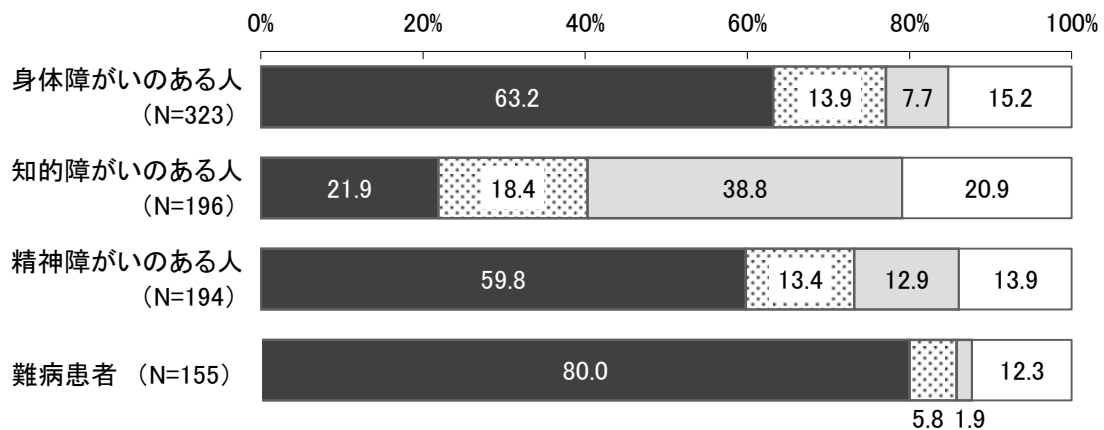
---

# 1. 障がいのある人とその家族について

## (1) この調査の記入方法について

身体問1、知的問1、精神問1、難病問1

知的障がいのある人で「本人の意向の確認が難しいため、家族や介助者などが本人の意向をくみとって記入」の割合が最も高く4割弱となっています。



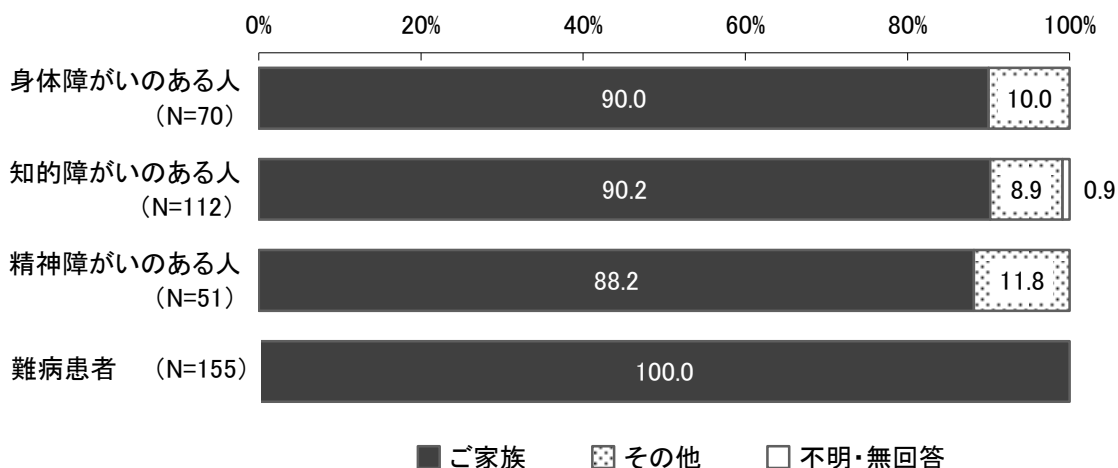
- 本人(宛名の方をいいます。)がご自身で記入
- ▨ 家族や介助者などが本人に意向を確認しながら、代わりに記入
- 本人の意向の確認が難しいため、家族や介助者などが本人の意向をくみとって記入
- 不明・無回答

## (2) 記入した方とご本人の関係にあてはまるものはどれですか。

※(1)で「家族や介助者などが本人に意向を確認しながら、代わりに記入」「本人の意向の確認が難しいため、家族や介助者などが本人の意向をくみとって記入」と答えた方に聞きました

身体問2、知的問2、精神問2、難病問2

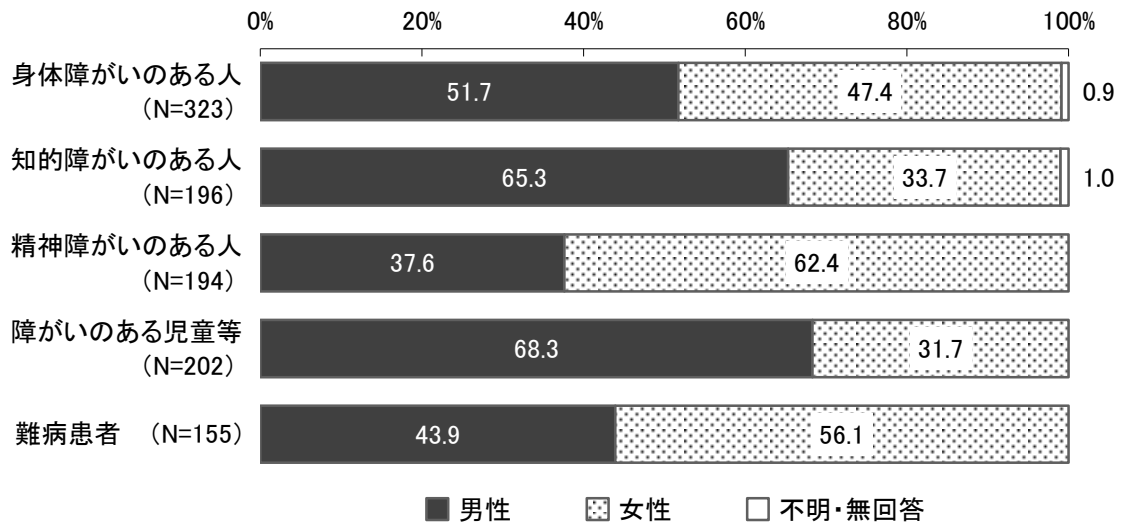
障がいのある人すべてで「ご家族」の割合が高くなっています。



### (3) 性別について

身体問3、知的問3、精神問3、児童問1、難病問3

知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「男性」の割合が、精神障がいのある人及び難病患者で「女性」の割合が高くなっています。

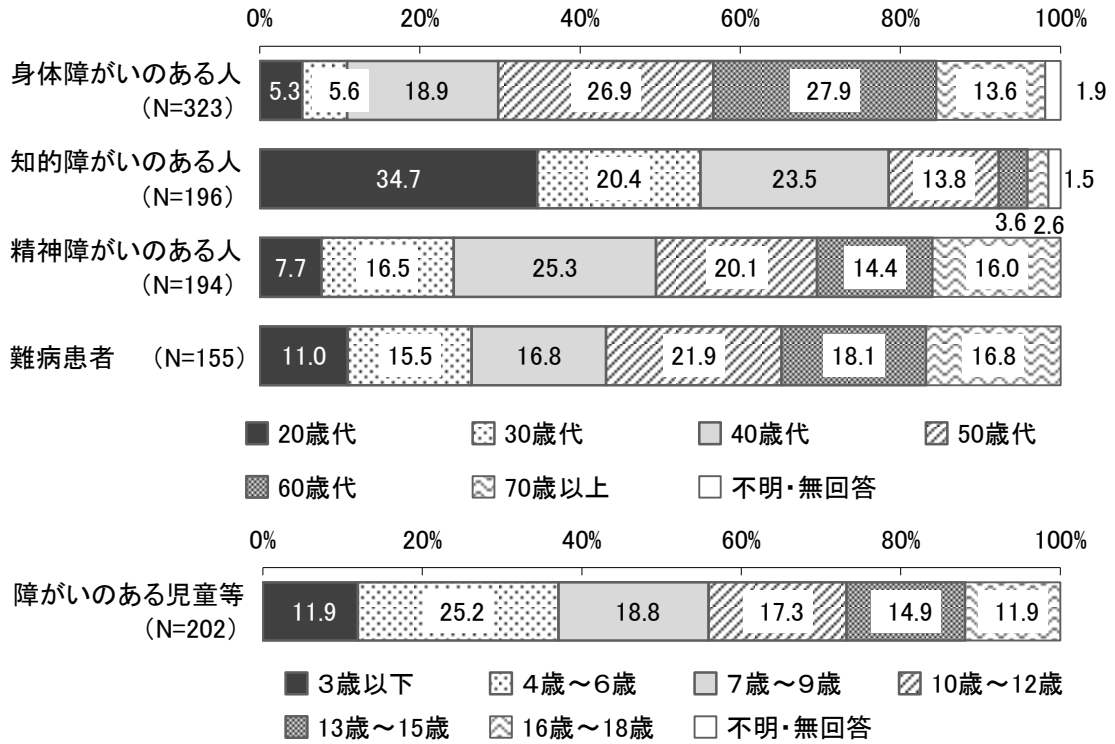


(4) 年齢について(平成 28 年 10 月 1 日現在)

身体問 4、知的問 4、精神問 4、児童問 2、難病問 4

身体障がいのある人で「60 歳代」、知的障がいのある人で「20 歳代」、精神障がいのある人で「40 歳代」、難病患者で「50 歳代」の割合が最も高くなっています。

また、障がいのある児童等で「4～6 歳」の割合が高くなっています。

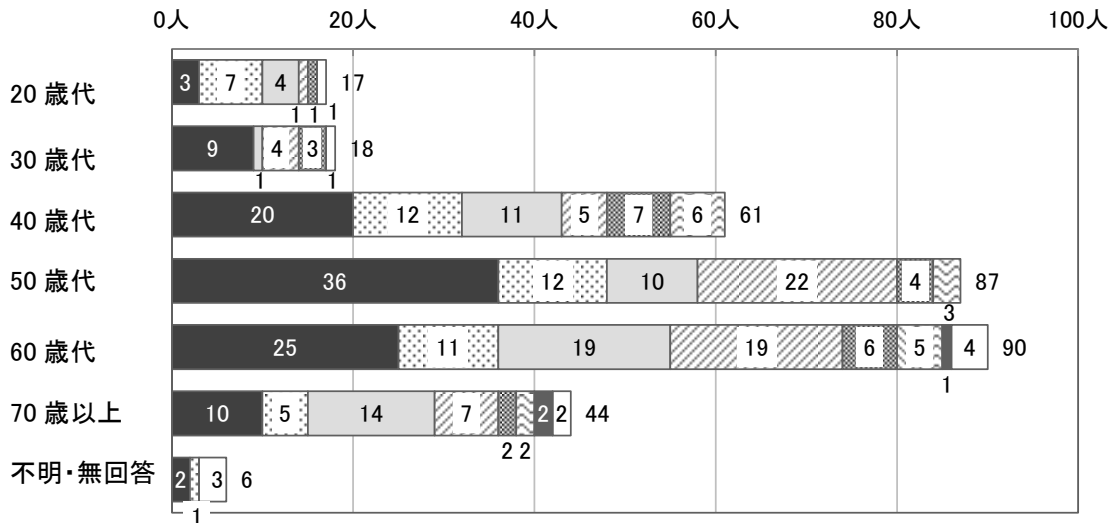


※年齢不明者は身体障がいのある人で6人、知的障がいのある人で3人、その他は0人となっています。

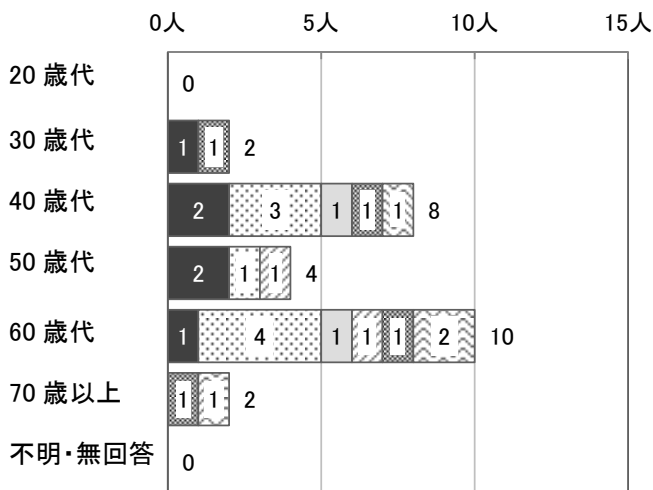
(5) 障がい手帳の種別・等級について

身体問5・6、知的問5、精神問5、児童問3・4・5・7・9

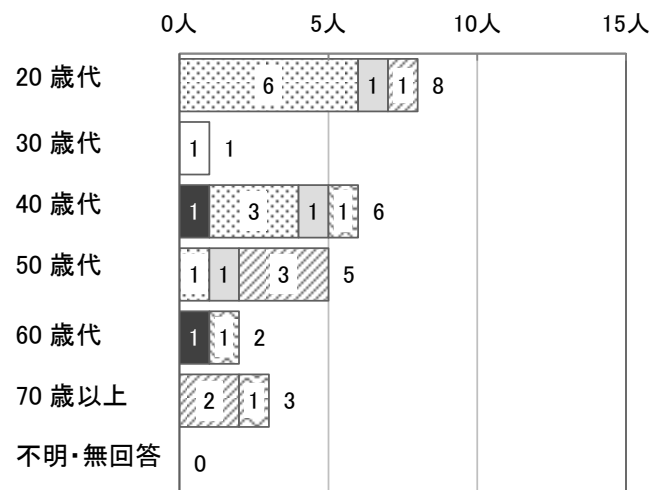
ア 身体障がいのある人・年代別の障がい種・等級人数



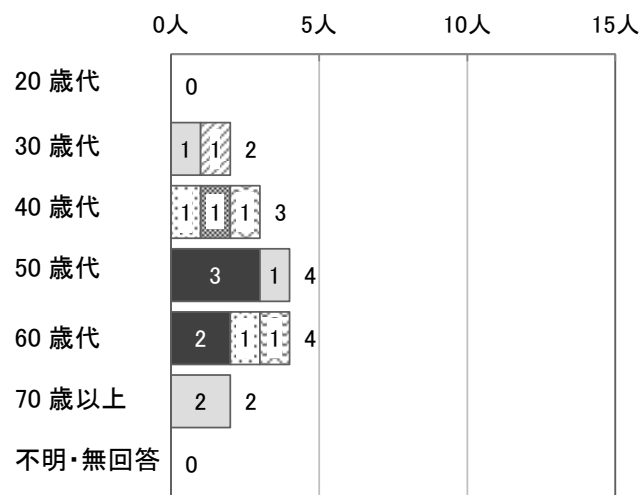
(ア) 視覚障がいのある人



(イ) 聴覚・平衡機能障がいのある人

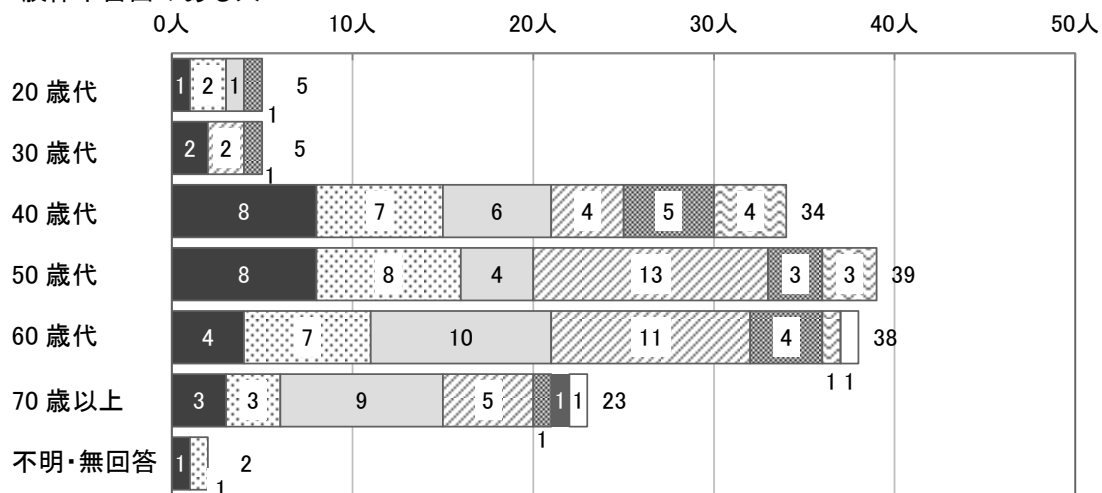


(ウ) 音声・言語・そしゃく機能障がいのある人

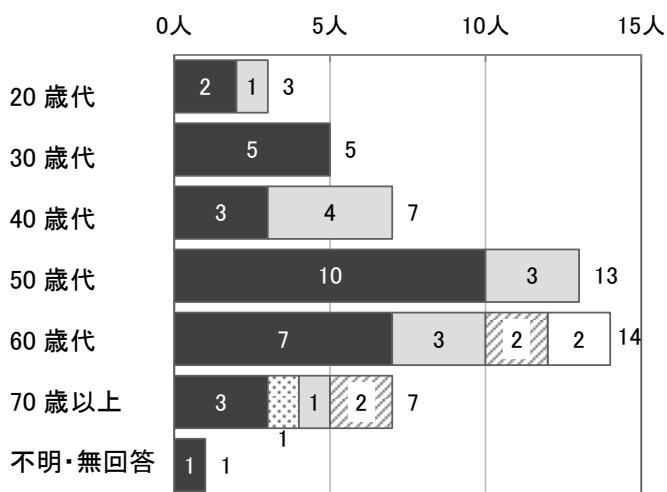


■ 1級 □ 2級 □ 3級 □ 4級 □ 5級 □ 6級 ■ わからない □ 不明・無回答

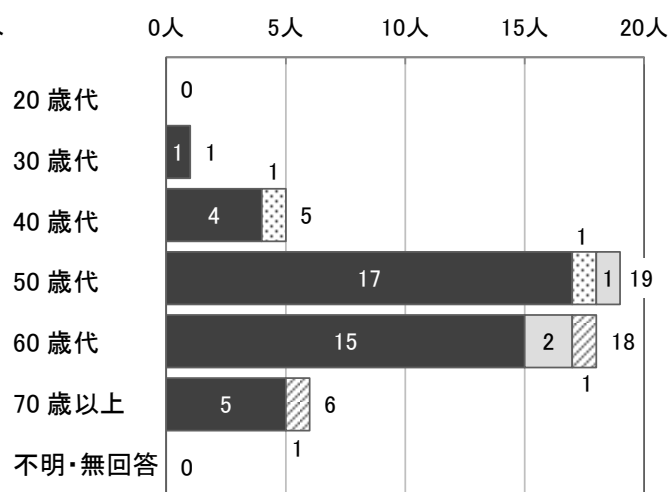
(エ) 肢体不自由のある人



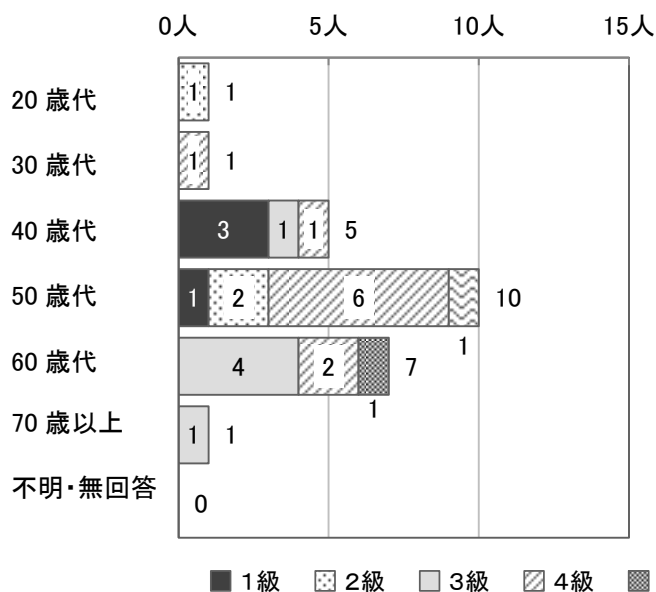
(オ) 心臓機能障がいのある人



(カ) 腎臓機能障がいのある人

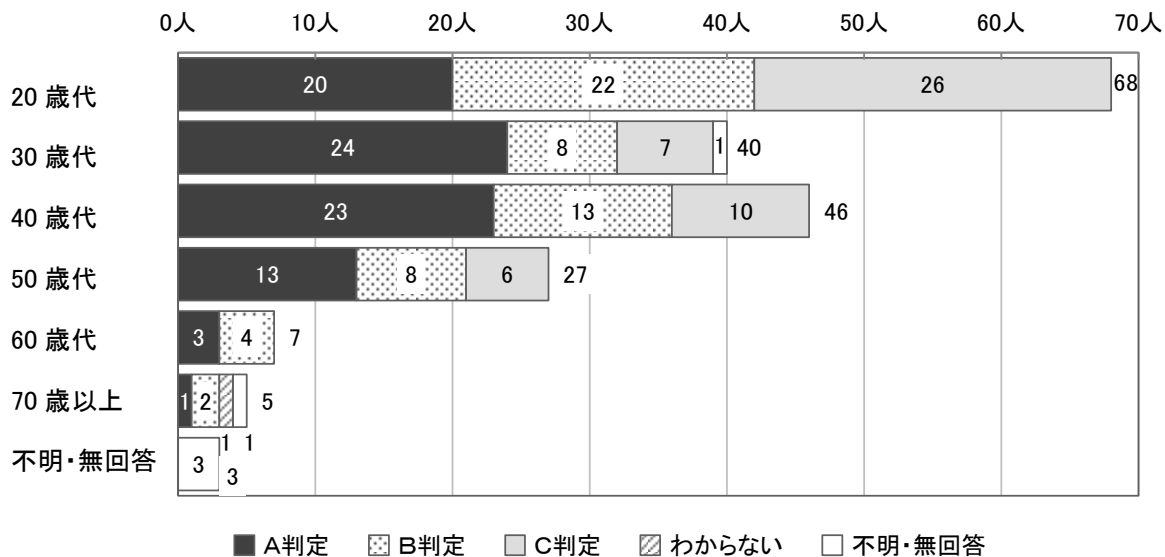


(キ) その他内部障がい（呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓の機能障がいや免疫機能障がい）のある人

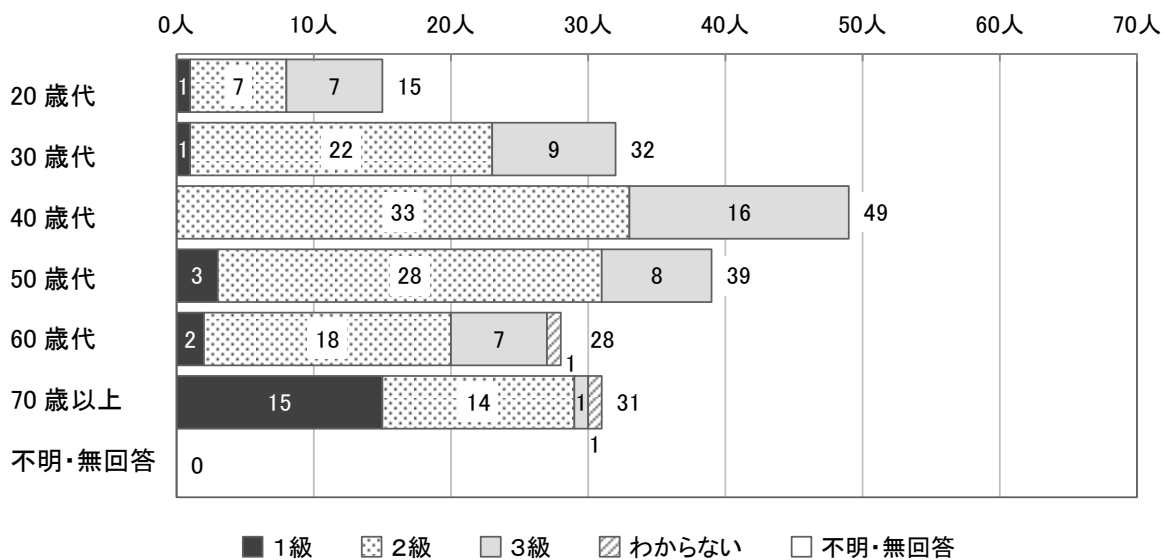


■ 1級 □ 2級 □ 3級 □ 4級 □ 5級 □ 6級 ■ わからない □ 不明・無回答

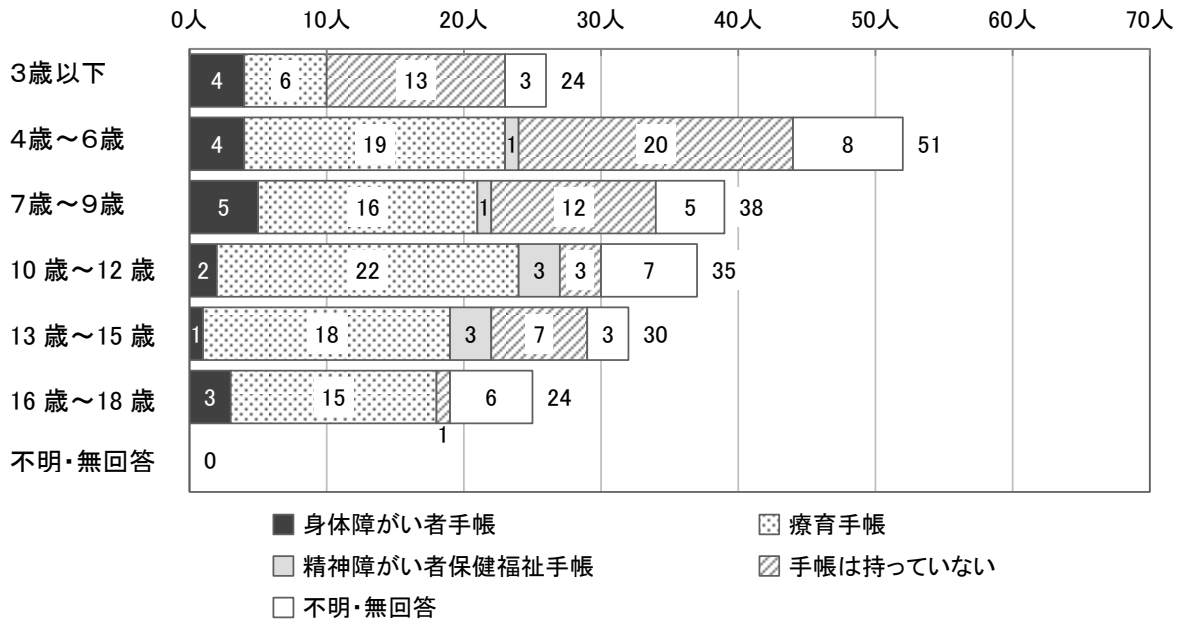
イ 知的障がいのある人・年代別の等級人数



ウ 精神障がいのある人・年代別の等級人数

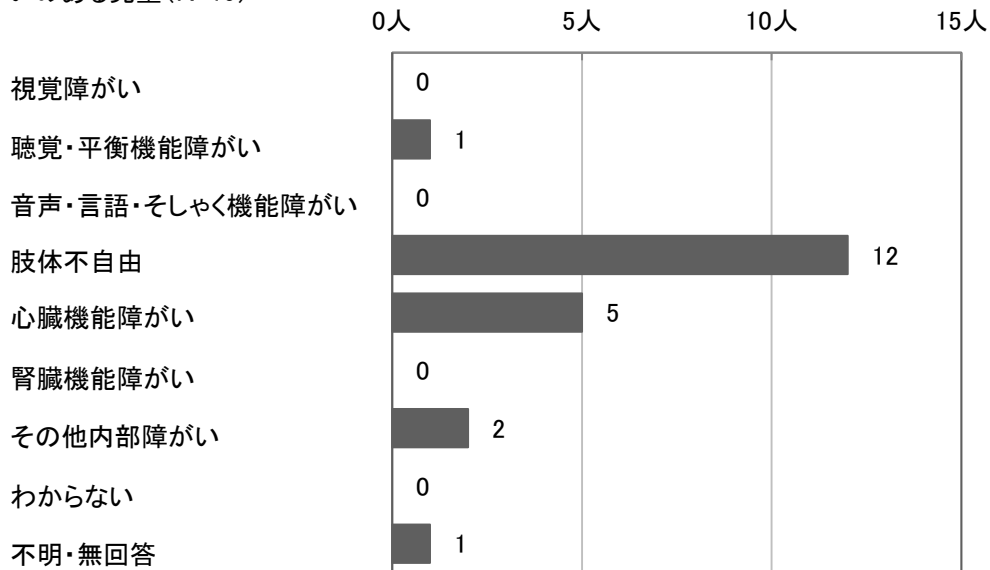


エ 障がいのある児童等・年代別の手帳所持人数



※「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者7名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者2名をそれぞれ含みます。

障がいのある児童 (N=19)



※「療育手帳」との重複者7名を含みます。



(6) 医療助成の対象となっている疾病は何ですか。(記述式回答)

難病問5

「潰瘍性大腸炎」が50人と最も多くなっています。

N=155

病名	人数
潰瘍性大腸炎	50
全身性エリテマトーデス(SLE)	10
クローン病	8
後縦靭帯骨化症	7
膠原病	6
パーキンソン病	6
重症筋無力症	5
サルコイドーシス	4
もやもや病	4
多発性硬化症(NMO)	3
ベーチェット病	3
特発性拡張型心筋症	2
肥大型心筋症	2
強皮症	2
脊髄小脳変成症	2
多発性筋炎	2
多発性のう胞腎	2
強皮症	2
B型肝炎、肝硬変	1
潰瘍性大腸炎、高安動脈炎	1
拡張型心筋症	1
下垂体性TSH分泌亢進	1
間質性肺炎	1
再生不良貧血	1

病名	人数
靭帯骨化症	1
全身型重症筋無力症	1
全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群	1
大腸炎	1
大腸クローン病	1
大動脈血管炎(高安病)	1
骨化症	1
網膜色素変性症	1
非特異性間質性肺炎	1
皮膚筋炎、多発性筋炎	1
ハンチントン病	1
パーキンソン病、脳出血後遺症	1
低ゴナドトロピン性性腺機能低下症	1
天疱そう	1
特発性間質性肺炎	1
特発性血小板減少症紫斑病	1
特発性血小板減少症紫斑病、急性リウマチ	1
特発性大腿骨頭壊死症	1
ネフローゼ症候群、微小変化型	1
脳下垂体機能低下症	1
膿胞性乾癬	1
糖尿病	1
認知症	1
不明・無回答	6

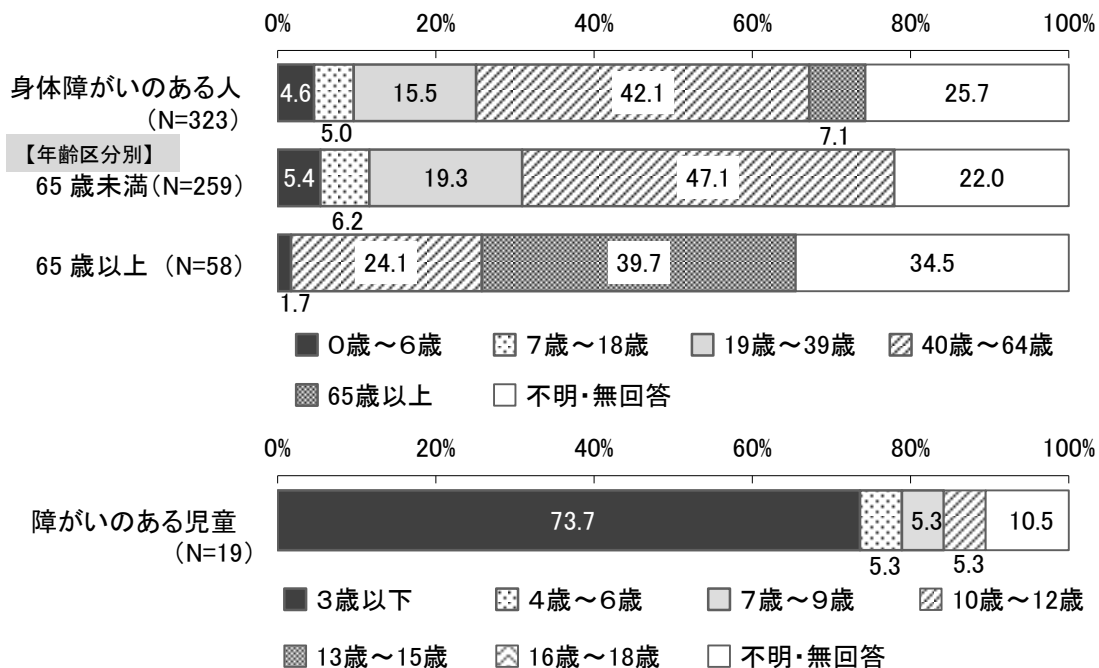
(7) 身体障がい者手帳の交付日を数字で記入してください。

※障がいのある児童では(5)エで「身体障がい者手帳」と答えた方に聞きました

身体問7、児童問6

身体障がい者手帳の交付時の年齢は、身体障がいのある人で「40歳～64歳」の割合が最も高くなっています。

障がいのある児童で「3歳以下」の割合が最も高くなっています。

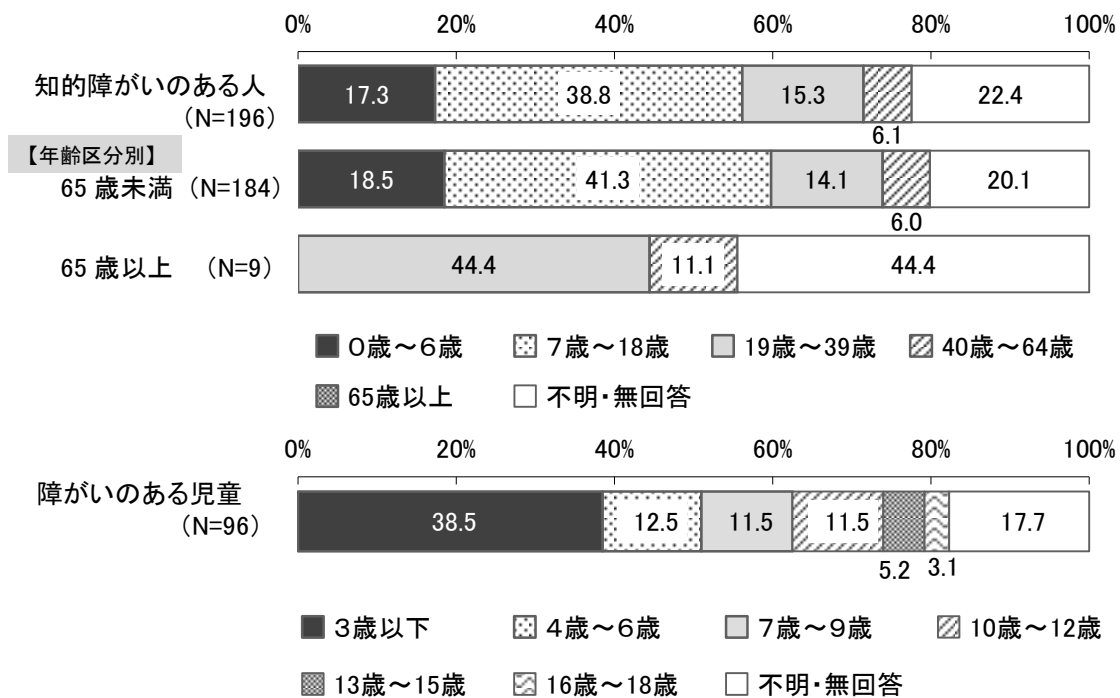


**(8) 療育手帳の交付日を数字で記入してください。**

※障がいのある児童では(5)エで「療育手帳」と答えた方に聞きました

知的問6、児童問8

療育手帳の交付時の年齢は、知的障がいのある人で「7歳～18歳」の割合が最も高くなっています。  
障がいのある児童で「3歳以下」の割合が最も高くなっています。



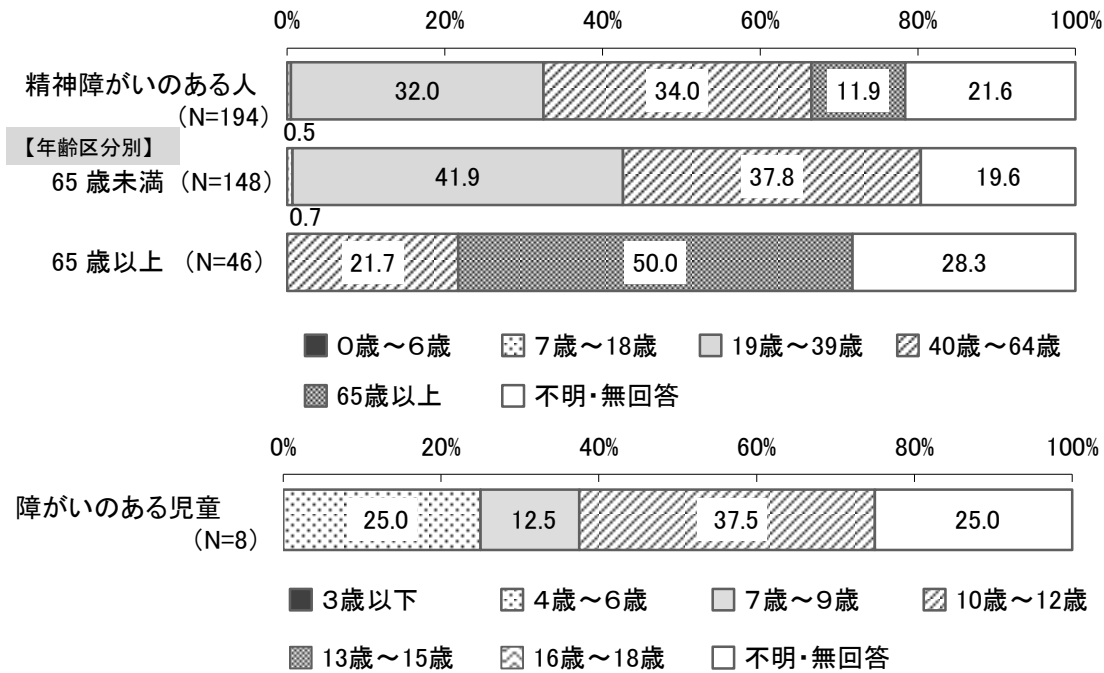
(9) 精神障がい者保健福祉手帳の交付日を数字で記入してください。

※障がいのある児童では(5)エで「精神障がい者保健福祉手帳」と答えた方に聞きました

精神問6、児童問10

精神障がい者保健福祉手帳の交付時の年齢は、精神障がいのある人で「40歳～64歳」の割合が最も高くなっています。

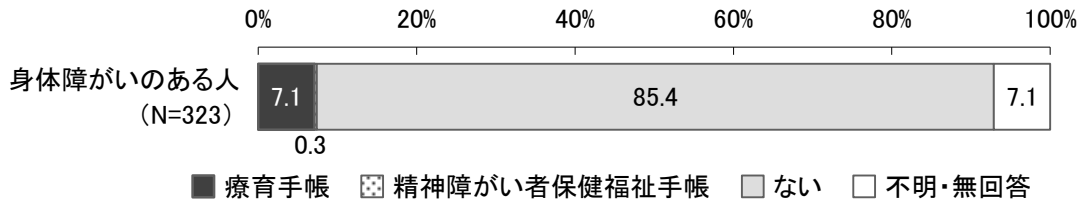
障がいのある児童で「10歳～12歳」の割合が最も高くなっています。



(10) 身体障がい者手帳以外に障がい者手帳をお持ちですか。(複数回答)

身体問 8

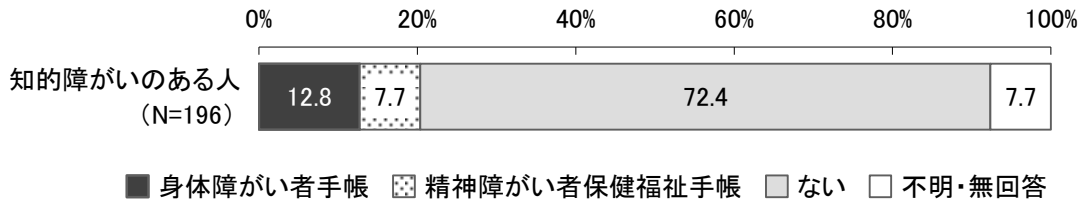
1 割弱の人が「療育手帳」を持っています。



(11) 療育手帳以外に障がい者手帳をお持ちですか。(複数回答)

知的問 7

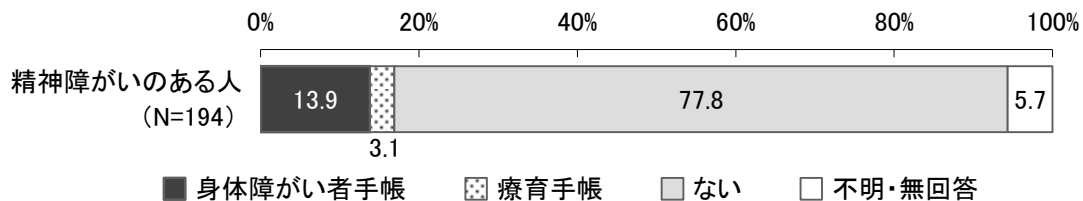
1 割強の人が「身体障がい者手帳」を、1 割弱の人が「精神障がい者保健福祉手帳」を持っています。



(12) 精神障がい者保健福祉手帳以外に障がい者手帳をお持ちですか。(複数回答)

精神問 7

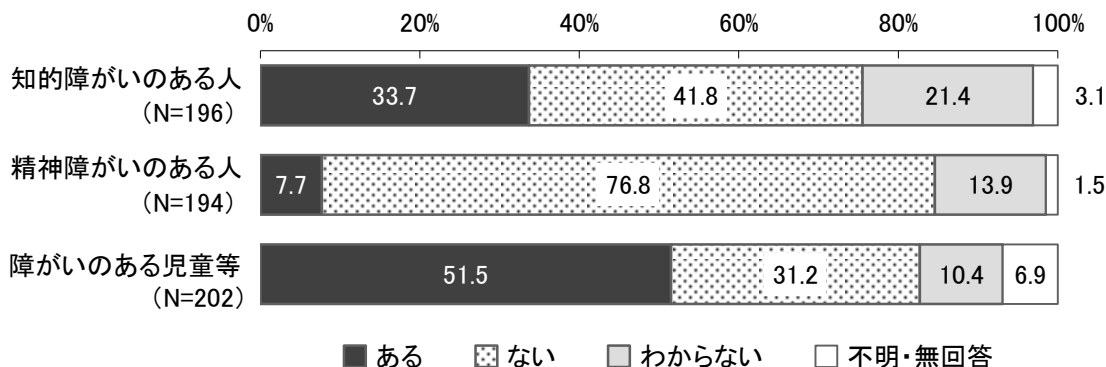
1 割強の人が「身体障がい者手帳」を持っています。



(13) これまで発達障がいとして診断されたことはありますか。

知的問 8、精神問 8、児童問 11

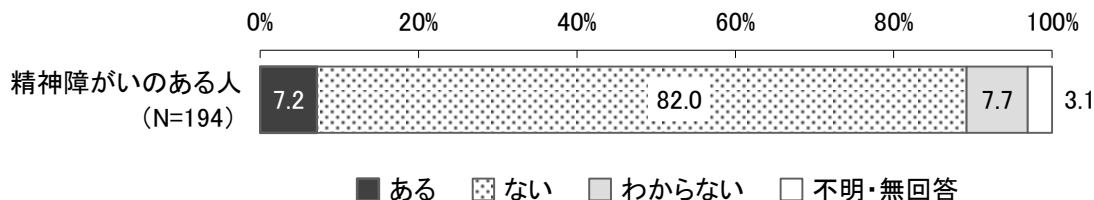
「ある」の割合は知的障がいのある人で3割強、精神障がいのある人で1割弱、障がいのある児童等で5割強となっています。



(14) これまで高次脳機能障がいとして診断されたことはありますか。

精神問 9

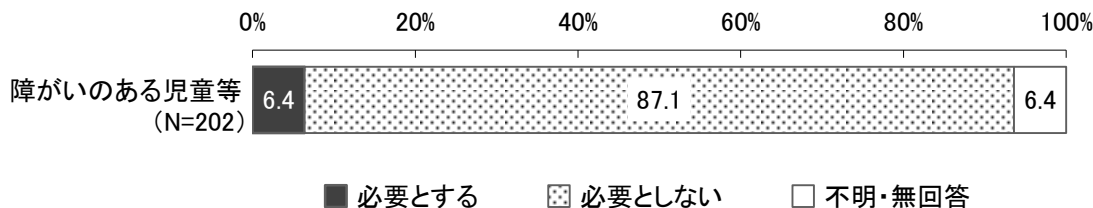
「ある」の割合は1割弱となっています。



(15) お子さんは医療的ケアを必要としますか。

児童問 12

「必要とする」の割合は1割未満となっています。



(16) 障がい福祉サービスの障害支援区分の認定を受けていますか。

身体問 9、知的問 9、精神問 10

知的障がいのある人で5割弱の人が区分認定を受けています。身体障がいのある人で「受けていない」の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

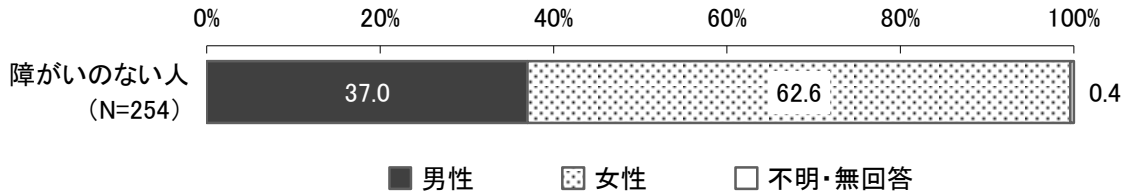
区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	わからない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=323)	0.6	2.5	0.9	1.9	0.3	5.3	49.5	25.4	13.6
知的障がいのある人 (N=196)	0.5	7.7	6.1	8.7	11.2	11.7	21.4	20.9	11.7
精神障がいのある人 (N=194)	0.5	1.0	3.1	1.0	—	—	35.1	49.0	10.3

## 2. 障がいのない人について

### (17) あなたの性別について

一般問 1

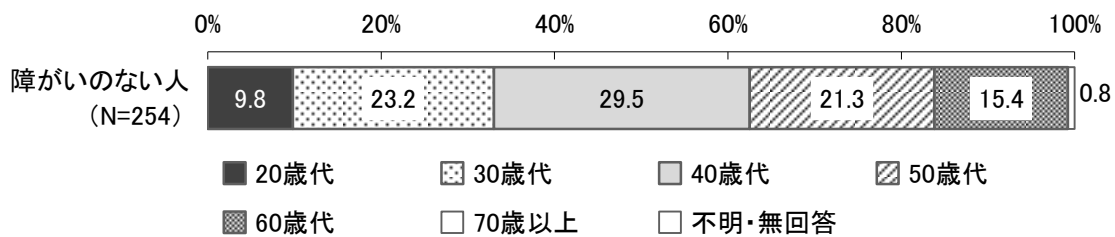
「男性」の割合が4割弱、「女性」の割合が6割強となっています。



### (18) あなたの年齢を数字で記入してください。(平成28年10月1日現在)

一般問 2

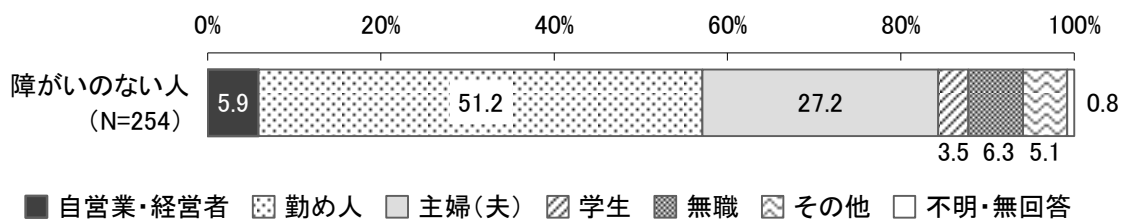
「40歳代」の割合が最も高く、次いで「30歳代」となっています。



### (19) あなたのご職業は何ですか。

一般問 3

「勤め人」の割合が最も高く、次いで「主婦(夫)」となっています。





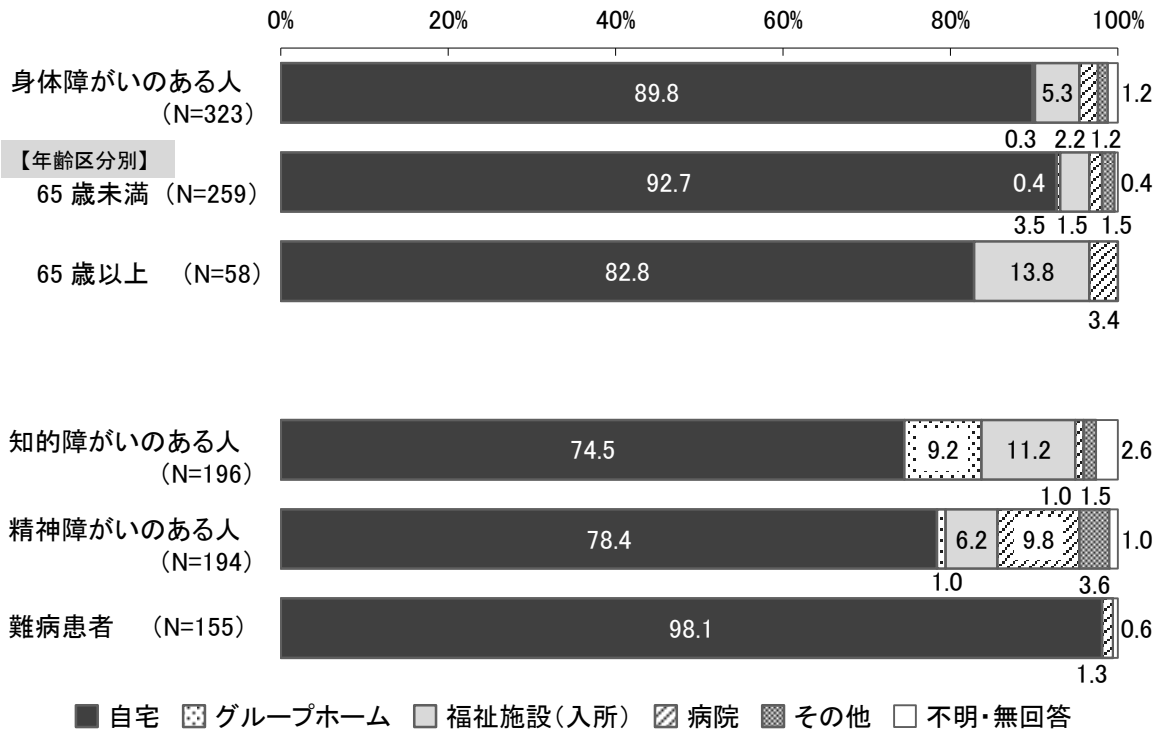
### 3. 日常生活について

#### (20) 今、どこでくらしていますか。

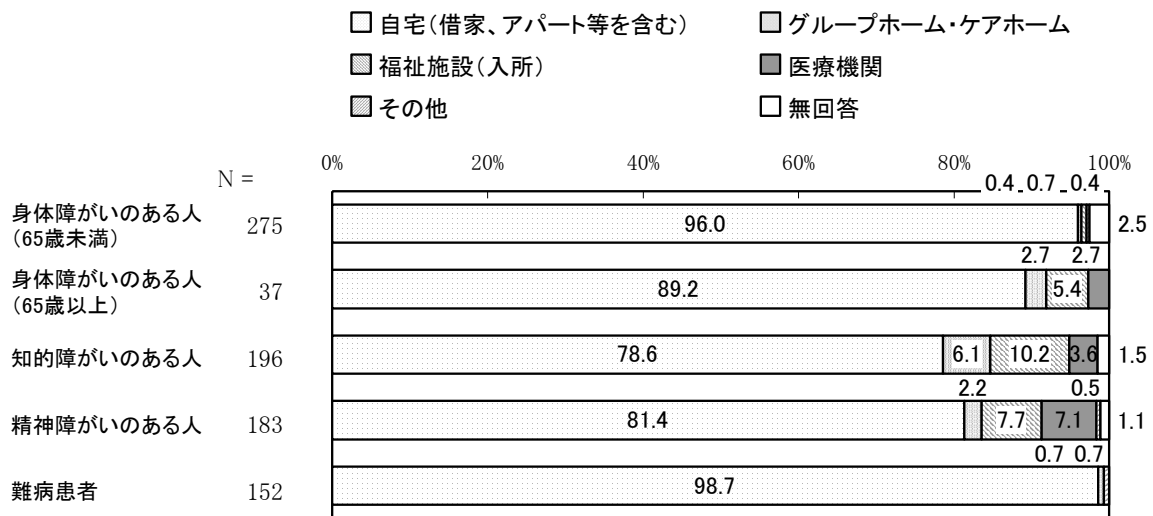
身体問10、知的問10、精神問11、難病問6

障がいのある人すべてで「自宅」の割合が最も高くなっています。

なお、知的障がいのある人で「グループホーム」「福祉施設（入所）」、精神障がいのある人で「病院」の割合が、それぞれ他の障がいと比べて高くなっています。



参考：平成25年度調査結果



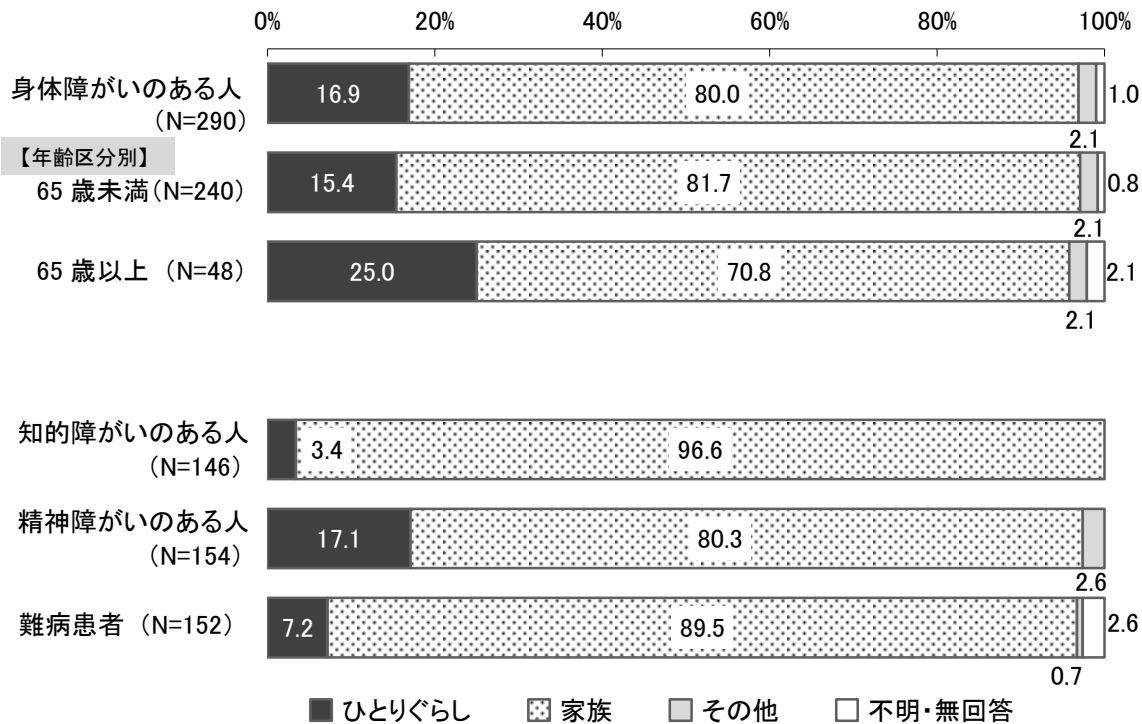
(21) 今、だれと一緒にくらしていますか。(障がいのある児童等のみ複数回答)

※ (20) で「自宅」と答えた方に聞きました

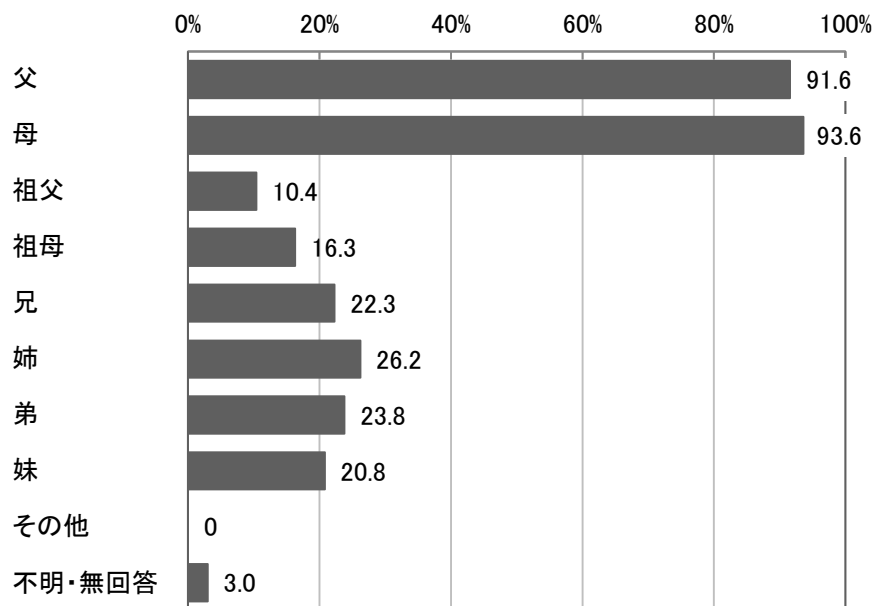
身体問 11、知的問 11、精神問 12、児童問 13、難病問 7

障がいのある人すべてで「家族」の割合が最も高くなっています。

なお、身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「ひとりぐらし」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



障がいのある児童等 (N=202)

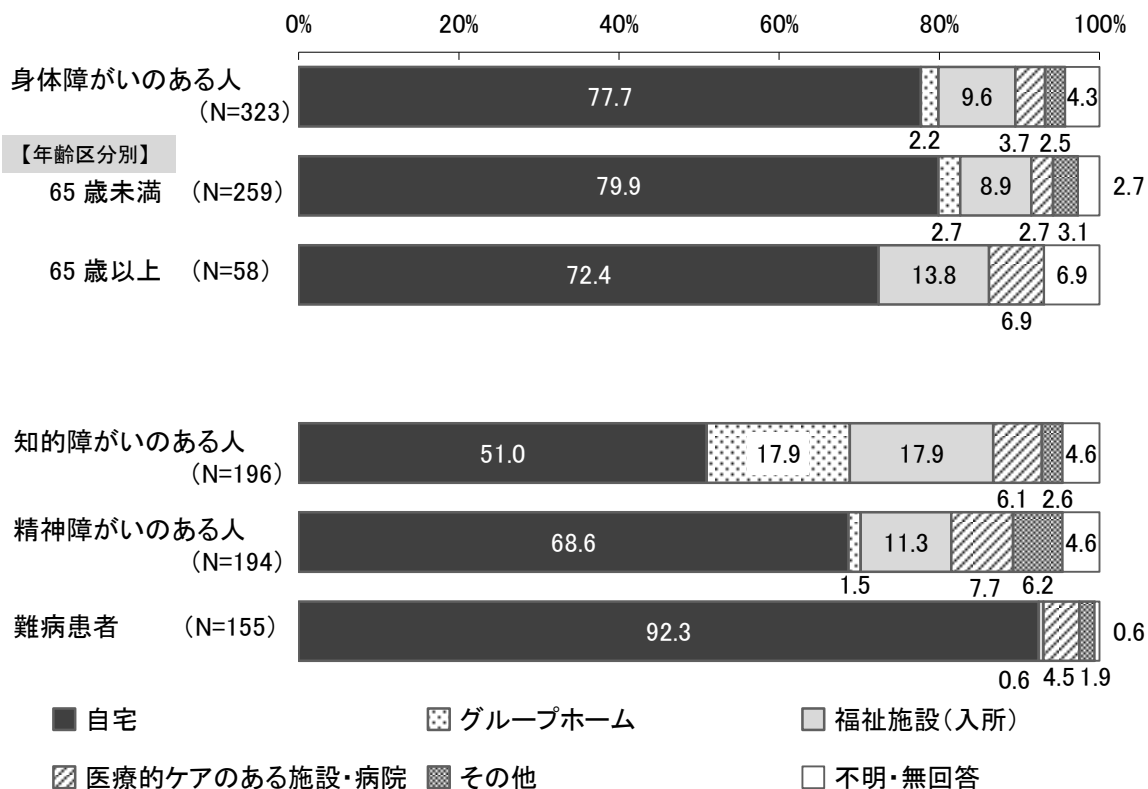


(22) 将来どこでくらしたいですか。

身体問 12、知的問 12、精神問 13 難病問 8

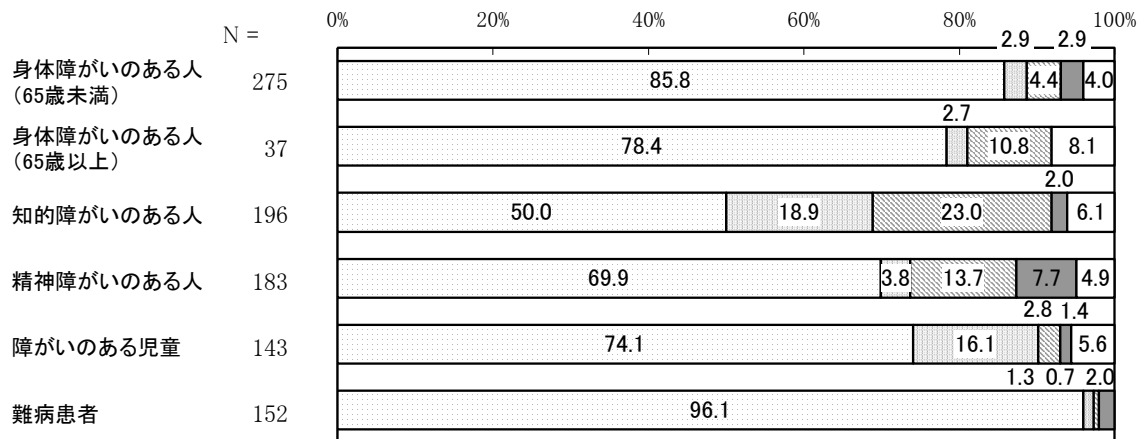
障がいのある人すべてで「自宅」の割合が最も高くなっています。

なお、知的障がいのある人で「グループホーム」「福祉施設（入所）」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果

□ 自宅(借家、アパート等を含む) □ グループホーム・ケアホーム  
 ■ 福祉施設(入所) ■ その他  
 □ 無回答

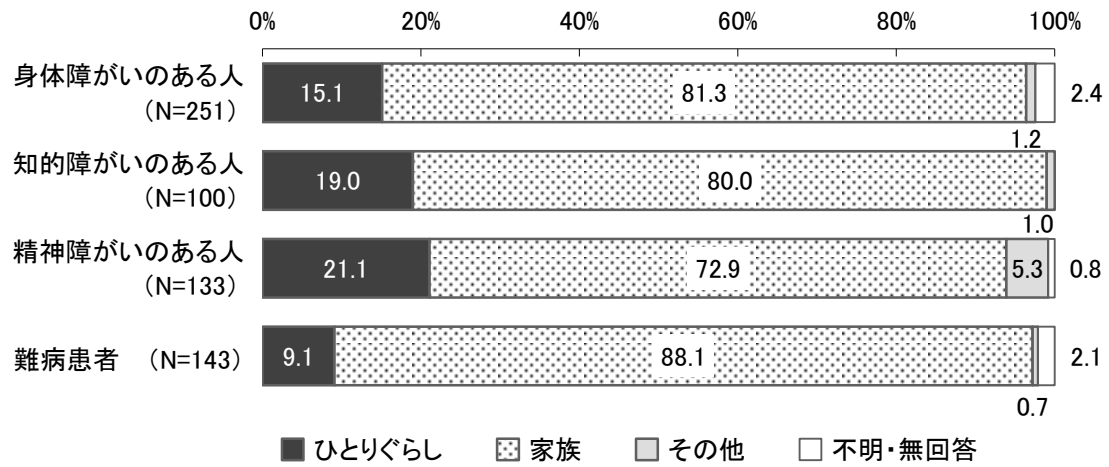


### (23) 将来だれと一緒に住みたいですか。

※ (22) で「自宅」と答えた方に聞きました

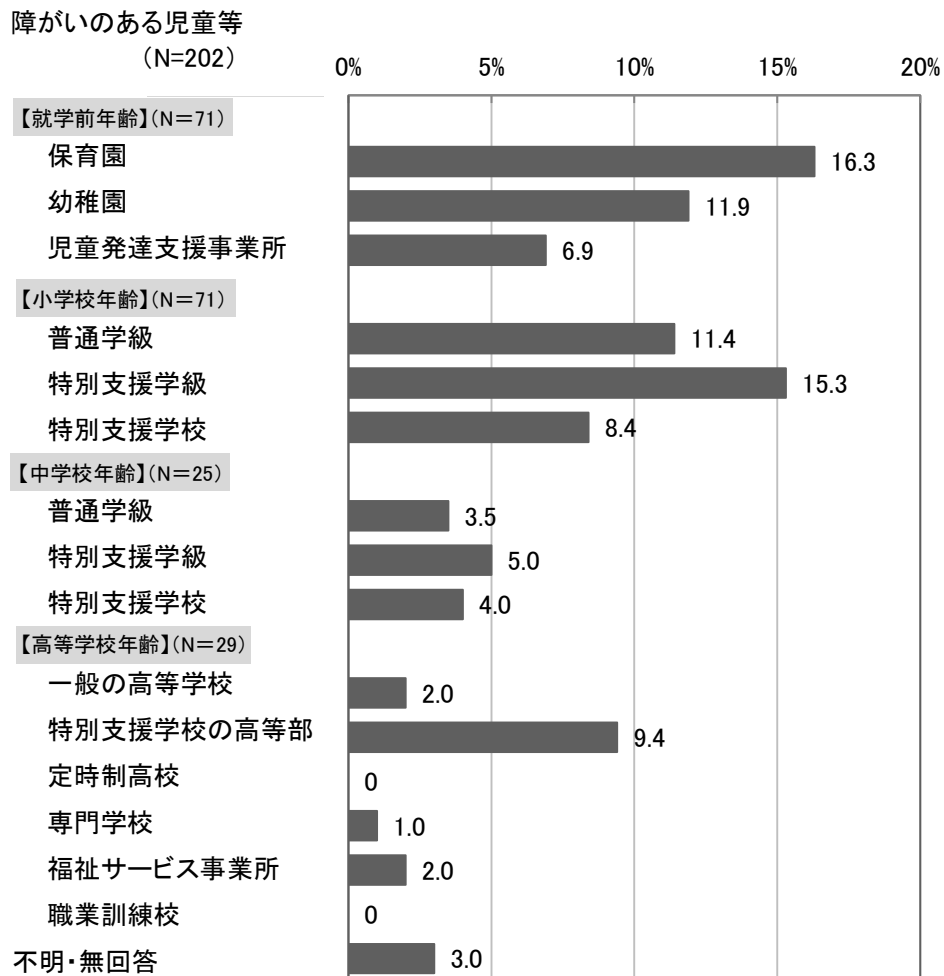
身体問 13、知的問 13、精神問 14 難病問 9

障がいのある人すべてで「家族」の割合が最も高くなっています。



(24) 次のうち、現在はどこに在籍していますか。

就学前年齢で「保育園」、小学校年齢及び中学校年齢で「特別支援学級」、高等学校年齢で「特別支援学校の高等部」の割合が最も高くなっています。



(25) 現在、生活をしていく上で支援がなくて困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

身体問 14、知的問 14、精神問 15、難病問 10

「特にない」を除くと、身体障がいのある人、精神障がいのある人及び難病患者で「急に体調が悪くなったときの対応」、知的障がいのある人で「現金や預金通帳などの管理」の割合が最も高くなっています。

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	(65歳未満)	(65歳以上)				
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	155
1位	特にない (55.1)	特にない (57.1)	特にない (50.0)	現金や預金通帳などの管理 (42.3)	特にない (36.1)	特にない (61.3)
2位	急に体調が悪くなった時の対応 (18.6)	急に体調が悪くなった時の対応 (18.1)	急に体調が悪くなった時の対応 (20.7)	銀行や郵便局・役所の利用 (37.8)	急に体調が悪くなった時の対応 (25.8)	急に体調が悪くなった時の対応 (21.3)
3位	電車・バスなど交通機関の利用 (13.3)	電車・バスなど交通機関の利用 (11.6)	電車・バスなど交通機関の利用 (20.7)	急に体調が悪くなった時の対応 (35.7)	話し相手・相談する相手 (23.2)	電車・バスなど交通機関の利用 (9.7)
4位	買い物 (9.6)	食事の準備や調理 (8.1)	買い物 (17.2)	部屋の掃除・整理整頓 (34.2)	部屋の掃除・整理整頓 (20.1)	日常の健康管理 (5.8)
5位	部屋の掃除・整理整頓 (8.4)	電話の利用 (8.1)	銀行や郵便局・役所の利用 (13.8)	食事の準備や調理 (31.1)	規則正しい生活 (20.1)	買い物 (5.2)
				日常の健康管理 (31.1)		話し相手・相談する相手 (5.2)

参考：平成 25 年度調査結果

単位：%

	身体障がいのある人 (65歳未満)	身体障がいのある人 (65歳以上)	知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
有効回答数(件)	275	37	196	183	152
1位	特にない (54.2)	特にない (43.2)	特にない (36.2)	特にない (36.1)	特にない (68.4)
2位	急に体調が悪くなったときの対応 (18.5)	急に体調が悪くなったときの対応 (16.2)	急に体調が悪くなったときの対応 (31.1)	急に体調が悪くなったときの対応 (27.3)	急に体調が悪くなったときの対応 (16.4)
3位	電車・バスなど交通機関の利用 (13.1)	電車・バスなど交通機関の利用 (16.2)	銀行や郵便局・役所の利用 (30.6)	近所の人との会話やつきあい (24.0)	日常の健康管理 (5.9)
4位	部屋の掃除・整理整頓 (9.8)	食事 (13.5)	現金や預金通帳などの管理 (27.6)	規則正しい生活 (22.4)	電車・バスなど交通機関の利用 (5.3)
5位	食事の準備や調理 (8.4)	食事の準備や調理 (13.5)	食事の準備や調理 (25.5)	部屋の掃除・整理整頓 (19.7)	部屋の掃除・整理整頓 (3.9)

(26) 日常の生活費はどうしていますか。(複数回答)

身体問 15、知的問 15、精神問 16、難病問 11

65歳未満の身体障がいのある人及び難病患者は「賃金・給料など」、他の障がいのある人は「年金」の割合がそれぞれ最も高くなっています。65歳以上の身体障がいのある人を除いて、「家族の収入」の割合も上位となっています。

(単位：%)

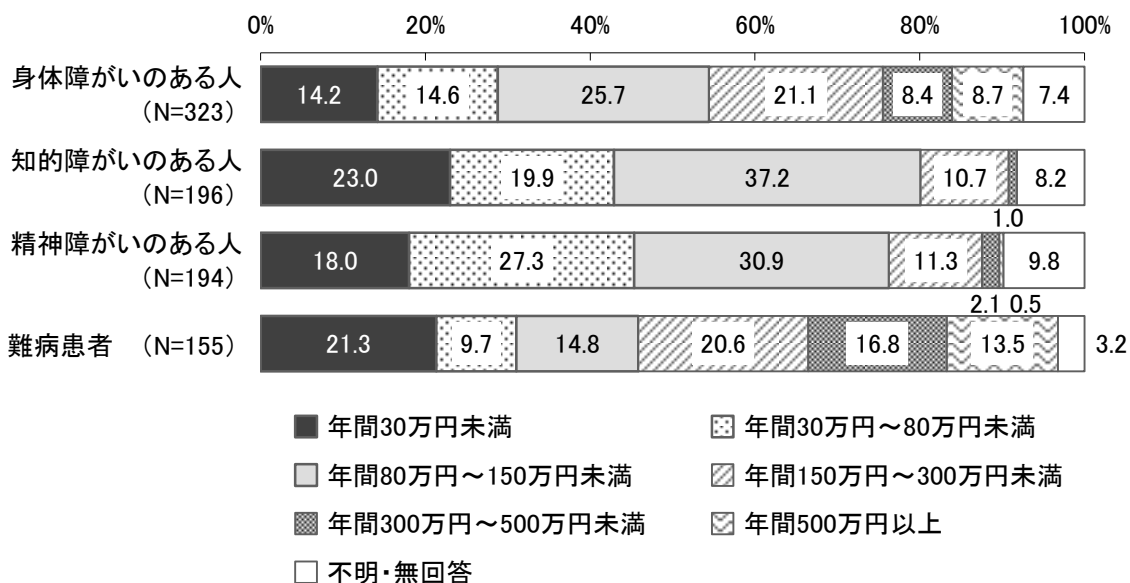
区分	給料など 賃金・	年金	家族の 収入	預金	生活保護	その他	無回答・ 不明
身体障がいのある人 (N=323)	35.9	50.5	37.2	14.6	5.0	2.5	0.9
65歳未満 (N=259)	42.9	39.8	42.1	12.0	4.6	2.7	1.2
65歳以上 (N=58)	3.4	98.3	15.5	25.9	5.2	—	—
知的障がいのある人 (N=196)	33.2	55.6	50.5	8.7	5.1	1.5	2.0
精神障がいのある人 (N=194)	24.2	57.2	37.6	14.4	10.3	6.2	2.1
難病患者 (N=155)	51.0	29.7	40.6	13.5	2.6	1.9	1.3

(27) 今のあなたの収入(税込みの総収入)は、1年にどのくらいありますか。

※収入には工賃及び年金を含みます

身体問 16、知的問 16、精神問 17、難病問 12

知的障がいのある人及び精神障がいのある人で「年間80万円未満(年間30万円未満と年間30万円～80万円未満の合計)」の割合が高くなっています。

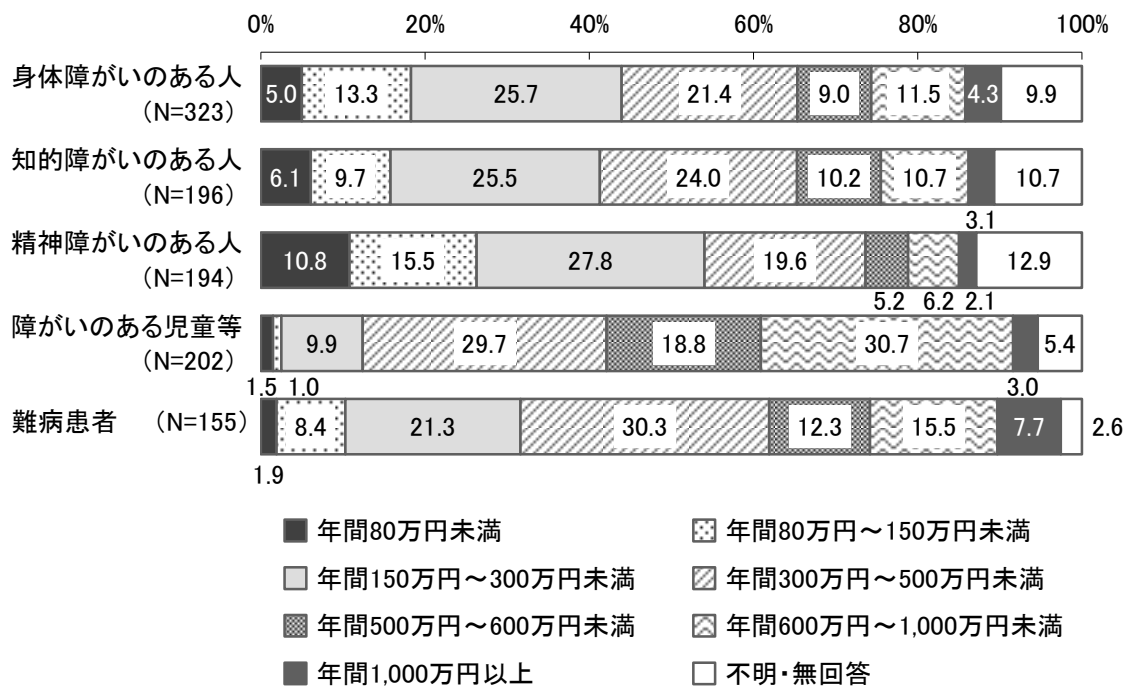


(28) 今のあなたの世帯収入(税込みの総収入)は、1年にどのくらいありますか。

※収入には工賃及び年金を含みます

身体問 17、知的問 17、精神問 18、児童問 15、難病問 13

精神障がいのある人で「年間 150 万円未満 (年間 80 万円未満と年間 80 万円～150 万円未満の合計)」の割合が高くなっています。

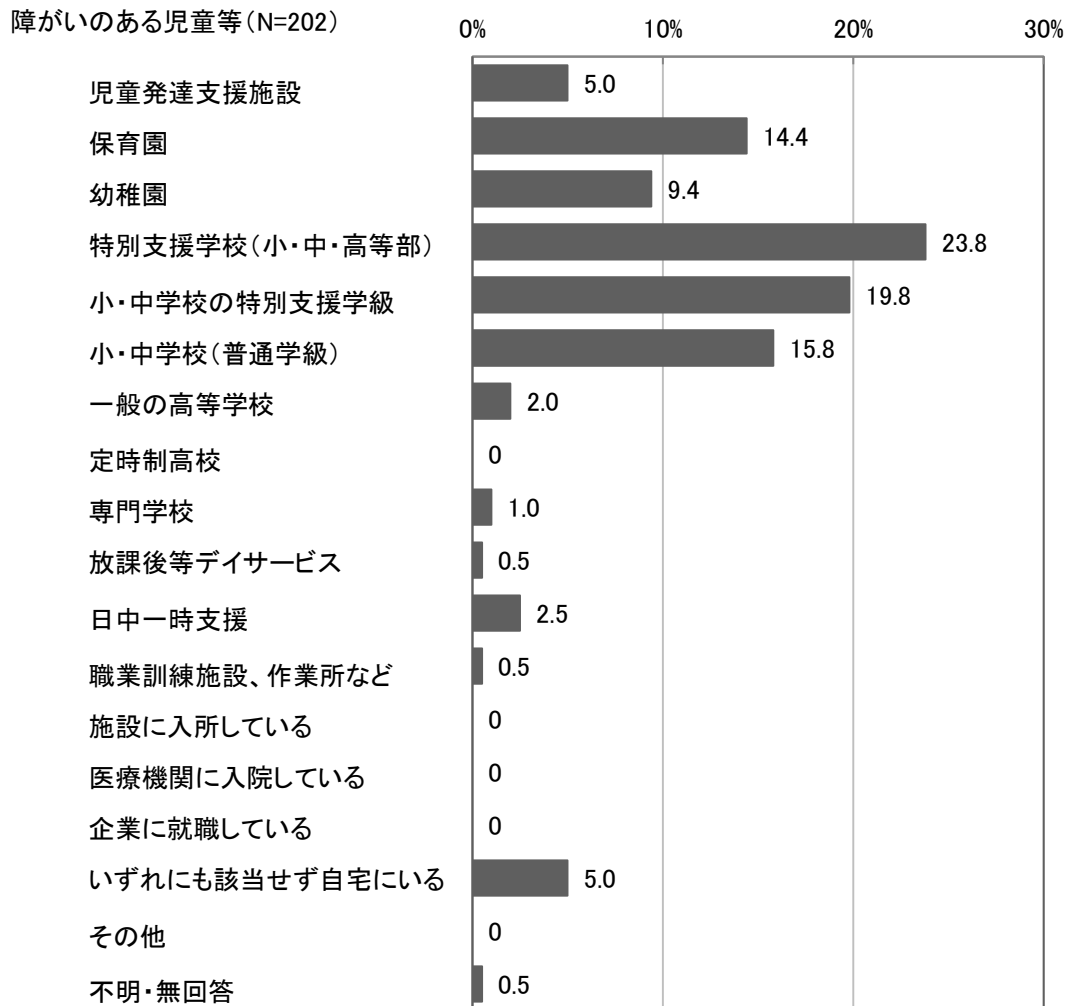




## (29) 現在のお子さんの主な日中の居場所について

児童問 20

「特別支援学校（小・中・高等部）」の割合が最も高く、次いで「小・中学校の特別支援学級」となっています。



【障がいのある児童等・手帳別クロス】

(単位：%)

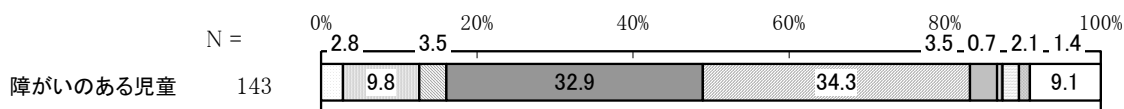
区分	児童発達支援施設	保育園	幼稚園	特別支援学校 (小・中・高等部)	別支援学級	小・中学校の特 学級	小・中学校(普通 学級)	一般の高等学校	定時制高校	専門学校	放課後等デ ィサービス
身体障がい者手帳 (N=19)	—	15.8	5.3	10.5	—	26.3	5.3	—	—	—	—
療育手帳 (N=96)	4.2	13.5	1.0	36.5	29.2	4.2	1.0	—	1.0	1.0	
精神障がい者保健福祉手帳 (N=8)	—	12.5	—	—	62.5	25.0	—	—	—	—	
手帳は持っていない (N=56)	7.1	16.1	26.8	1.8	7.1	30.4	3.6	—	—	—	

区分	日中一時支援	職業訓練施設、 作業所など	施設に入所して いる	医療機関に入院 している	企業に就職して いる	いずれにも該当 せず自宅にいる	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳 (N=19)	21.1	—	—	—	—	15.8	—	—
療育手帳 (N=96)	4.2	1.0	—	—	—	2.1	—	1.0
精神障がい者保健福祉手帳 (N=8)	—	—	—	—	—	—	—	—
手帳は持っていない (N=56)	—	—	—	—	—	7.1	—	—

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者7名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者2名をそれぞれ含みます。

参考：平成25年度調査結果

- 児童発達支援施設
- 幼稚園
- 普通学校(特別支援学級も含む)
- 職業訓練施設、作業所など
- 医療機関に入院している
- いずれにも該当せず自宅にいる
- 無回答
- 保育所
- 特別支援学校(養護学校など)
- 放課後等ディサービス
- 施設に入所している
- 企業に就職している
- その他

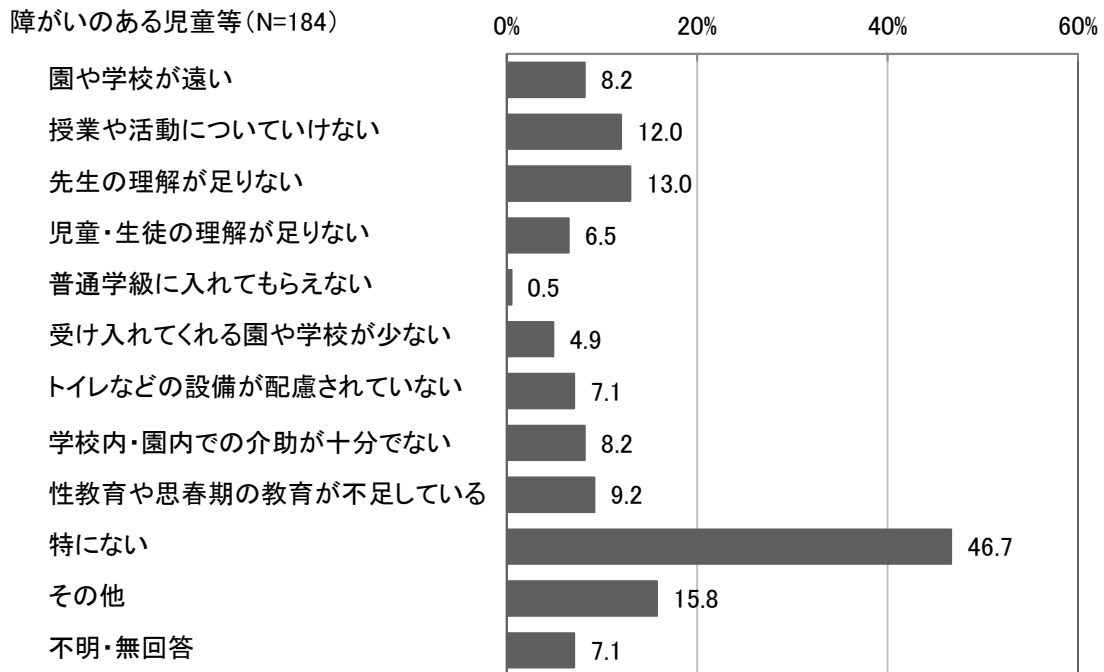


(30) お子さんが困っていることは何かありますか。(複数回答)

※ (29) で「通所・通園・通学している」と答えた方に聞きました

児童問 21

「特にない」「その他」を除くと、「先生の理解が足りない」の割合が最も高く、次いで「授業や活動についていけない」となっています。



[主な「その他」の内容]

内容
医療的ケアや定期的に薬を飲むことが必要
学校の老朽化や施設が不十分、教室の不足

【障がいのある児童等・手帳別クロス】

(単位：%)

区分	園や学校が遠い	授業や活動についていけない	先生の理解が足りない	児童・生徒の理解が足りない	普通学級に入れても られない	受け入れてくれる園 や学校が少ない	トイレなどの設備が 配慮されていない	学校内・園内での介 助が十分でない	性教育や思春期の 教育が不足している	特 に ない
身体障がい者手帳 (N=12)	16.7	—	—	—	—	—	16.7	16.7	8.3	41.7
療育手帳 (N=87)	11.5	12.6	14.9	8.0	—	5.7	10.3	11.5	14.9	40.2
精神障がい者保健福祉手帳(N=8)	—	12.5	50.0	37.5	—	—	12.5	—	12.5	12.5
手帳は持っていない (N=52)	1.9	13.5	7.7	1.9	—	1.9	1.9	1.9	1.9	57.7

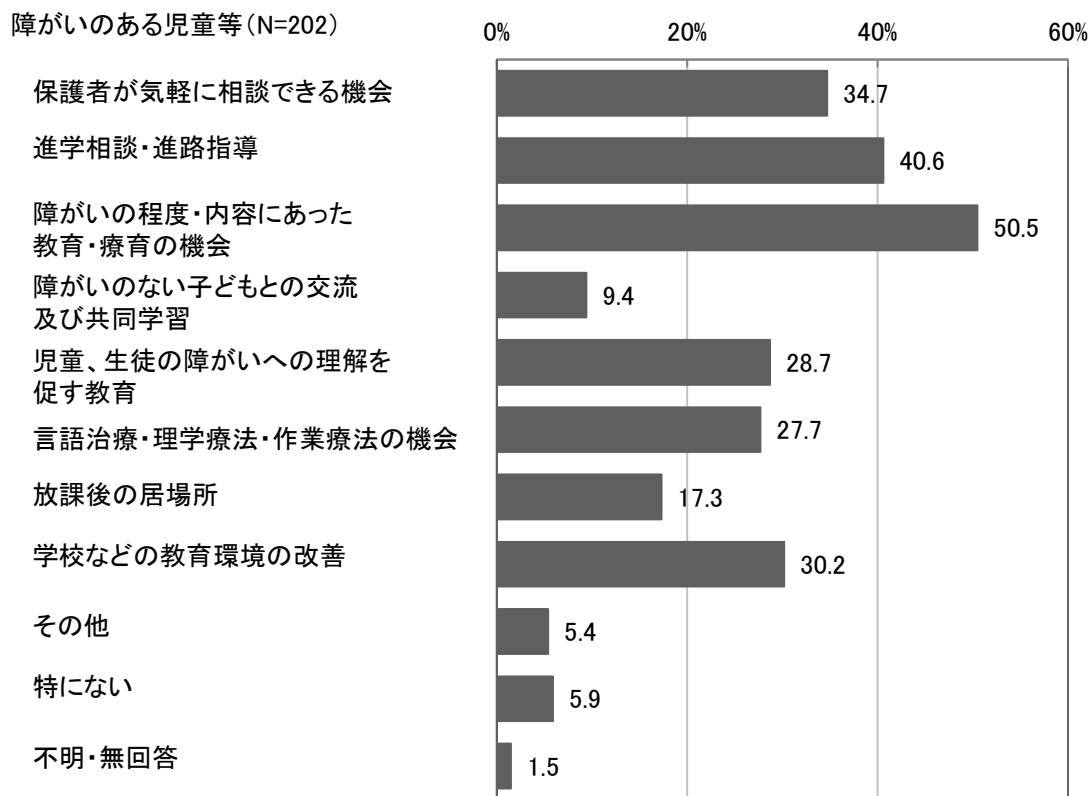
区分	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳 (N=12)	25.0	8.3
療育手帳 (N=87)	17.2	5.7
精神障がい者保健福祉手帳(N=8)	37.5	—
手帳は持っていない (N=52)	7.7	13.5

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者7名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者2名をそれぞれ含みます。

(31) 今後、障がいのある子どもの支援について、充実させてほしいものは何ですか。(複数回答)

児童問 23

「障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会」の割合が最も高く、次いで「進学相談・進路指導」となっています。なお、手帳は持っていない児童で「保護者が気軽に相談できる機会」の割合が手帳を持っている児童と比べて高くなっています。



【障がいのある児童等・手帳別クロス】

(単位：%)

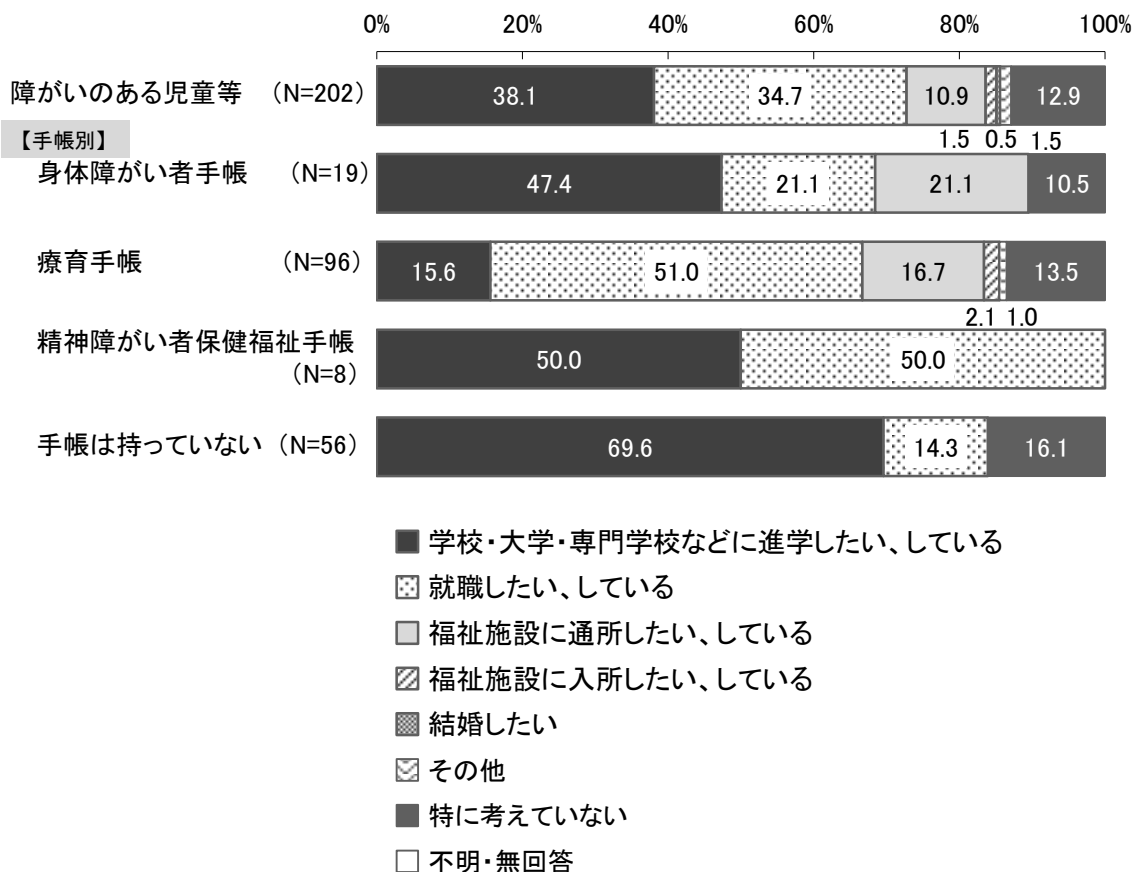
区分	保護者が気軽に相談できる機会	進学相談・進路指導	障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会	障がいのない子どもとの交流及び共同学習	児童、生徒の障がいへの理解を促す教育	言語治療・理学療法・作業療法の機会	放課後の居場所	学校などの教育環境の改善	その他	特にない	不明・無回答
身体障がい者手帳 (N=19)	31.6	52.6	31.6	15.8	36.8	21.1	10.5	36.8	5.3	—	5.3
療育手帳 (N=96)	28.1	40.6	54.2	14.6	30.2	36.5	15.6	35.4	6.3	3.1	1.0
精神障がい者保健福祉手帳 (N=8)	25.0	50.0	50.0	—	25.0	25.0	12.5	37.5	25.0	—	—
手帳は持っていない (N=56)	48.2	35.7	44.6	1.8	30.4	14.3	21.4	23.2	7.1	10.7	—

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者7名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者2名をそれぞれ含みます。

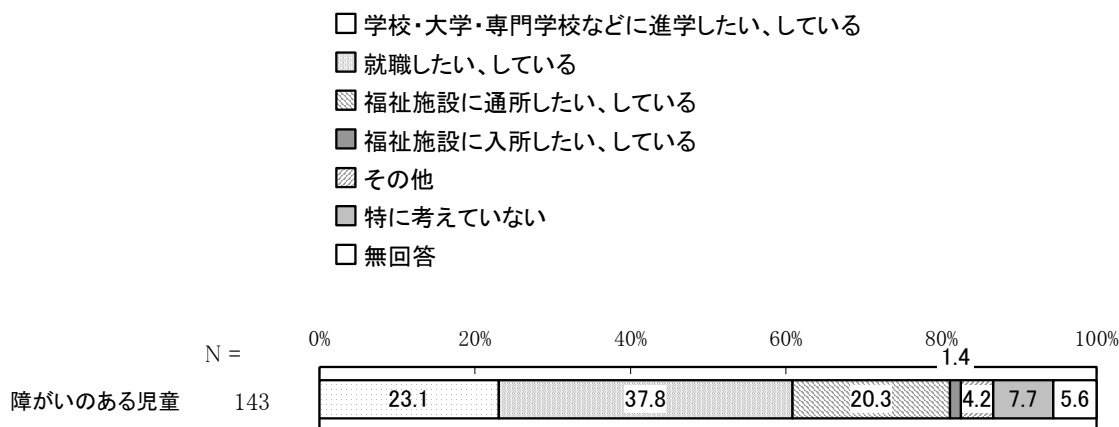
(32) お子さんが18歳になったときのことについて本人の気持ちになってお答えください。

児童問 24

全体的には、「学校・大学・専門学校などに進学したい、している」の割合が最も高く、次いで「就職したい、している」となっています。なお、療育手帳を持っている児童で「就職したい、している」の割合が最も高く、5割強となっています。

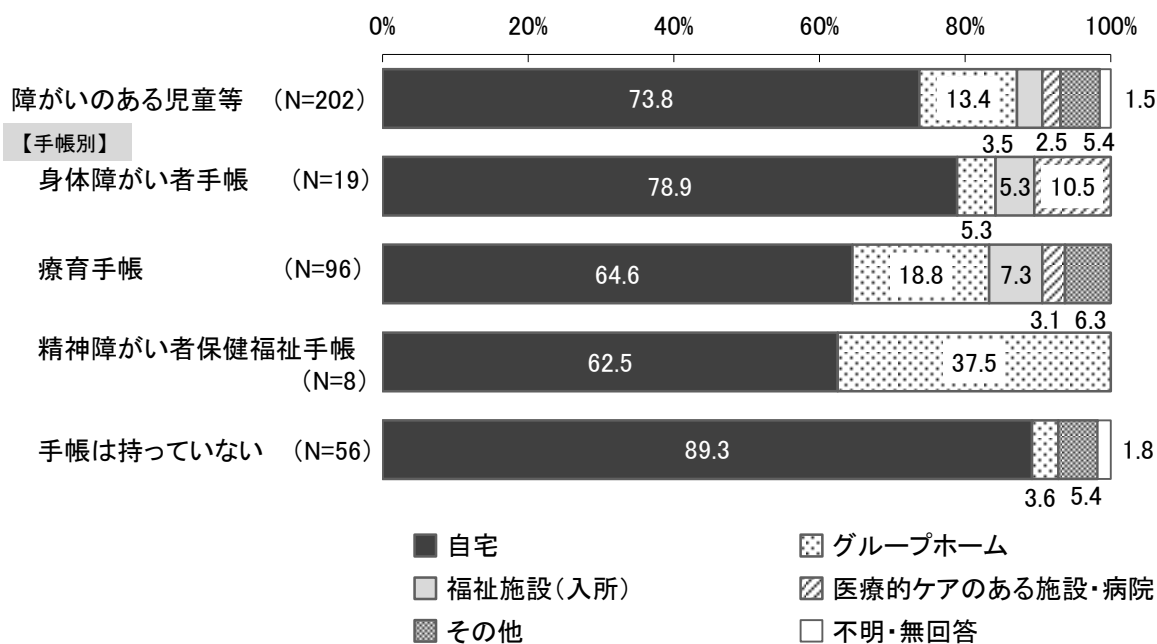


参考：平成 25 年度調査結果

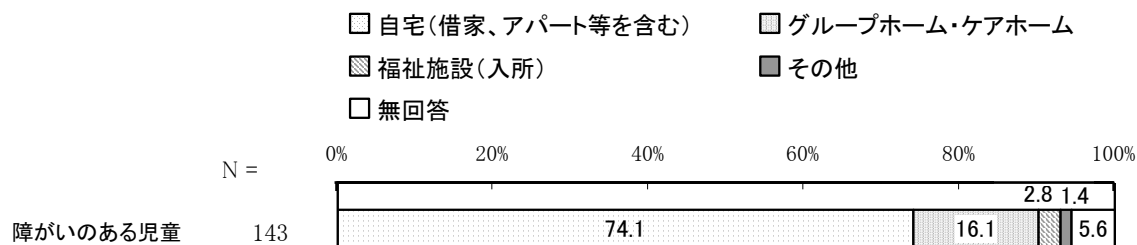


(33) お子さんが大人になったらどこでくらしてもらいたいですか。

全体的には、「自宅」の割合が最も高く、次いで「グループホーム」となっています。



参考：平成 25 年度調査結果

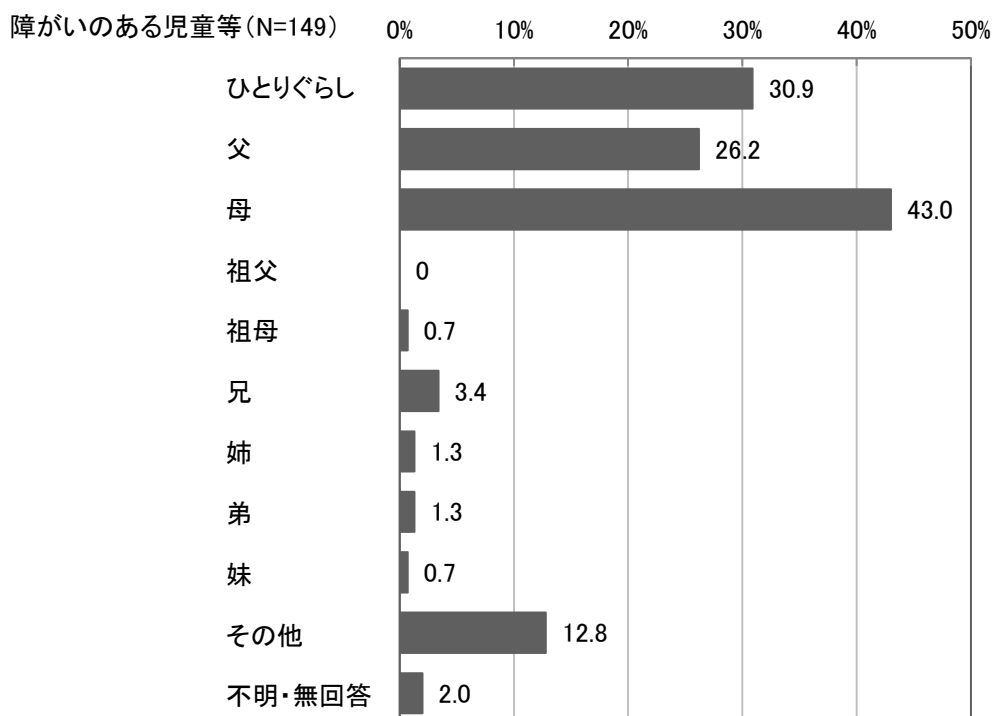


(34) 大人になったらだれと一緒に暮らしをもらいたいですか。

※ (33) で「自宅」と答えた方に聞きました

児童問 26

「母」の割合が最も高く、次いで「ひとりぐらし」「父」となっています。



※複数回答した人もいます

【障がいのある児童等・手帳別クロス】

(単位：%)

区分	ひとりぐらし	父	母	祖父	祖母	兄	姉	弟	妹	その他	不明・無回答
障がいのある児童等 (N=149)	30.9	26.2	43.0	—	0.7	3.4	1.3	1.3	0.7	12.8	2.0
身体障がい者手帳 (N=15)	20.0	6.7	60.0	—	—	—	—	—	—	20.0	—
療育手帳 (N=62)	17.7	29.0	48.4	—	—	6.5	3.2	1.6	—	9.7	1.6
精神障がい者保健福祉手帳 (N=5)	60.0	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—	20.0	—
手帳は持っていない (N=50)	46.0	24.0	34.0	—	—	—	—	—	—	12.0	4.0

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者7名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者2名をそれぞれ含みます。



## 4. 相談について

### (35) 悩みや困ったことを相談する相手は誰ですか。(複数回答)

身体問 22、知的問 22、精神問 24、児童問 27、難病問 18

障がいのある人等すべてで「家族」の割合が最も高くなっています。

なお、障がいのある児童等で「同じ障がいのある子どもを育てている友人・知人」の割合が5割強となっています。

(単位：%)

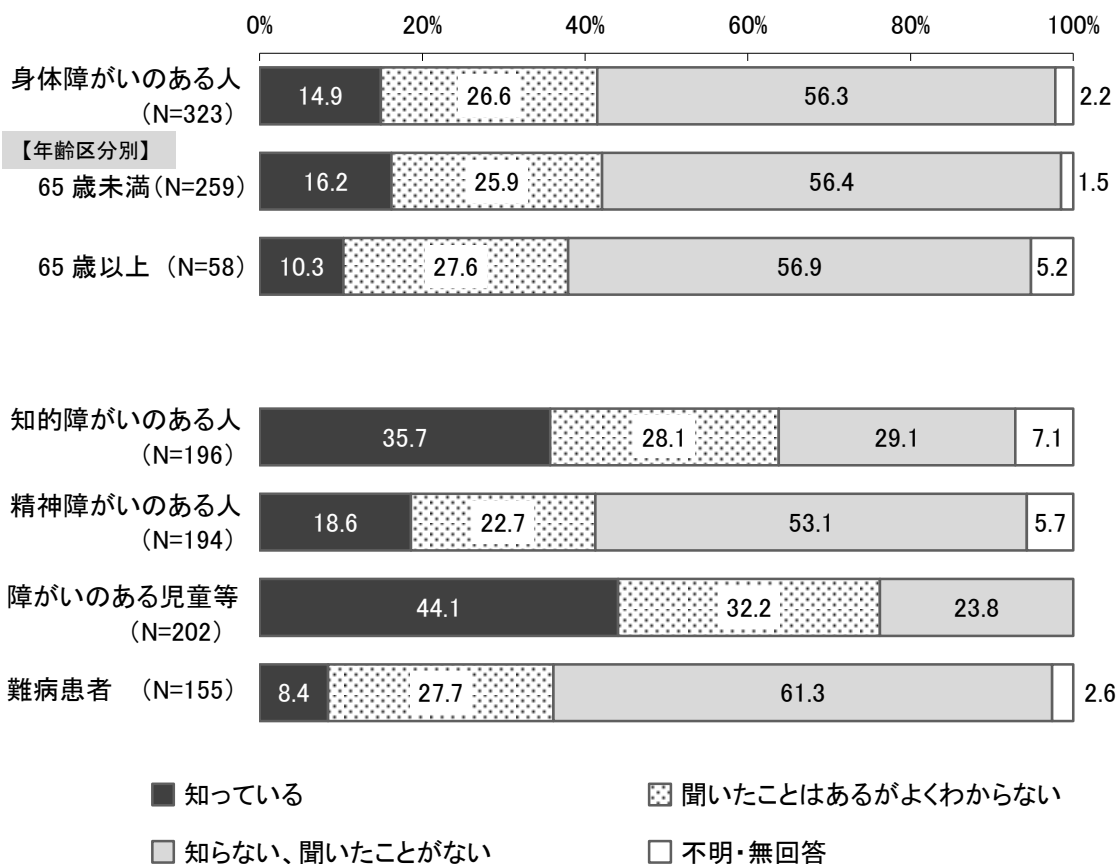
区分	家族	同じ障がいがある友人知人	左記以外の友人知人	機関 病院などの医療	職員 施設や事業所の	市の窓口	相談支援センター	身体障がい者相談員	先生 学校や保育園の
身体障がいのある人 (N=323)	77.4	14.2	23.2	17.6	12.4	7.7	5.0	1.9	
65歳未満 (N=259)	75.3	16.2	25.9	17.0	9.7	8.1	3.9	1.9	
65歳以上 (N=58)	87.9	5.2	12.1	19.0	22.4	6.9	8.6	—	
知的障がいのある人 (N=196)	74.5	15.3	7.7	17.9	41.3	15.8	21.9		
精神障がいのある人 (N=194)	70.6	16.0	19.1	44.3	19.6	9.3	4.1		
障がいのある児童等 (N=202)	80.7	51.5	23.8	42.1	36.1	7.9	9.4	0.5	44.1
難病患者 (N=155)	82.6	10.3	26.5	37.4	2.6	4.5	3.9		

区分	いない	困っていること はない	その他	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=323)	4.3	6.5	3.4	1.5
65歳未満 (N=259)	4.2	7.3	3.9	1.5
65歳以上 (N=58)	5.2	3.4	1.7	1.7
知的障がいのある人 (N=196)	2.6	2.0	3.1	4.1
精神障がいのある人 (N=194)	6.2	1.5	6.7	4.1
障がいのある児童等 (N=202)	2.5	1.5	3.5	—
難病患者 (N=155)	6.5	2.6	1.3	1.9

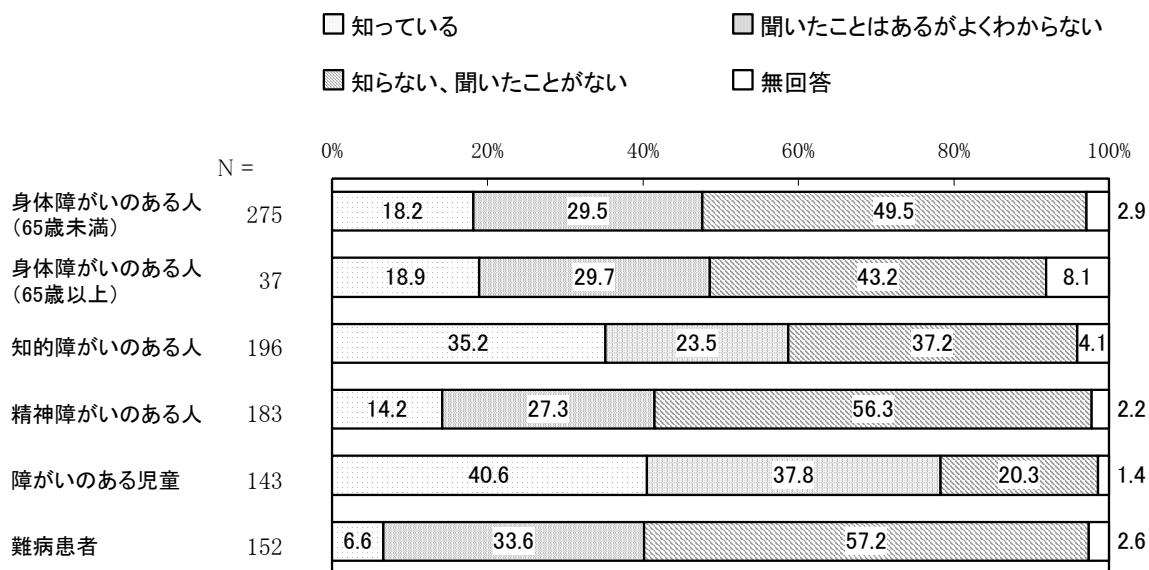
(36) 障がい者生活支援センター(春日苑、かすがい、JHN まある、あっとわん)、基幹相談支援センター(しゃきよう)について知っていますか。

身体問 23、知的問 23、精神問 25、児童問 28、難病問 19

前回の調査と比較して、「知っている」の割合に大きな変化はありません。



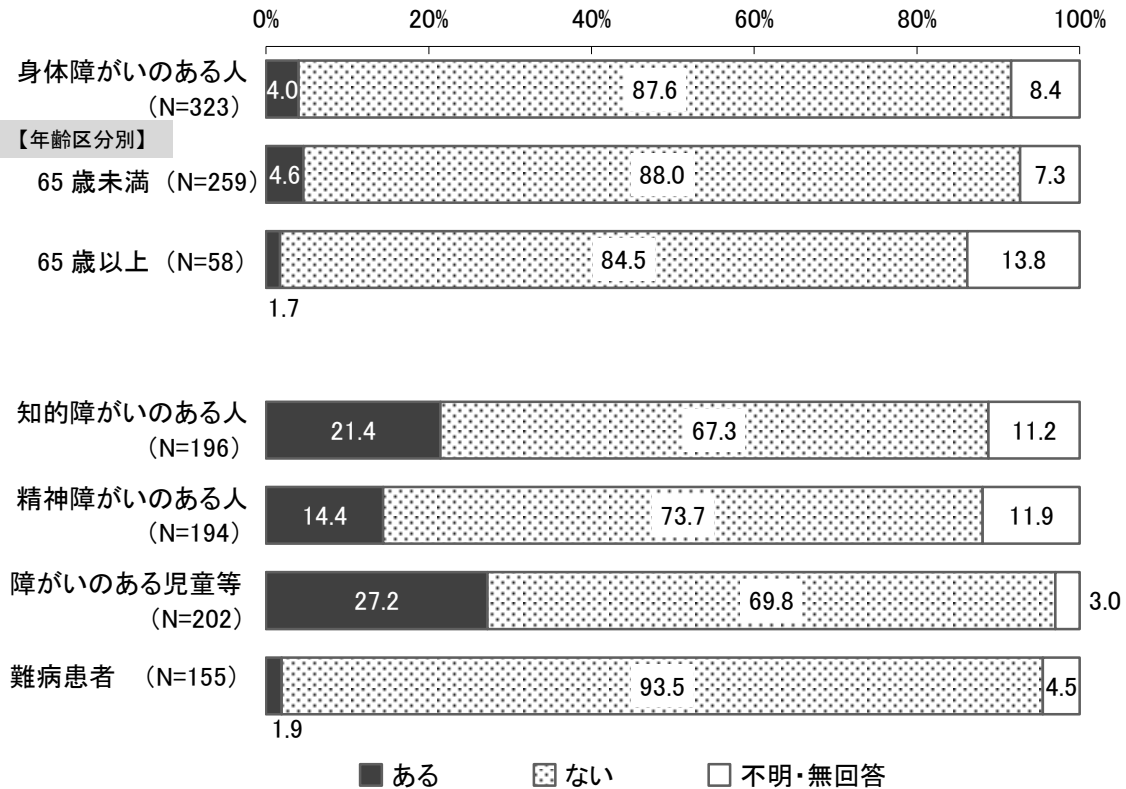
参考：平成 25 年度調査結果



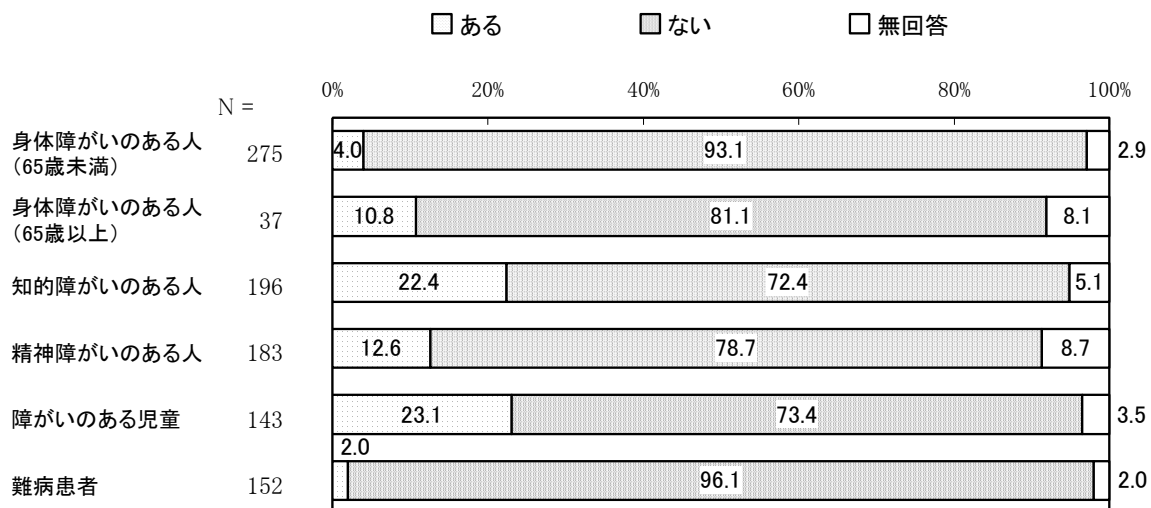
(37) 障がい者生活支援センターもしくは基幹相談支援センターに相談をしたことがありますか。

身体問 24、知的問 24、精神問 26、児童問 29、難病問 20

前回の調査と比較して、大きな変化はありません。



参考：平成 25 年度調査結果

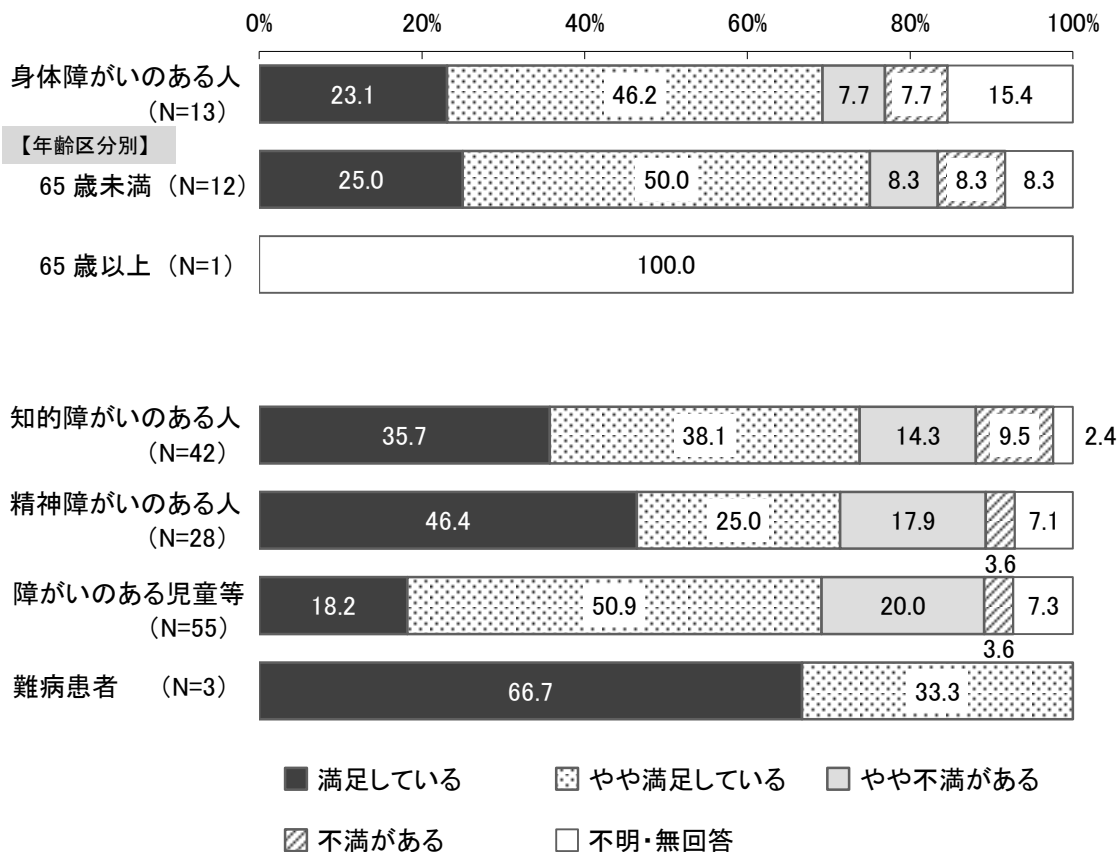


(38) 障がい者生活支援センター、基幹相談支援センターについて満足していますか。

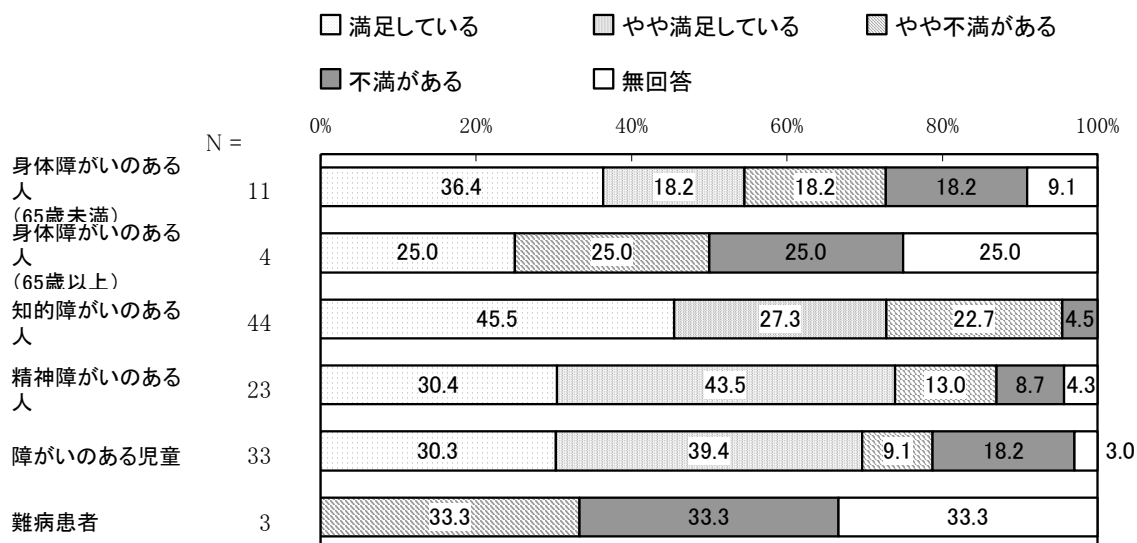
※ (37) で「ある」と答えた方に聞きました

身体問 25、知的問 25、精神問 27、児童問 30、難病問 21

前回の調査と比較して、「満足している」と「やや満足している」の合計の割合に大きな変化はありません。



参考：平成 25 年度調査結果

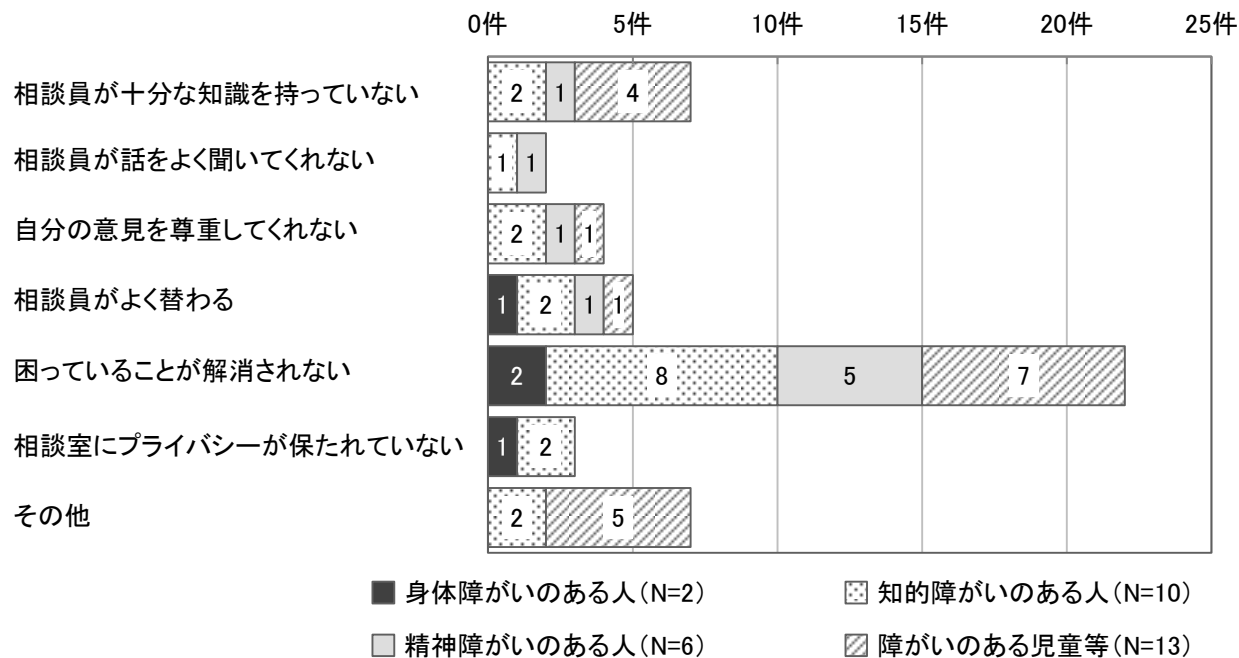


(39) どのような点に不満を感じましたか。(複数回答)

※ (38) で「やや不満がある」「不満がある」と答えた方に聞きました

身体問 26、知的問 26、精神問 28、児童問 31、難病問 22

「困っていることが解消されない」の件数が最も多くなっています。



※「難病患者」について、本設問に該当する回答者がいないためグラフには表記していません。

(40) 障がい者生活支援センター、基幹相談支援センターで相談していること、相談したいと思うことは何ですか。(複数回答)

身体問 27、知的問 27、精神問 29、児童問 32、難病問 23

「特にない」を除くと、精神障がいのある人で「日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること」、知的障がいのある人で「障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること」、障がいのある児童等で「なんとなく不安に思うこと」の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
	(65歳未満)	(65歳以上)					
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	202	155
1位	特にない (46.7)	特にない (46.3)	特にない (48.3)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (29.1)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (35.6)	なんとなく不安に思うこと (36.6)	特にない (52.9)
2位	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (20.7)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (23.2)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (20.7)	特にない (29.1)	なんとなく不安に思うこと (27.8)	園や学校での対応のこと (31.2)	なんとなく不安に思うこと (18.7)
3位	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (18.9)	仕事に関すること (19.3)	なんとなく不安に思うこと (13.8)	成年後見制度や虐待など権利擁護に関すること (23.0)	特にない (27.8)	（子どもの）仕事に関すること (30.2)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (18.1)
4位	仕事に関すること (16.1)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (18.1)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (8.6)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (20.4)	仕事に関すること (25.3)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (27.7)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (15.5)
5位	なんとなく不安に思うこと (14.9)	なんとなく不安に思うこと (15.1)	成年後見制度や虐待など権利擁護に関すること (1.7)	なんとなく不安に思うこと (17.9)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (18.6)	成年後見制度や虐待など権利擁護に関すること (22.3)	仕事に関すること (12.9)

## 5. 障がい福祉サービスについて

### (41) 現在、次にあげる障がい福祉サービスを利用していますか。

身体問 18①、知的問 18①、精神問 19①、児童問 16①、難病問 14①

65歳以上の身体障がいのある人、知的障がいのある人及び障がいのある児童等でサービス利用者が多くなっています。

#### ■「現在、利用している」と回答した方

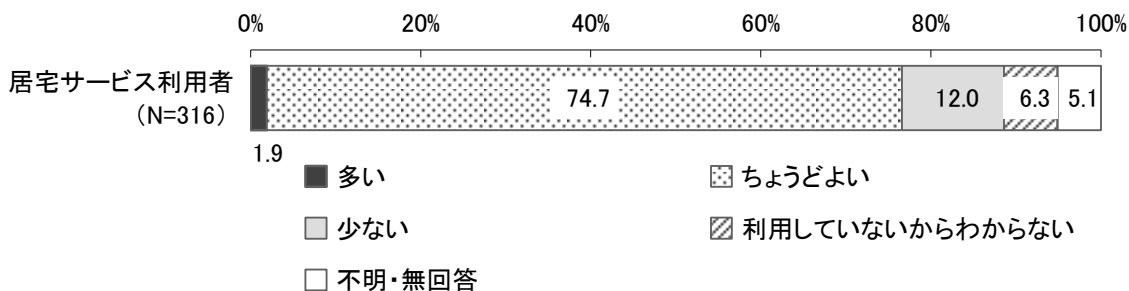
(単位：%)

区分	有効回答数(件)	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援護・同行援護	短期入所	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	日中一時支援
身体障がいのある人	323	9.3	7.1	5.3	10.2	11.5	5.0	4.3	1.2	0.3	1.9				3.4
(65歳未満)	259	7.7	7.7	5.0	8.5	8.9	4.2	5.0	1.2	0.4	2.3				3.1
(65歳以上)	58	17.2	5.2	5.2	17.2	22.4	8.6	—	1.7	—	—				3.4
知的障がいのある人	196	5.6	19.9	9.2	25.5	10.7	20.9	30.1	10.2	—	—				4.6
精神障がいのある人	194	4.1	1.0	3.1	4.1	7.7	7.2	14.4	1.5	0.5	—				1.0
障がいのある児童等	202	2.5	5.0	3.5	1.5	4.5	—	1.5		—	—	30.7	39.1	0.5	8.4
難病患者	155	1.9	—	1.3	0.6	4.5		0.6	—						—

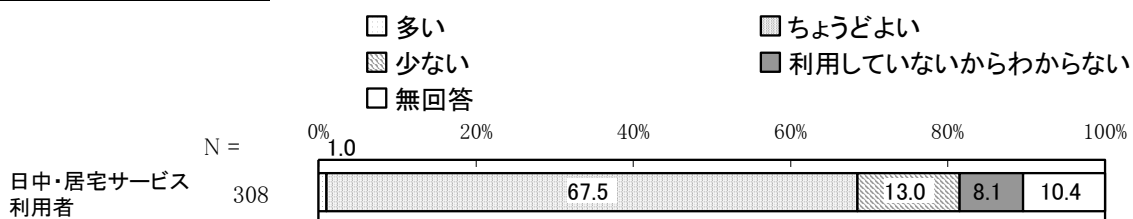
(42) 市が支給決定をしている時間数又は日数は、いかがですか。

居宅問 1

「ちょうどよい」の割合が最も高く、次いで「少ない」となっています。



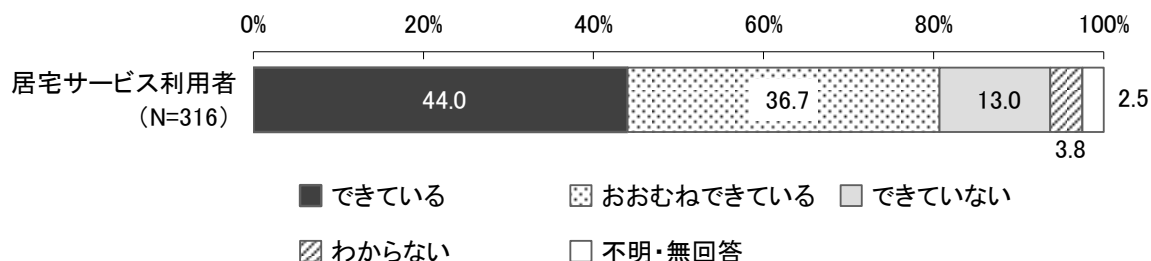
参考：平成 25 年度調査結果



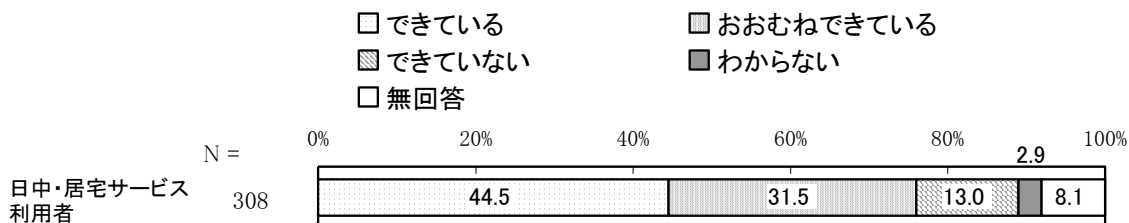
(43) 利用したい曜日、時間にサービスを利用できていますか。

居宅問 4

「できている」の割合が最も高く、次いで「おおむねできている」となっています。



参考：平成 25 年度調査結果



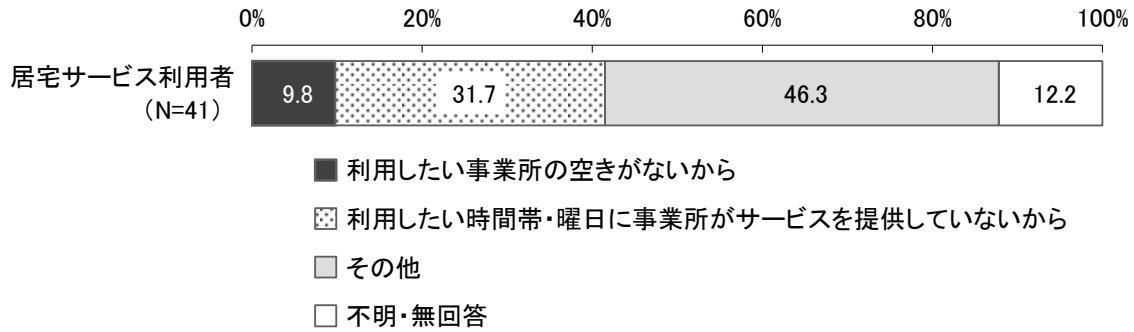


## (44) 利用できていない理由について

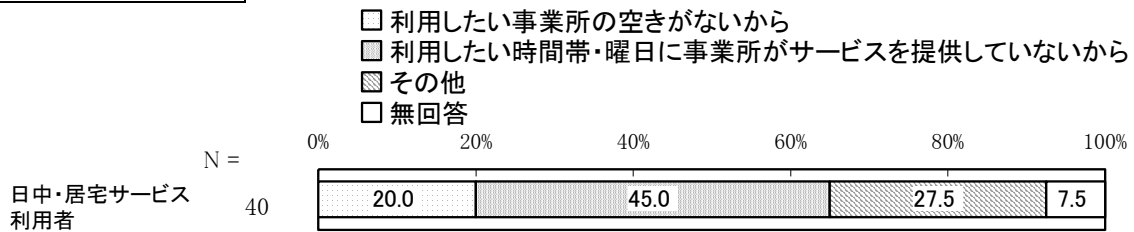
※ (43) で「できていない」と答えた方に聞きました

居宅問 4-2

前回の調査と比較して、「利用したい事業所の空きがないから」「利用したい時間帯・曜日に事業所がサービスを提供していないから」の割合が低くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果



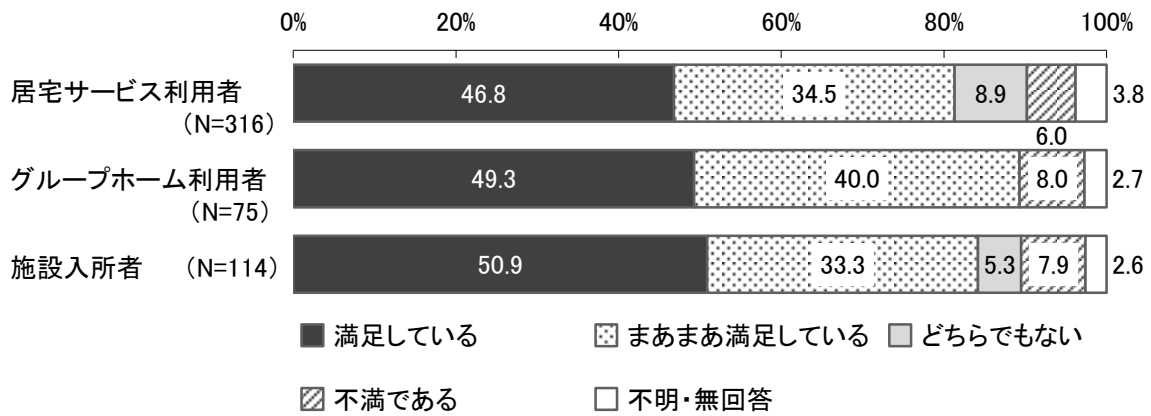
[主な「その他」の内容]

内容
本人の体調による、体調の調整ができない
現在、利用場所を考え中
支給時間が足りない
緊急時に利用できるサービスがない

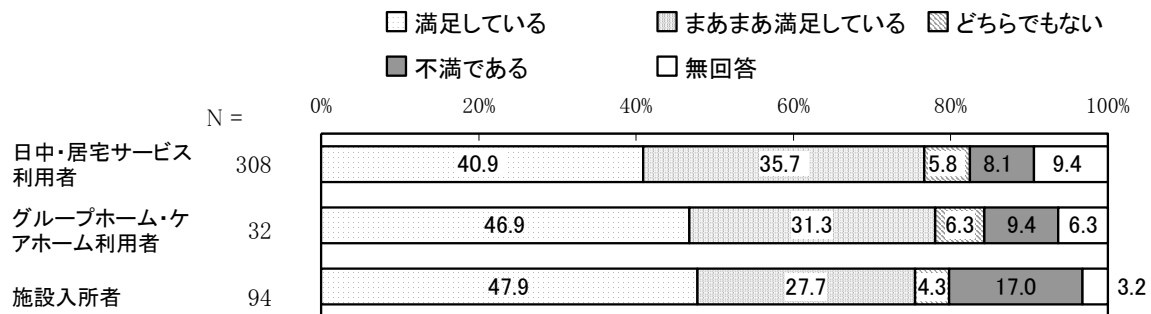
(45) 現在、利用している居宅サービス、グループホーム、施設に満足していますか。

居宅問5、グループホーム問1、施設問1

「満足している」（「満足している」と「まあまあ満足している」の合計）の割合は、いずれの利用者も8割を超えています。



参考：平成25年度調査結果



(46) どのような点に不満を感じますか。(複数回答)

居宅問5-2、グループホーム問1-2、施設問1-2

居宅サービス利用者で「送迎の時間」、グループホーム利用者で「他の利用者との人間関係」、施設利用者で「ヘルパー（支援員）の態度」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	有効回答数(件)	施設 の設備	ヘルパー (支援員) の態度	ヘルパー (支援員) の技術	送迎の 時間	他の利用者 との人間 関係	家賃、 利用料金	その他	不明・ 無回答
居宅サービス利用者	19	5.3	21.1	21.1	26.3			52.6	—
グループホーム利用者	6	—	—	16.7		33.3	—	66.7	—
施設入所者	9	33.3	44.4	22.2		22.2		11.1	—

※「送迎の時間」は居宅サービス利用者のみ、「他の利用者との人間関係」はグループホーム利用者、施設利用者のみ、「家賃、利用料金」はグループホーム利用者からの選択肢です。

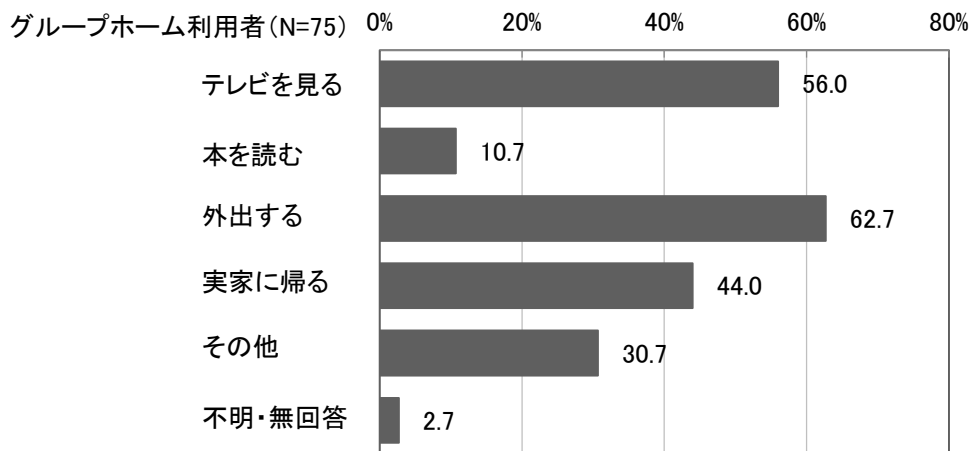
参考：平成25年度調査結果

区分	有効 回答数 (件)	施設 の設備	ヘルパー の態度 ・支援	ヘルパー の技術 ・支援	送迎の 時間	他の利用者 との 人間 関係	家賃、 利用料金	その他	無 回答
日中・居宅サービス 利用者	25	12.0	28.0	40.0	12.0			44.0	4.0
グループホーム・ ケアホーム利用者	3	33.3	33.3	—		66.7	—	—	—
施設入所者	16	12.5	—	—		18.8		50.0	25.0

(47) 土曜日や日曜日など、施設に通所しない日は、何をして過ごしていますか。(複数回答)

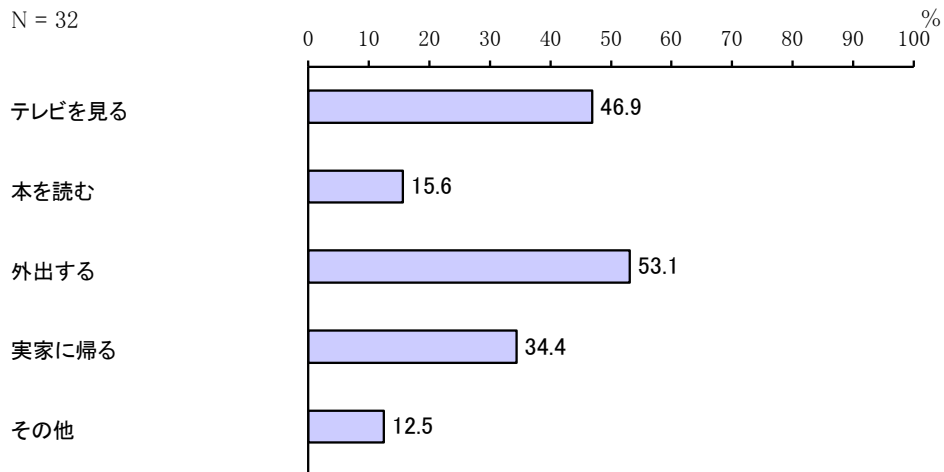
グループホーム 問2

「外出する」の割合が最も高く、次いで「テレビを見る」となっています。



参考：平成25年度調査結果

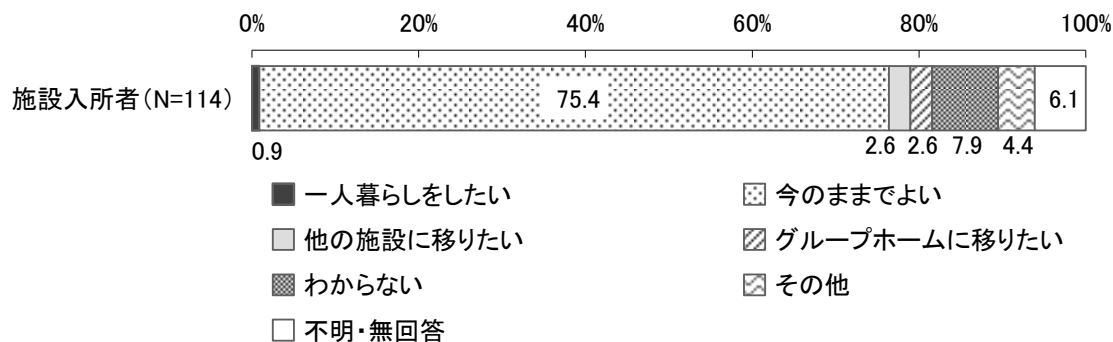
N = 32



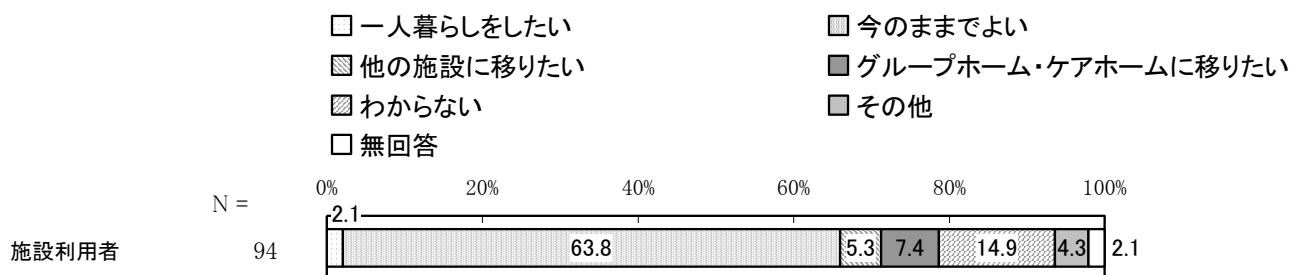
(48) 今後、施設を退所し、地域で自立して生活したいですか。

施設問 2

「今のままでよい」の割合が最も高くなっています。



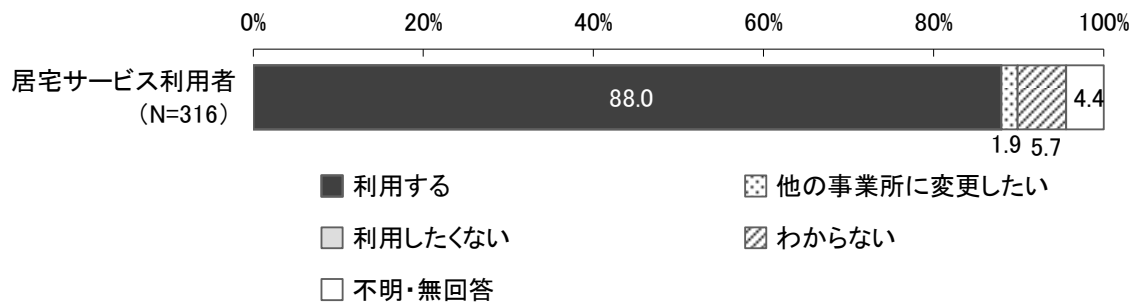
参考：平成 25 年度調査結果



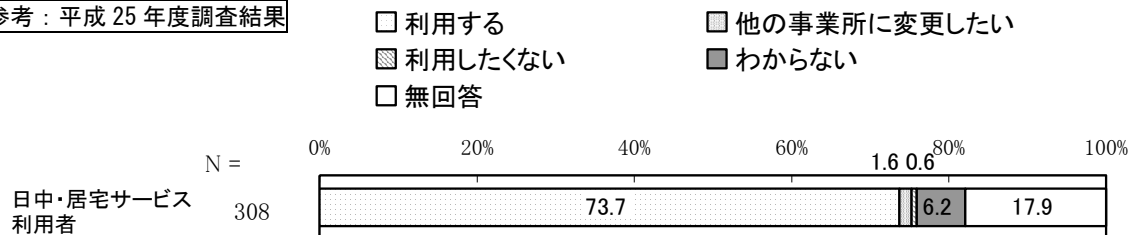
(49) 現在、利用しているサービスを今後も利用しますか。

居宅問 6

「利用する」の割合が最も高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果



(50) 今後、新たに利用したいサービスは何ですか。(複数回答)

居宅問7、グループホーム問3

「わからない」を除くと、いずれの利用者も「移動支援」の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	有効回答数(件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障がい者等包括支援	生活介護	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型)	就労継続支援(B型)	療養介護
居宅サービス利用者	316	8.2	2.5	1.6	7.3	0.9	4.4	6.0	8.2	7.3	5.7	8.2	0.6
グループホーム利用者	75	8.0	1.3	4.0	17.3	4.0	12.0	5.3	9.3	5.3	6.7	12.0	6.7

(単位：%)

区分	有効回答数(件)	短期入所	共同生活援助(GH)	施設入所支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	移動支援	地域活動支援センター	日中一時支援	訪問入浴	わからない	不明・無回答
居宅サービス利用者	316	9.2	5.4	2.5	8.9	0.6	2.2	13.6	5.4	7.9	1.6	15.2	41.1
グループホーム利用者	75	8.0		1.3	13.3	4.0	2.7	30.7	21.3	13.3	—	8.0	29.3

参考：平成25年度調査結果

単位：%

区分	有効回答数(件)	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	支援	重度障がい者等包括	生活介護	自立訓練(機能訓練)	自立訓練(生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型)	就労継続支援(B型)	療養介護
日中・居宅サービス利用者	308	6.8	1.9	2.9	7.8	2.3	4.2	9.7	9.4	6.8	7.1	1.6		
グループホーム・ケアホーム利用者	32	—	—	3.1	6.3	—	3.1	3.1	9.4	6.3	3.1	12.5	3.1	

区分	短期入所	共同生活援助(CH)	共同生活援助(GH)	施設入所支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	移動支援事業	地域活動支援センター	日中一時支援事業	訪問入浴サービス事業	わからない	無回答
日中・居宅サービス利用者	13.3	9.7	3.2	12.3	0.6	3.2	11.4	8.1	8.4	2.3	15.6	37.3	
グループホーム・ケアホーム利用者	3.1	18.8	—	12.5	3.1	—					25.0	40.6	

※日中・居宅サービス利用者では「自立訓練(機能訓練)」「自立訓練(生活訓練)」はまとめて1つの選択肢となっています。

(51) 次にあげる障がい福祉サービスを今後利用したいですか。

身体問 18②、知的問 18②、精神問 19②、児童問 16②、難病問 14②

身体障がいのある人で「短期入所」「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」「移動支援・行動援護・同行援護」、知的障がいのある人で「地域活動支援センター」「短期入所」、精神障がいのある人で「居宅介護・重度訪問介護」「就労移行支援・就労継続支援A・B」、障がいのある児童等で「放課後等デイサービス」、難病患者で「短期入所」「居宅介護・重度訪問介護」「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」の割合が高くなっています。

■ 「利用したい」と回答した方

(単位：%)

区分	有効回答数(件)	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援護・同行援護	短期入所	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	日中一時支援
身体障がいのある人	323	28.5	30.3	32.5	27.9	32.5	21.1	18.9	16.7	10.8	17.3				19.2
（65歳未満）	259	28.2	28.6	31.7	27.0	32.0	20.5	22.4	17.4	10.8	16.2				17.8
（65歳以上）	58	27.6	34.5	36.2	31.0	32.8	24.1	1.7	13.8	10.3	20.7				22.4
知的障がいのある人	196	25.5	36.2	39.3	30.1	32.7	40.3	35.2	36.2	3.1	7.7				31.6
精神障がいのある人	194	32.5	24.7	23.2	18.6	27.8	27.3	32.5	19.6	5.7	10.3				17.5
障がいのある児童等	202	12.4	29.2	27.2	15.3	30.2	34.2	43.6		2.5	5.0	44.1	58.4	20.3	31.2
難病患者	155	26.5	21.3	27.1	20.0	25.8		13.5	13.5						20.0

区分	有効回答数 (件)	介護 居宅介護・重度訪問 介護	移動支援・行動 援護・同行援護	短期入所	生活介護	地域活動支援セン ター	B 就労移行支援・ 就労継続支援 A・	グループホーム・ ケアホーム	相談支援
身体障がいのある人 (65 歳未満)	230	0.4	3.0	1.3	1.3	3.9	4.3	1.7	8.7
身体障がいのある人 (65 歳以上)	27	7.4	14.8	14.8	3.7	3.7	—	3.7	7.4
知的障がいのある人	81	3.7	7.4	13.6	7.4	4.9	7.4	9.9	23.5
精神障がいのある人	133	7.5	6.8	8.3	5.3	10.5	18.0	6.8	20.3
障がいのある児童	59	—	10.2	3.4	1.7	3.4	13.6		16.9
難病患者	152	2.0	0.7	2.0	0.7	0.7	0.7	0.7	7.9

区分	意思疎通支援	訪問入浴	児童発達支援	放課後等デ イ サービス	保育所等訪問支援	その他	利用したくない	無回答
身体障がいのある人 (65 歳未満)	0.4	0.4				21.7	47.4	13.5
身体障がいのある人 (65 歳以上)	3.7	3.7				18.5	22.2	33.3
知的障がいのある人	1.2	—				9.9	39.5	9.9
精神障がいのある人	—	—				12.8	27.1	15.0
障がいのある児童	1.7	3.4	16.9	28.8	8.5	11.9	23.7	10.2
難病患者	—	—				13.2	61.2	13.2

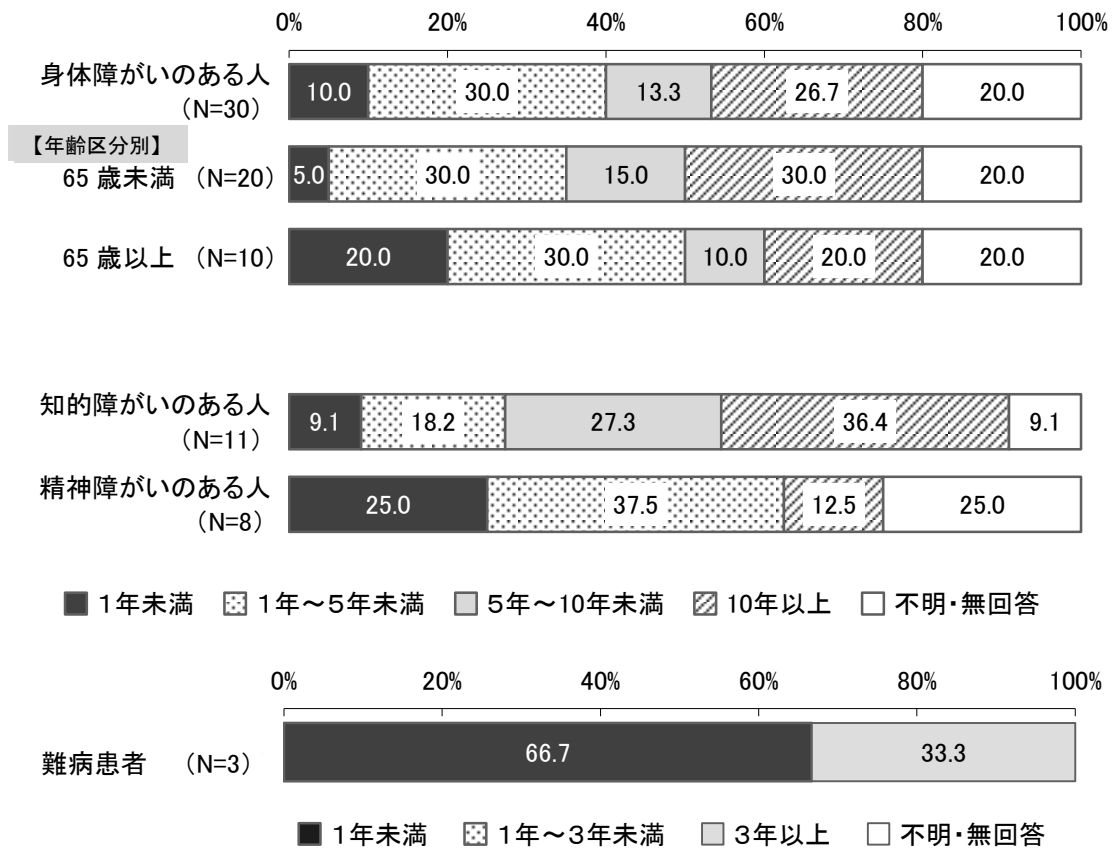


**(52) 居宅介護・重度訪問介護をどのくらいの期間利用していますか。およその期間を数字で記入してください。**

※(41)で居宅介護・重度訪問介護を「現在、利用している」と答えた方に聞きました

身体問 19、知的問 19、精神問 20、難病問 15

「10年以上」のサービス利用者の割合は、身体障がいのある人で3割弱、知的障がいのある人で4割弱となっています。



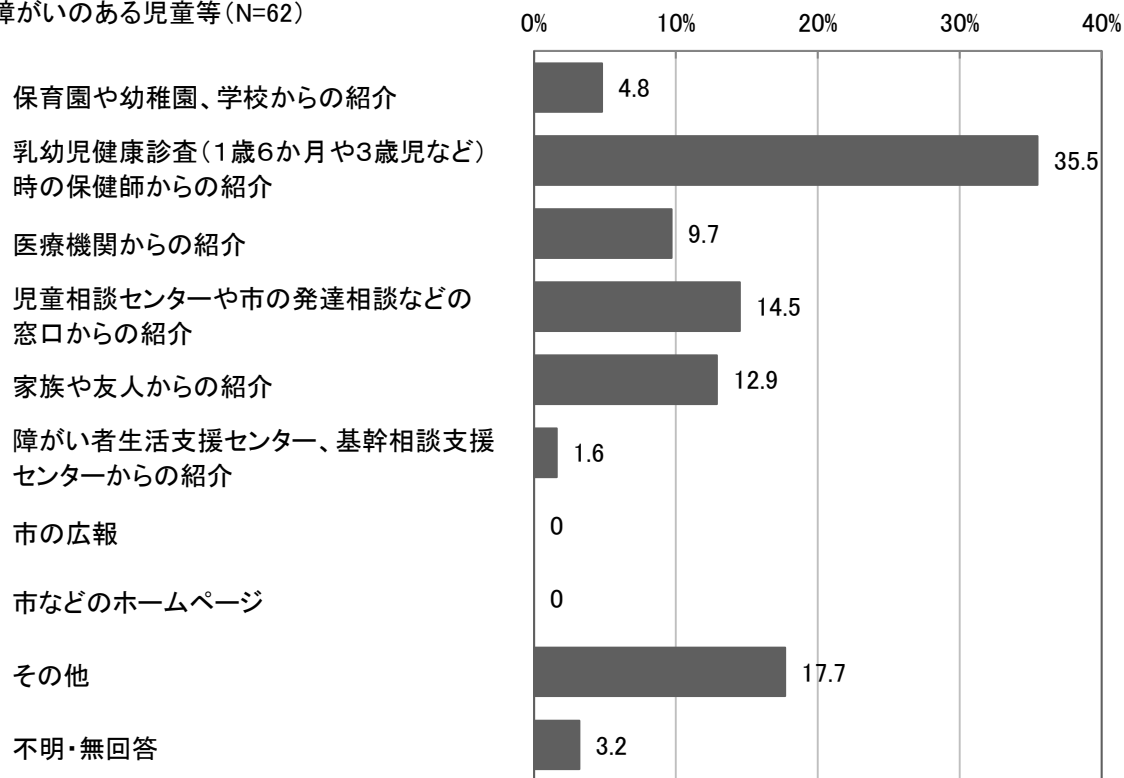
### (53) 児童発達支援を利用するきっかけは何でしたか。

※(41)で児童発達支援を「利用している」と答えた方に聞きました

児童問 17

「乳幼児健康診査（1歳6か月や3歳児など）時の保健師からの紹介」の割合が最も高く、次いで「児童相談センターや市の発達相談などの窓口からの紹介」となっています。

障がいのある児童等(N=62)



(54) 現在、福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(複数回答)

※ (41) ですべて「利用していない」と答えた方に聞きました (現在サービスを利用していない方)

身体問 20、知的問 20、精神問 21、児童問 18、難病問 16

障がいのある人すべてで「家族などの介助で十分だから」の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	金銭的な余裕がないから	福祉サービスを利用する	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	福祉サービスを利用するに空きがないから	提供している事業所の定員に移動できないから	障がい重度であるため、サービスを提供する施設に移動できないから	障がい者がケアを提供できる事業所がないから	医療的ケアを提供できる	福祉サービスがあることを知らなかったから
身体障がいのある人 (N=209)	56.9	2.9	9.1	11.5	7.7	1.9	—	0.5	1.0	7.2			
65歳未満 (N=181)	58.6	3.3	9.9	12.7	8.3	2.2	—	0.6	1.1	7.7			
65歳以上 (N=27)	48.1	—	3.7	3.7	3.7	—	—	—	—	3.7			
知的障がいのある人 (N=53)	64.2	3.8	7.5	17.0	15.1	1.9	1.9	1.9	3.8	13.2			
精神障がいのある人 (N=116)	43.1	5.2	14.7	15.5	14.7	1.7	—	0.9	1.7	6.0			
障がいのある児童 (N=61)	67.2	8.2	6.6	4.9	3.3	6.6	3.3	1.6	3.3	3.3			
難病患者 (N=134)	50.7	4.5	7.5	8.2	4.5	3.0	0.7	0.7	1.5	2.2			

区分	その他	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=209)	21.5	10.0
65歳未満 (N=181)	19.9	8.8
65歳以上 (N=27)	33.3	14.8
知的障がいのある人 (N=53)	20.8	7.5
精神障がいのある人 (N=116)	14.7	26.7
障がいのある児童 (N=61)	21.3	8.2
難病患者 (N=134)	40.3	4.5

[主な「その他」の内容]

内容
自分で生活するため必要ない
サービスを利用するほどではない
なるべく自立していきたいから
施設に入所しているから

内容
相談先が分からない
本人が受けるのを拒む、行動しない
人と接するのを拒む
介助する人に迷惑がかかる

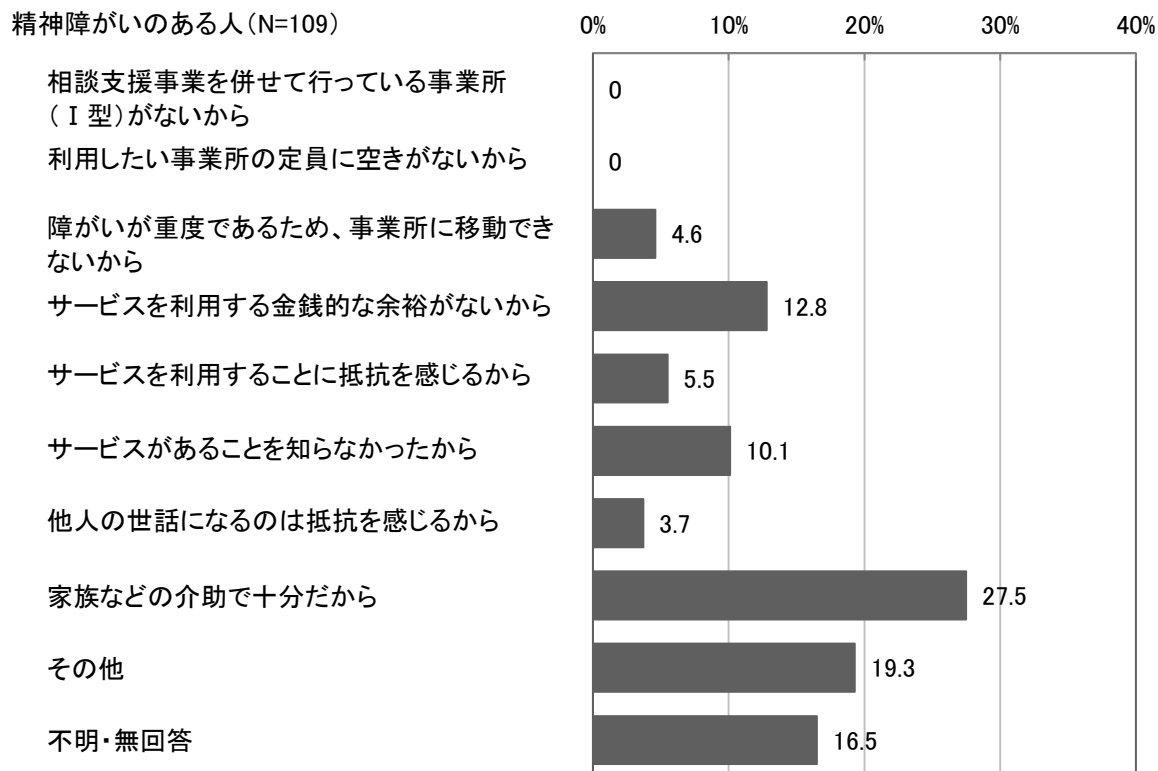
区分	有効回答数（件）	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	福祉サービスを利用する金銭的な余裕がないから	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから	その他	無回答
身体障がいのある人 (65歳未満)	230	62.2	4.8	4.8	4.8	3.5	2.6	0.9	23.9	6.1
身体障がいのある人 (65歳以上)	27	70.4	—	7.4	11.1	3.7	3.7	—	11.1	18.5
知的障がいのある人	81	66.7	4.9	7.4	3.7	3.7	3.7	1.2	14.8	13.6
精神障がいのある人	133	36.1	18.8	16.5	19.5	13.5	8.3	—	26.3	6.0
障がいのある児童	59	57.6	10.2	6.8	1.7	1.7	1.7	1.7	30.5	3.4

**(55) 地域活動支援センターを利用していない、また、今後も利用しない理由は何ですか。**

※ (41) (51) で地域活動支援センターを「利用していない」「利用したくない」と答えた方に聞きました

精神問 22

「家族などの介助で十分だから」の割合が最も高く、次いで「サービスを利用する金銭的な余裕がないから」となっています。



(56) 障害者総合支援法の改正により、以下のサービスが新たに創設・拡充されることとなります。今後利用したいと思いますか。

身体問 21、知的問 21、精神問 23、児童問 19、難病問 17

身体障がいのある人でいずれのサービスの割合も3割弱、知的障がいのある人で「重度訪問介護（医療機関入院時の利用）」が4割弱、精神障がいのある人で「就労定着支援」が4割弱、障がいのある児童等でいずれのサービスも2割弱、難病患者でいずれのサービスも3割弱となっています。

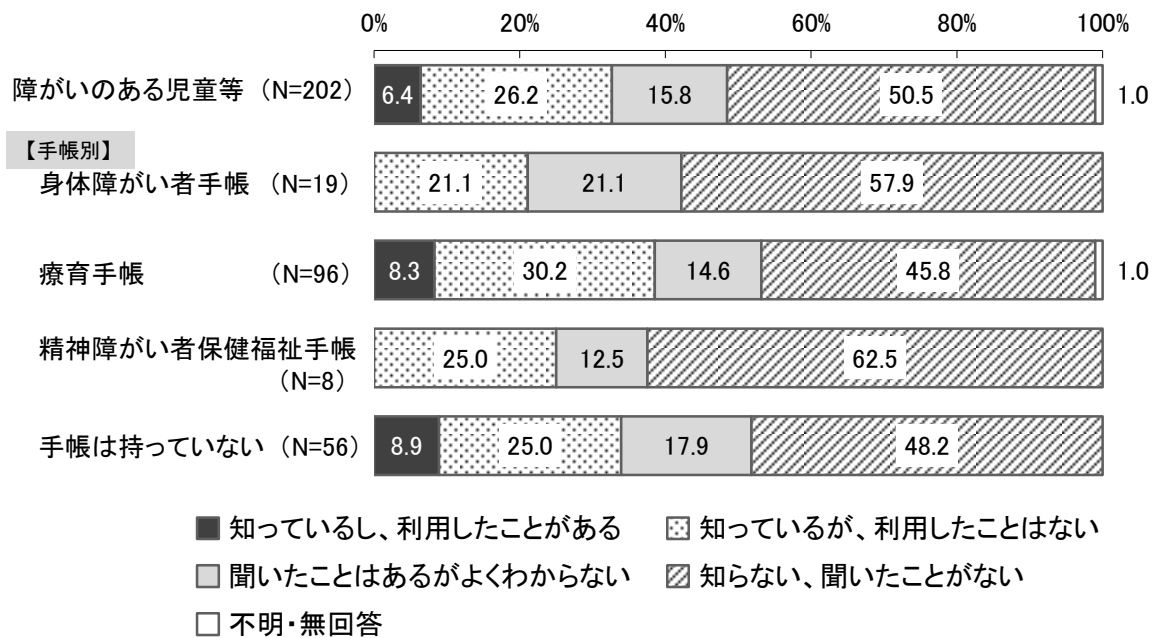
■ 「利用したい」と回答した人 (単位：%)

区分	有効回答数(件)	自立生活援助	就労定着支援	重度訪問介護 (医療機関入院時の利用)	居宅訪問型児童発達支援
身体障がいのある人	323	26.9	29.1	28.8	
(65歳未満)	259	26.6	34.0	29.7	
(65歳以上)	58	29.3	6.9	25.9	
知的障がいのある人	196	25.5	36.2	39.3	
精神障がいのある人	194	29.9	35.6	17.5	
障がいのある児童等	202			14.9	16.8
難病患者	155	26.5	28.4	26.5	

(57) あなたは、児童発達支援センター(春日井こども学園)について知っていますか。また、利用したことがありますか。

児童問 22

「知らない、聞いたことがない」の割合が約5割となっています。

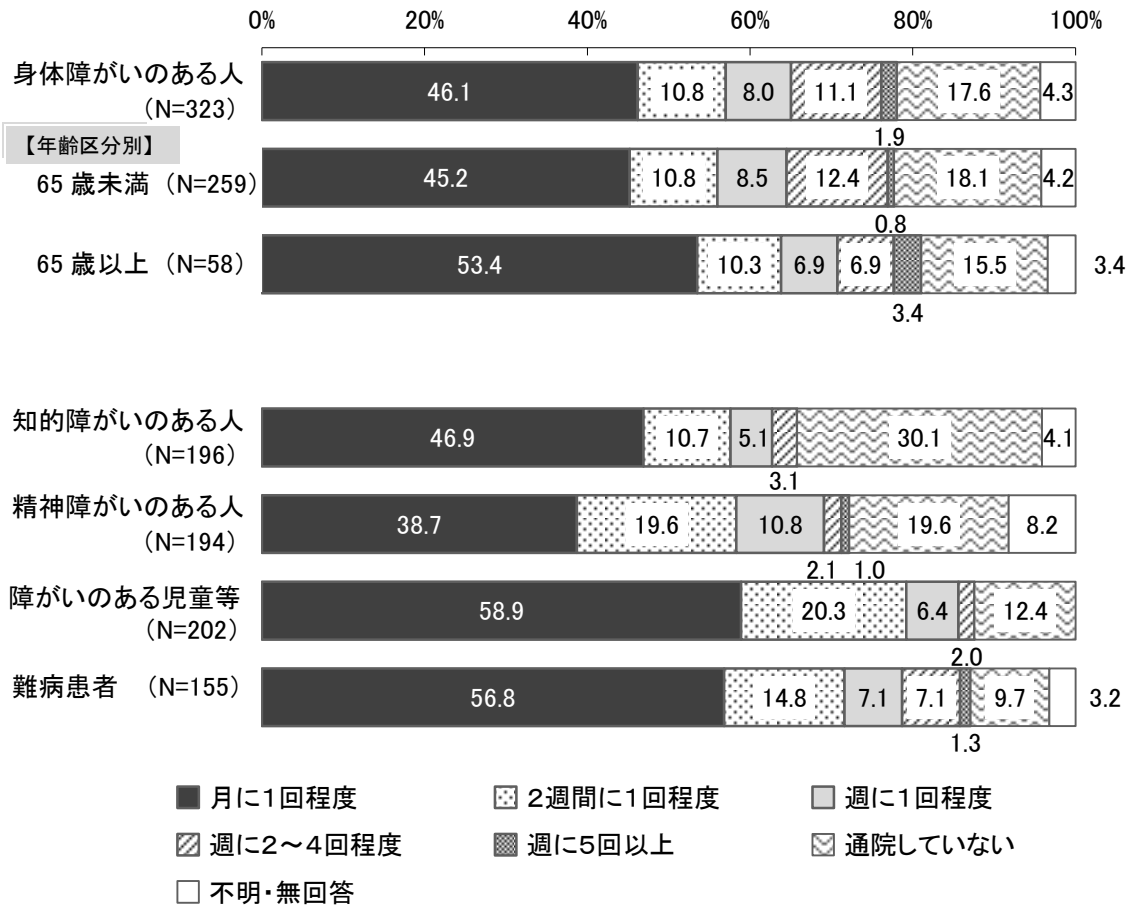


## 6. 保健・医療について

(58) 風邪、歯の治療などすべての医療について、最近3か月で、病院にどれくらい通院しましたか。

身体問 28、知的問 28、精神問 30、児童問 33、難病問 24

障がいのある人等すべてで「月に1回程度」の割合が最も高くなっています。

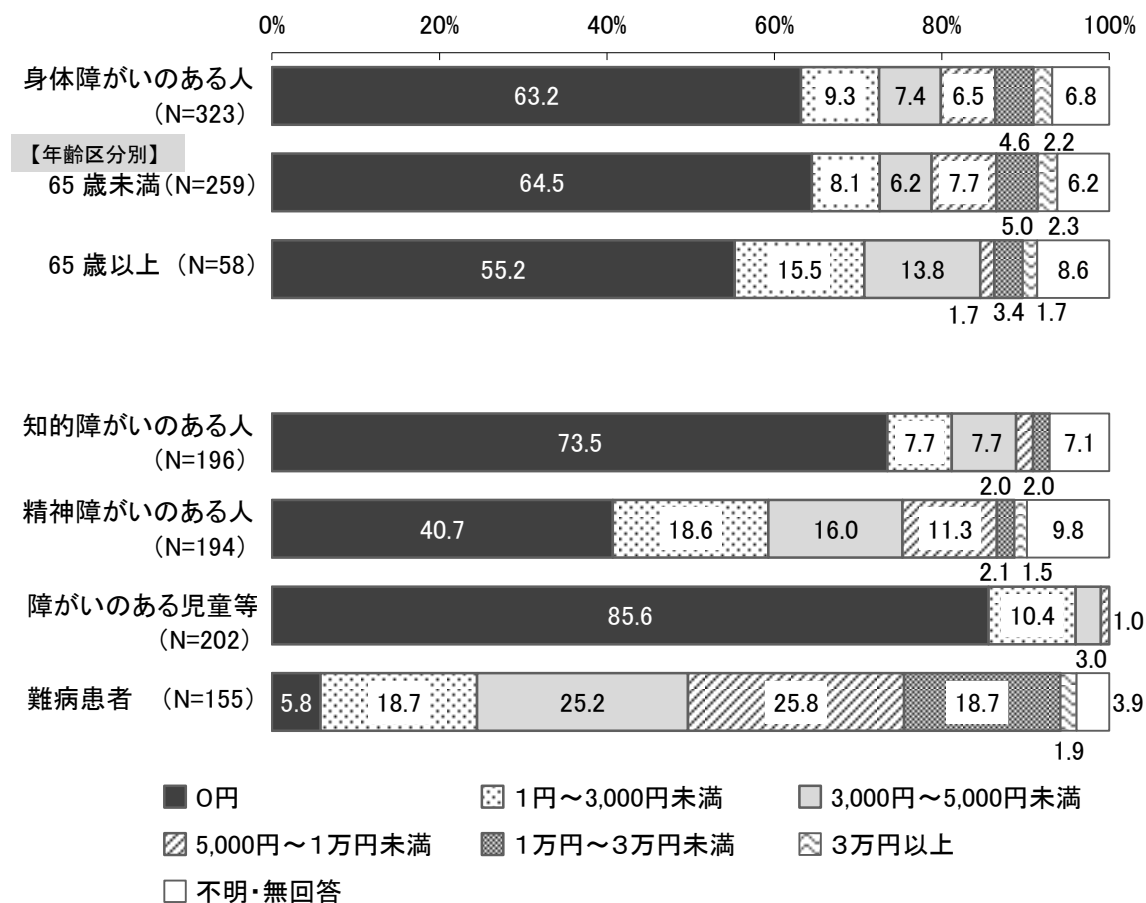




(59) 風邪、歯の治療などすべての医療費は、1か月あたりいくら負担していますか。

身体問 29、知的問 29、精神問 31、児童問 34、難病問 25

難病患者で「5,000円～1万円未満」の割合が最も高く、その他の障がいのある人等で「0円」の割合が最も高くなっています。なお、難病患者は全体として他の障がい等と比べて高くなっています。



(60) 医療について、困ったことや不便に思ったことがありますか。(複数回答)

身体問 30、知的問 30、精神問 32、児童問 35、難病問 26

「特に困ったことはない」を除いて、知的障がいのある人及び精神障がいのある人で「障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない」、障がいのある児童等で「障がい（疾病）に配慮してもらえない」、難病患者で「医療費の負担が大きい・できない」の割合がそれぞれ他の障がい等と比べて高くなっています。

(単位：%)

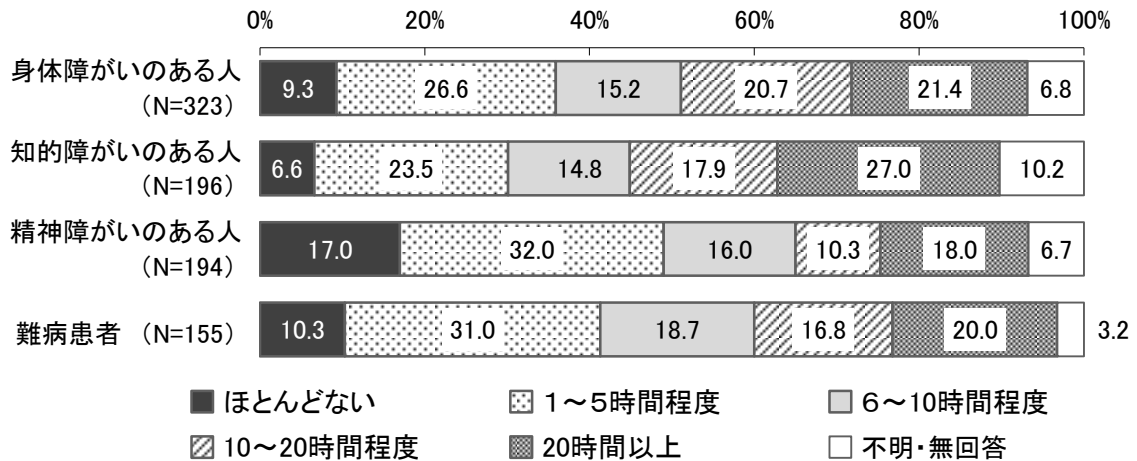
区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
	(65歳未満)	(65歳以上)					
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	202	155
1位	特に困ったことはない (61.6)	特に困ったことはない (63.3)	特に困ったことはない (51.7)	特に困ったことはない (48.0)	特に困ったことはない (40.7)	特に困ったことはない (47.5)	特に困ったことはない (48.4)
2位	障がい（疾病）に配慮してもらえない (8.4)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (8.9)	気軽に往診を頼める医師がいない (10.3)	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (31.1)	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (25.3)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (21.8)	医療費の負担が大きい・できない (33.5)
3位	医療費の負担が大きい・できない (8.0)	医療費の負担が大きい・できない (8.9)	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (10.3)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (8.7)	医療費の負担が大きい・できない (19.1)	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (18.8)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (5.8)
4位	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (7.1)	障がい（疾病）のため症状を正確に伝えられない (6.6)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (6.9)	気軽に往診を頼める医師がいない (7.1)	障がい（疾病）に配慮してもらえない (12.4)	通院するときに付き添いをしてくれない人がいない (7.9)	気軽に往診を頼める医師がいない (4.5)
5位	気軽に往診を頼める医師がいない (6.2)	通院するときに付き添いをしてくれない人がいない (5.8)	医療費の負担が大きい・できない (5.2)	障がい（疾病）が重度でいつも介護を必要とするため、入院できない (5.6)	気軽に往診を頼める医師がいない (10.8)	気軽に往診を頼める医師がいない (6.9)	通院するときに付き添いをしてくれない人がいない (3.2)

## 7. 余暇活動について

(61) 1週間のうちに自分の楽しみに使う時間はどれくらいありますか。

身体問 31、知的問 31、精神問 33、難病問 27

知的障がいのある人で「20時間以上」の割合が、その他の障がいのある人で「1～5時間程度」の割合がそれぞれ最も高くなっています。



(62) 自分の楽しみに使う時間をどのように過ごしていますか。(複数回答)

身体問 32、知的問 32、精神問 34、難病問 28

障がいのある人すべてで「テレビを見る」の割合が最も高く、次いで「買い物に行く」となっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	(65歳未満)	(65歳以上)				
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	155
1位	テレビを見る (63.2)	テレビを見る (62.5)	テレビを見る (67.2)	テレビを見る (65.3)	テレビを見る (49.0)	テレビを見る (57.4)
2位	買い物に行く (42.7)	買い物に行く (42.9)	買い物に行く (39.7)	買い物に行く (47.4)	買い物に行く (34.5)	買い物に行く (43.9)
3位	友人と会う (24.5)	友人と会う (26.3)	レストラン、喫茶店に行く (20.7)	ゲームをする (24.5)	友人と会う (22.7)	友人と会う (34.8)
4位	レストラン、喫茶店に行く (16.4)	散歩をする (16.6)	友人と会う (17.2)	散歩をする (21.4)	散歩をする (19.6)	ゲームをする (16.8)
5位	散歩をする (15.8)	ゲームをする (16.2)	散歩をする (13.8)	レストラン、喫茶店に行く (17.3)	ゲームをする (14.9)	散歩をする (16.1)
	読書をする (15.8)		読書をする (13.8)			レストラン、喫茶店に行く (16.1)

(63) 自分の楽しみに使う時間を、今後どのように過ごしたいですか。(複数回答)

身体問 33、知的問 33、精神問 35、難病問 29

全体的には、「旅行をする」「テレビを見る」「買い物に行く」の割合が高くなっています。

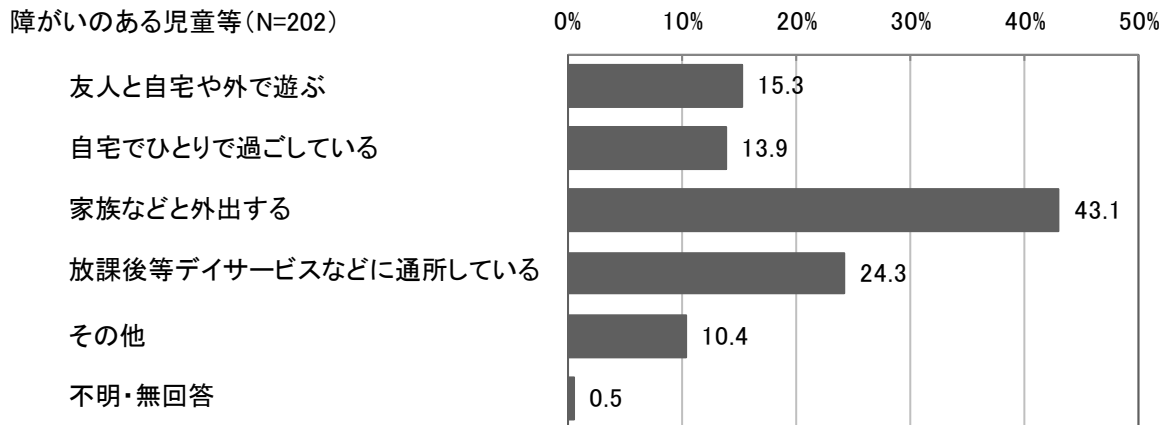
(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	(65歳未満)	(65歳以上)				
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	155
1位	テレビを見る (37.2)	旅行をする (36.3)	テレビを見る (46.6)	買い物に行く (39.8)	買い物に行く (32.5)	旅行をする (49.7)
2位	買い物に行く (32.8)	テレビを見る (35.5)	買い物に行く (34.5)	テレビを見る (38.3)	友人と会う (32.0)	友人と会う (43.2)
3位	旅行をする (31.9)	買い物に行く (32.8)	散歩をする (32.8)	旅行をする (26.5)	テレビを見る (31.4)	買い物に行く (32.3)
4位	友人と会う (22.6)	友人と会う (23.9)	レストラン、喫茶店に行く (20.7)	レストラン、喫茶店に行く (24.5)	旅行をする (23.7)	テレビを見る (27.1)
5位	散歩をする (21.1)	映画や演劇を見に行く (20.5)	友人と会う (17.2)	散歩をする (17.9)	散歩をする (21.1)	運動をする (25.8)

(64) お子さんは、放課後や休日など自由な時間をどのように過ごしていますか。

児童問 36

「家族などと外出する」の割合が最も高く、次いで「放課後等デイサービスなどに通所している」となっています。



※複数回答した人もいます

【障がいのある児童等・手帳別クロス】

(単位：%)

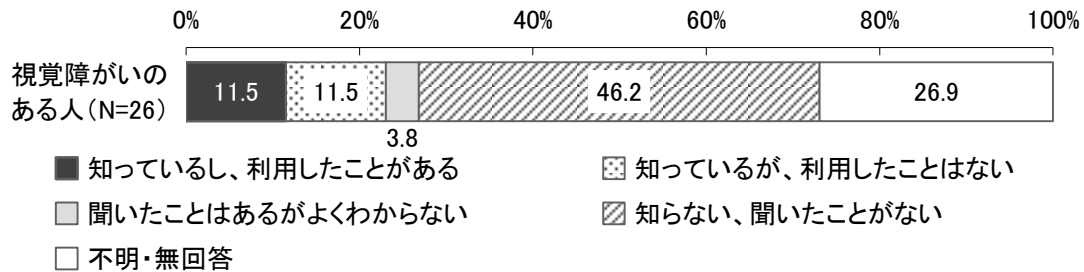
区分	友人と自宅や外で遊ぶ	自宅でひとりで過ごしている	家族などと外出する	放課後等デイサービスなどに通所している	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳 (N=19)	26.3	15.8	42.1	5.3	21.1	—
療育手帳 (N=96)	6.3	11.5	35.4	37.5	13.5	—
精神障がい者保健福祉手帳 (N=8)	—	62.5	12.5	25.0	12.5	—
手帳は持っていない (N=56)	26.8	10.7	51.8	8.9	5.4	1.8

**(65) 市の図書館に、点字図書やDAISY(デージー)図書のほかに、大活字図書があるのを知っていますか。**

※視覚障がいのある方に聞きました

身体問 34

「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高く 5 割弱となっています。

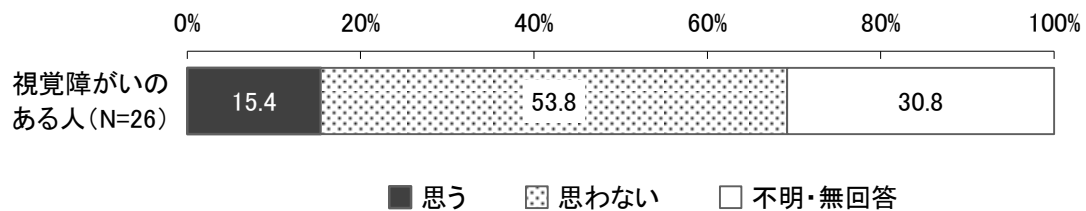


**(66) いつでも自宅でゆっくりと読書をするために、大活字図書を購入したいと思いますか。**

※視覚障がいのある方に聞きました

身体問 35

「思う」の割合が 1 割半ばとなっています。



## 8. 仕事や働くこと等について

### (67) 現在の仕事などの状況について

身体問 36、知的問 34、精神問 36、難病問 30

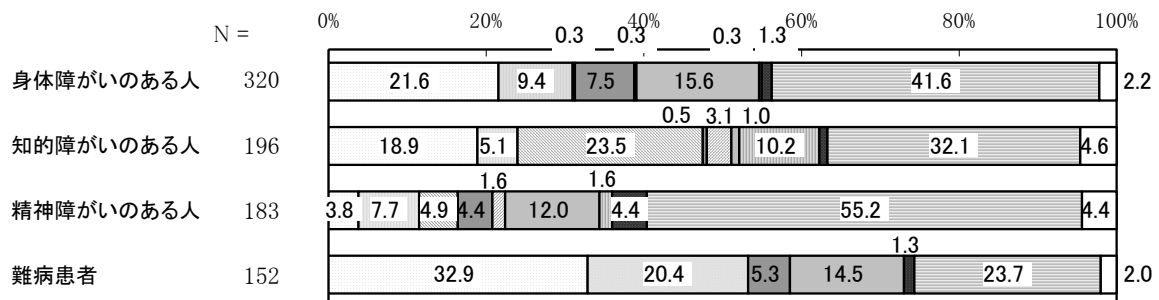
難病患者で「正社員として働いている」、その他の障がいのある人で「働いていない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	正社員として働いている	パート・アルバイトで短時間の仕事をしている	自営業で働いている	職業の訓練施設に通っている、または就労移行支援を利用している	就労継続支援A型事業所を利用している	就労継続支援B型事業所を利用している	生活介護や地域活動支援センターで生産活動を行っている	自宅の家事をしている(主婦、主夫、家事の手伝い)	その他	働いていない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=323)	21.4	9.9	4.6	0.3	1.9	1.2	0.9	8.7	1.5	41.5	8.0
65歳未満 (N=259)	25.9	11.2	5.4	0.4	2.3	1.5	1.2	6.9	1.9	37.1	6.2
65歳以上 (N=58)	1.7	3.4	1.7	—	—	—	—	15.5	—	63.8	13.8
知的障がいのある人 (N=196)	7.7	14.8	—	2.6	6.1	19.4	12.8	2.6	1.0	25.0	8.2
精神障がいのある人 (N=194)	5.2	10.8	0.5	0.5	7.2	5.7	0.5	12.9	1.0	45.9	9.8
難病患者 (N=155)	33.5	20.0	0.6	—	0.6	—	—	13.5	1.3	24.5	5.8

参考：平成 25 年度調査結果

- 一般企業に就職している
- パート・アルバイトで短時間の仕事をしている
- 就労継続支援A・Bを利用している
- 自営業で働いている、家の仕事を手伝っている
- 職業の訓練施設に通っている、就労移行支援を利用している
- 自宅の家事をしている(主婦、家事の手伝い)
- 生活介護を利用している、地域活動支援センターを利用している
- その他
- 働いていない
- 無回答





(68) 以前は働いていましたか。(複数回答)

※ (67) で「働いていない」と答えた方に聞きました

身体問 37、知的問 35、精神問 37、難病問 31

知的障がいのある人で「働いたことはない」、その他の障がいのある人で「正社員として働いていた」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	正社員として働いていた	パート・アルバイトで短時間働いていた	自営業で働いていた	職業の訓練施設に通っていた、または就労移行支援を利用していた	就業の訓練施設に通っていた、または就労移行支援を利用していた	就労継続支援A型事業所を利用していた	就労継続支援B型事業所を利用していた	その他	働いたことはない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=134)	49.3	20.9	9.0	—	—	—	—	3.7	20.1	3.0
65歳未満 (N=96)	52.1	20.8	7.3	—	—	—	—	2.1	22.9	3.1
65歳以上 (N=37)	43.2	21.6	13.5	—	—	—	—	8.1	10.8	2.7
知的障がいのある人 (N=49)	18.4	8.2	—	4.1	4.1	4.1	4.1	10.2	57.1	2.0
精神障がいのある人 (N=89)	49.4	42.7	7.9	—	—	1.1	3.4	9.0	10.1	—
難病患者 (N=38)	71.1	28.9	5.3	—	—	—	—	5.3	—	—

(69) 現在、働いていない理由は何ですか。

※ (67) で「働いていない」と答えた方に聞きました

身体問 38、知的問 36、精神問 38、難病問 32

難病患者以外で「障がいのため仕事ができる状態でない」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	学生	定年退職した	仕事が見つからない	障がいのため仕事ができる状態でない	病院のデイケアや日中一時支援に通っている	入院している、施設に入所している	その他	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=134)	2.2	20.9	7.5	48.5	2.2	9.7	10.4	3.0
65歳未満 (N=96)	3.1	12.5	9.4	57.3	2.1	7.3	9.4	3.1
65歳以上 (N=37)	—	43.2	2.7	27.0	2.7	13.5	13.5	2.7
知的障がいのある人 (N=49)	6.1	2.0	4.1	34.7	4.1	22.4	20.4	10.2
精神障がいのある人 (N=89)	—	6.7	5.6	52.8	4.5	18.0	14.6	2.2
難病患者 (N=38)	2.6	42.1	10.5	18.4	5.3	2.6	18.4	—

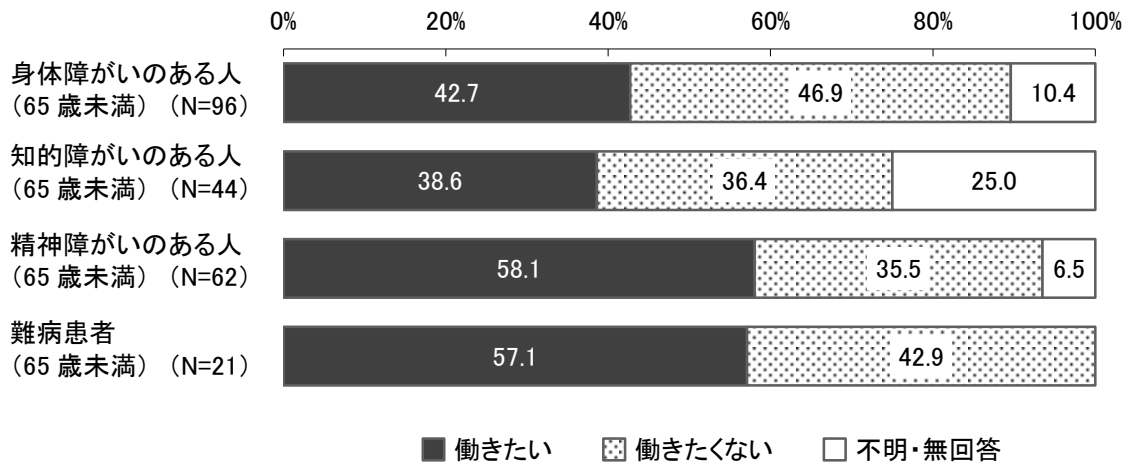
※複数回答した人もいます

**(70) 今後働きたいと思いますか。**

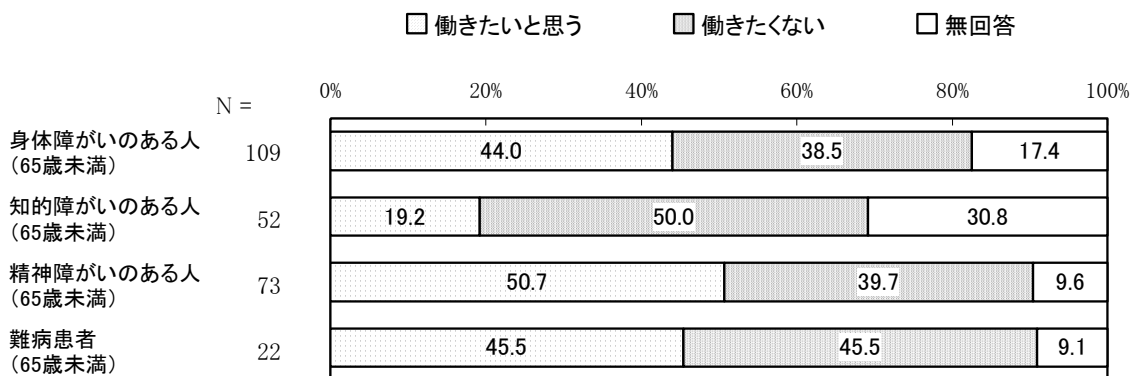
※ (67) で「働いていない」と答えた方で、年齢が 65 歳未満の方に聞きました

身体問 39、知的問 37、精神問 39、難病問 33

精神障がいのある人及び難病患者で「働きたい」の割合が 6 割弱と高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果



(71) どのような支援や配慮があったら働けると思いますか。(複数回答)

※ (67) で「働いていない」と答えた方で、年齢が65歳未満の方に聞きました

身体問 40、知的問 38、精神問 40、難病問 34

知的障がいのある人で「職場の人たちが障がい(病状)のことを理解すること」、精神障がいのある人及び難病患者で「障がい(病状)に応じて短時間の就労などができること」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	会社などで働くための指導や訓練	障がい(病状)に応じて短時間の就労などができること	職場に障がい(病状)に応じた設備があること	職場の人たちが障がい(病状)のことを理解すること	職場内で相談をする人がいること	通勤する方法や通勤の手助け(介助等)があること	仕事や職場に慣れるまで、付き添って助けをする人がいること	仕事の悩みを相談できる専門的な施設や人がいること	仕事以外の悩み(生活リズムや体調の管理、給料の浪費)について相談できること	その他
身体障がいのある人 (65歳未満) (N=96)	7.3	28.1	17.7	20.8	11.5	11.5	6.3	5.2	5.2	6.3
知的障がいのある人 (65歳未満) (N=44)	2.3	13.6	2.3	25.0	15.9	4.5	11.4	4.5	4.5	13.6
精神障がいのある人 (65歳未満) (N=62)	8.1	38.7	12.9	32.3	19.4	12.9	12.9	12.9	12.9	4.8
難病患者 (65歳未満) (N=21)	14.3	38.1	9.5	33.3	14.3	19.0	—	4.8	4.8	—

区分	特に必要ない	不明・無回答
身体障がいのある人 (65歳未満) (N=96)	29.2	19.8
知的障がいのある人 (65歳未満) (N=44)	20.5	29.5
精神障がいのある人 (65歳未満) (N=62)	17.7	8.1
難病患者 (65歳未満) (N=21)	33.3	9.5

**(72) 現在の仕事について不安や不満はありますか。(複数回答)**

※ (67) で「正社員、パート・アルバイト、自営業として働いている」と答えた方に聞きました

身体問 41、知的問 39、精神問 41、難病問 35

「特にない」を除くと、障がいのある人すべてで「収入・手当が少ない」の割合が高くなっています。なお、知的障がいのある人で「いつ職場をやめさせられるか不安である」、精神障がいのある人で「仕事以外の悩み（生活リズムや体調の管理、給料の浪費）が生じている」の割合がそれぞれ他の障がいと比べて高くなっています。

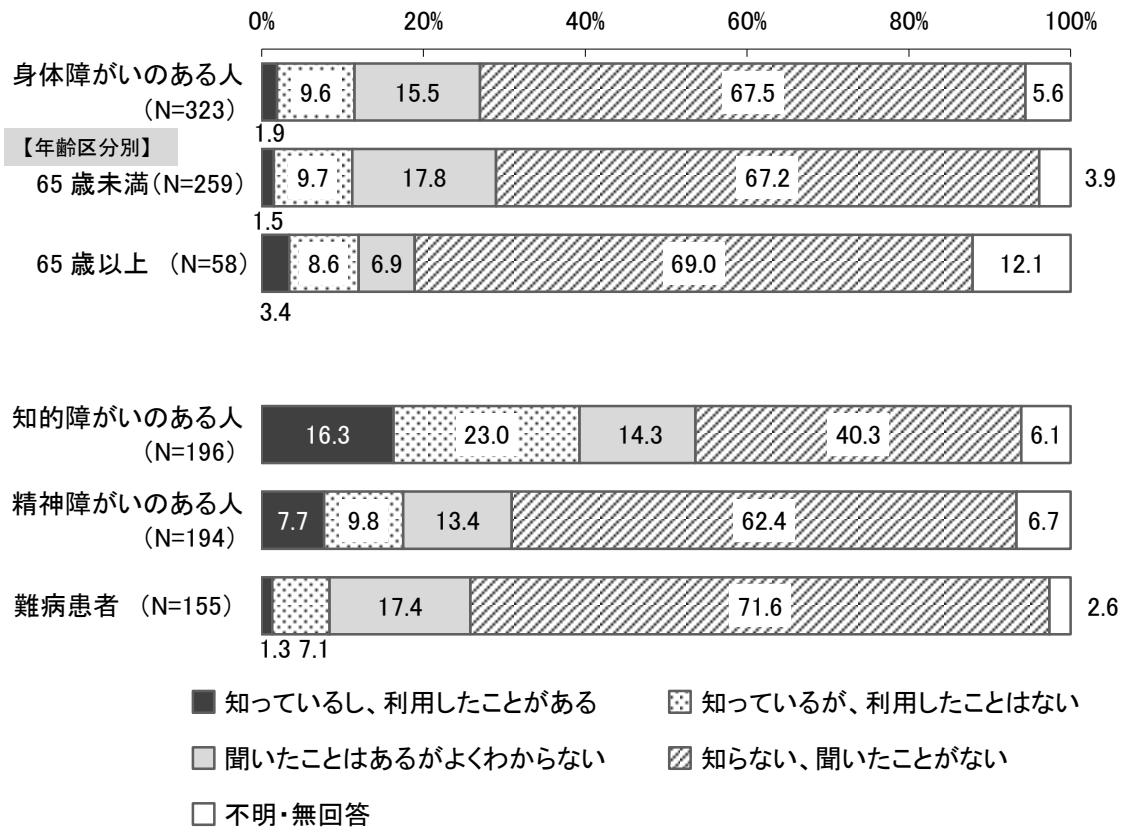
(単位：%)

区分	身体障がいのある人		知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者	
	65歳未満	65歳以上				
有効回答数(件)	116	110	4	44	32	84
1位	特にない (42.2)	特にない (40.9)	特にない (100.0)	いつ職場をやめさせられるか不安である (36.4)	収入・手当が少ない (50.0)	特にない (39.3)
2位	収入・手当が少ない (23.3)	収入・手当が少ない (24.5)	—	特にない (34.1)	仕事以外の悩み（生活リズムや体調の管理、給料の浪費）が生じている (25.0)	収入・手当が少ない (28.6)
3位	職場の設備が整っていない（バリアフリーになっていないなど） (13.8)	職場の設備が整っていない（バリアフリーになっていないなど） (13.6)	—	収入・手当が少ない (25.0)	いつ職場をやめさせられるか不安である (21.9)	職場まで通うのが大変 (13.1)
4位	勤務時間が長い (12.9)	勤務時間が長い (12.7)	—	職場で障がい（病状）に対する理解が進んでいない (18.2)	職場まで通うのが大変 (18.8)	勤務時間が長い (10.7)
5位	いつ職場をやめさせられるか不安である (10.3)	いつ職場をやめさせられるか不安である (10.0)	—	職場まで通うのが大変 (15.9)	毎日働くことができない (18.8)	いつ職場をやめさせられるか不安である (8.3)
				職場の人と仲良くできない (15.9)	特にない	
				職場に相談する人がいない (15.9)	(18.8)	

(73) 就業・生活支援センター(尾張北部障害者就業・生活支援センターようわ)について知っていますか。また、利用したことはありますか。

身体問 42、知的問 40、精神問 42、難病問 36

障がいのある人すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。なお、知的障がいのある人で「知っているし、利用したことがある」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。

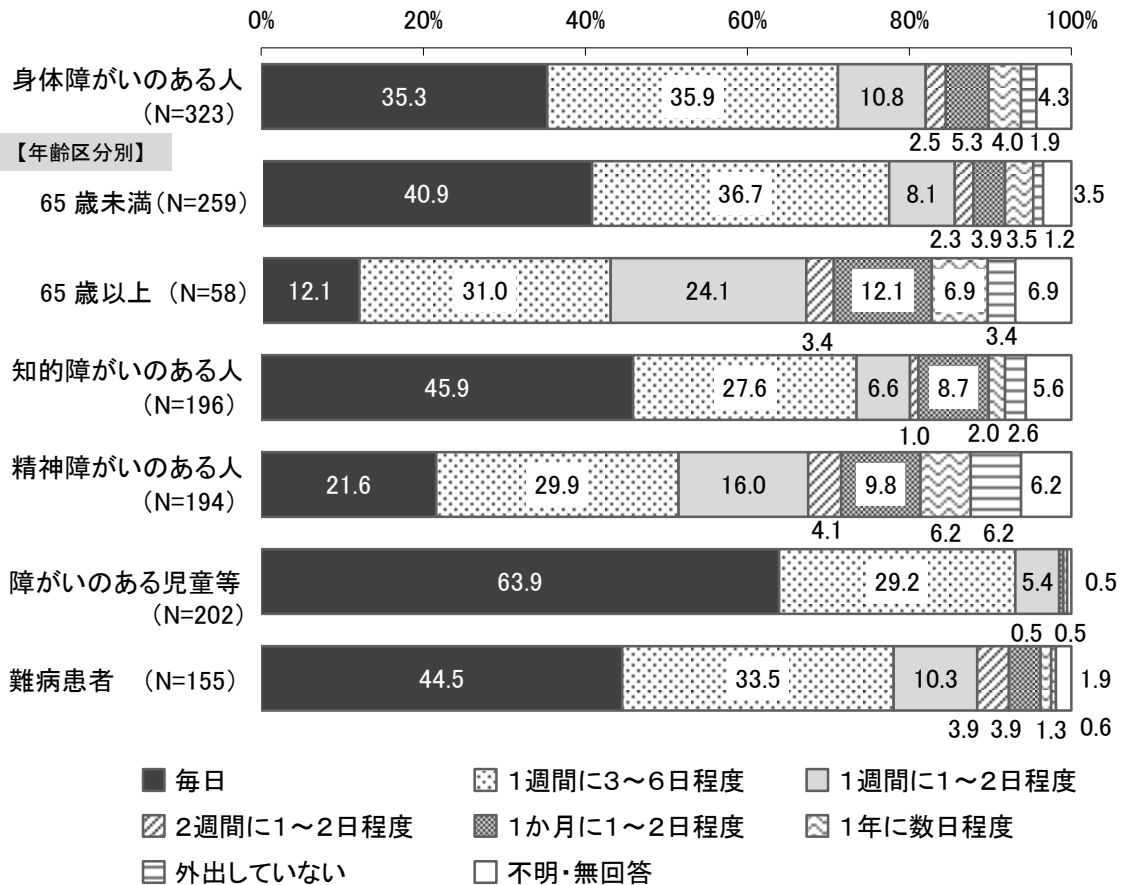


## 9. 生活環境について

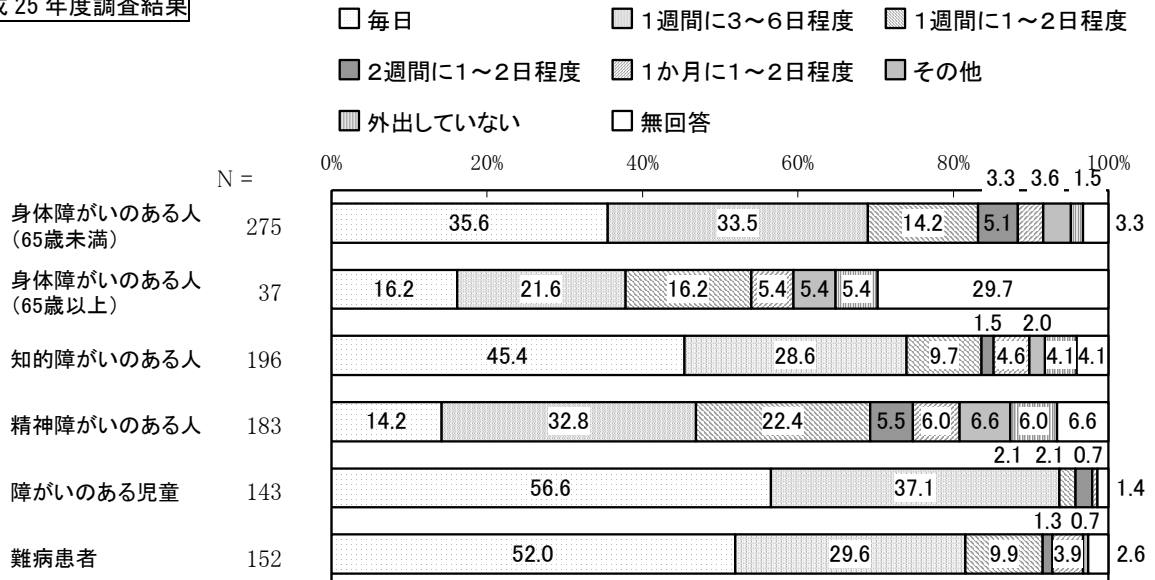
(74) この1年(平成27年10月1日～平成28年9月30日)のあいだにどの程度外出(通勤・通学・通院を含む)しましたか。

身体問43、知的問41、精神問43、児童問37、難病問37

「毎日」と「1週間に3～6日程度」の合計の割合が精神障がいのある人で約5割、他の障がいのある人等で7割以上となっています。



参考：平成25年度調査結果

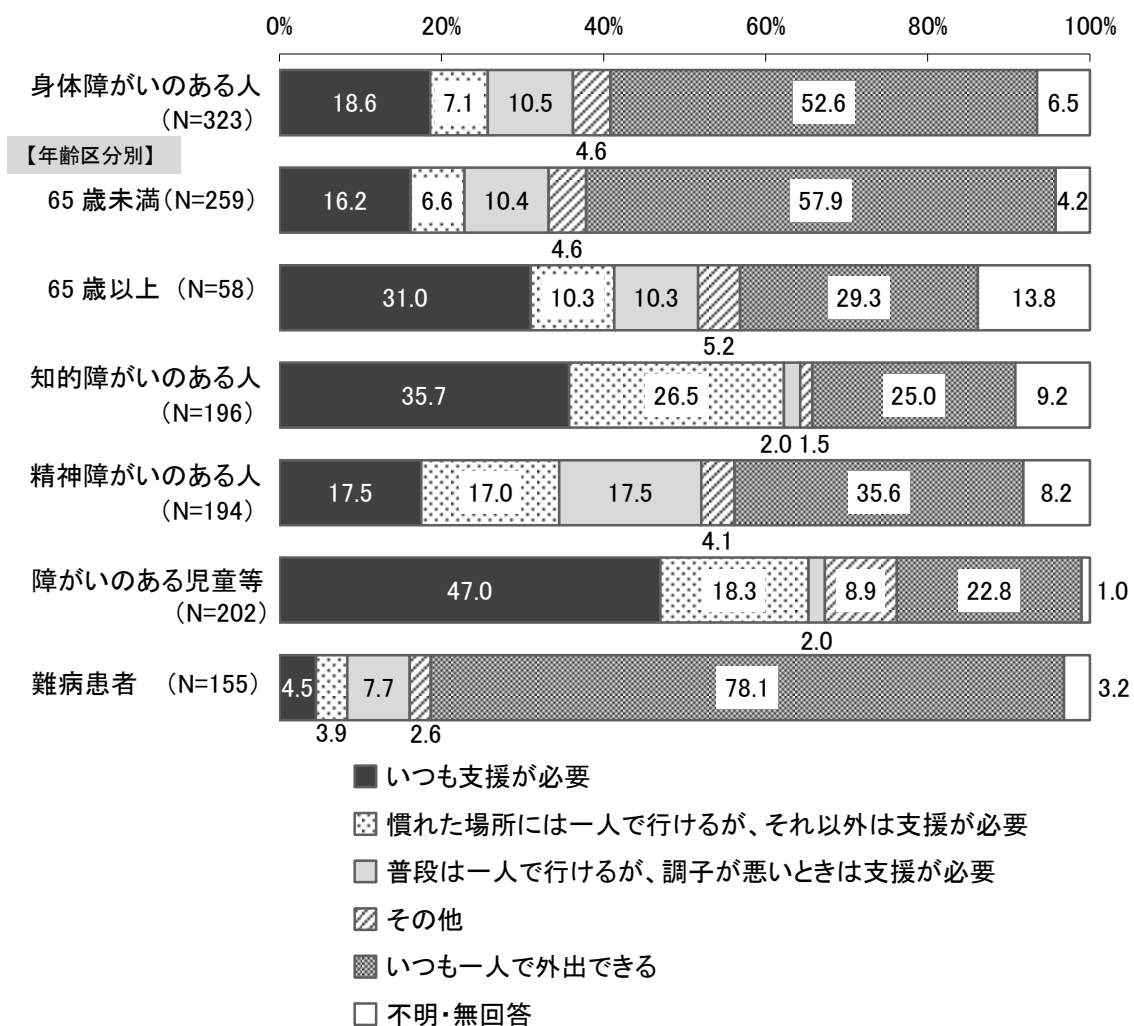


(75) 外出をするときに支援は必要ですか。

身体問 44、知的問 42、精神問 44、児童問 38、難病問 38

65歳未満の身体障がいのある人、精神障がいのある人及び難病患者で「いつも一人で外出できる」の割合が最も高くなっています。

一方で、65歳以上の身体障がいのある人、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「いつも支援が必要」の割合が3割超と高くなっています。



(76) 一人で外出できない場合、どのように外出していますか。(複数回答)

※ (75) で「いつも一人で外出できる」と答えた方以外に聞きました

身体問 45、知的問 43、精神問 45、児童問 39、難病問 39

障がいのある人等すべてで「家族に付き添ってもらっている」の割合が6割超と高くなっています。

(単位：%)

区分	福祉サービス(移動支援、行動援護、同行援護、重度訪問介護など)を利用している	有料サービス(福祉タクシー、介護タクシー、有償運送など)を利用している	事業所などの送迎を利用している	家族に付き添ってもらっている	友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている	その他	外出していない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=132)	12.9	15.2	12.1	68.9	9.1	1.5	7.6	6.8
知的障がいのある人 (N=129)	28.7	6.2	20.9	72.9	1.6	7.0	1.6	2.3
精神障がいのある人 (N=109)	3.7	13.8	7.3	63.3	8.3	6.4	21.1	2.8
障がいのある児童等 (N=154)	5.2	—	17.5	94.2	2.6	1.9	3.9	0.6
難病患者 (N=29)	—	10.3	6.9	69.0	6.9	6.9	10.3	10.3

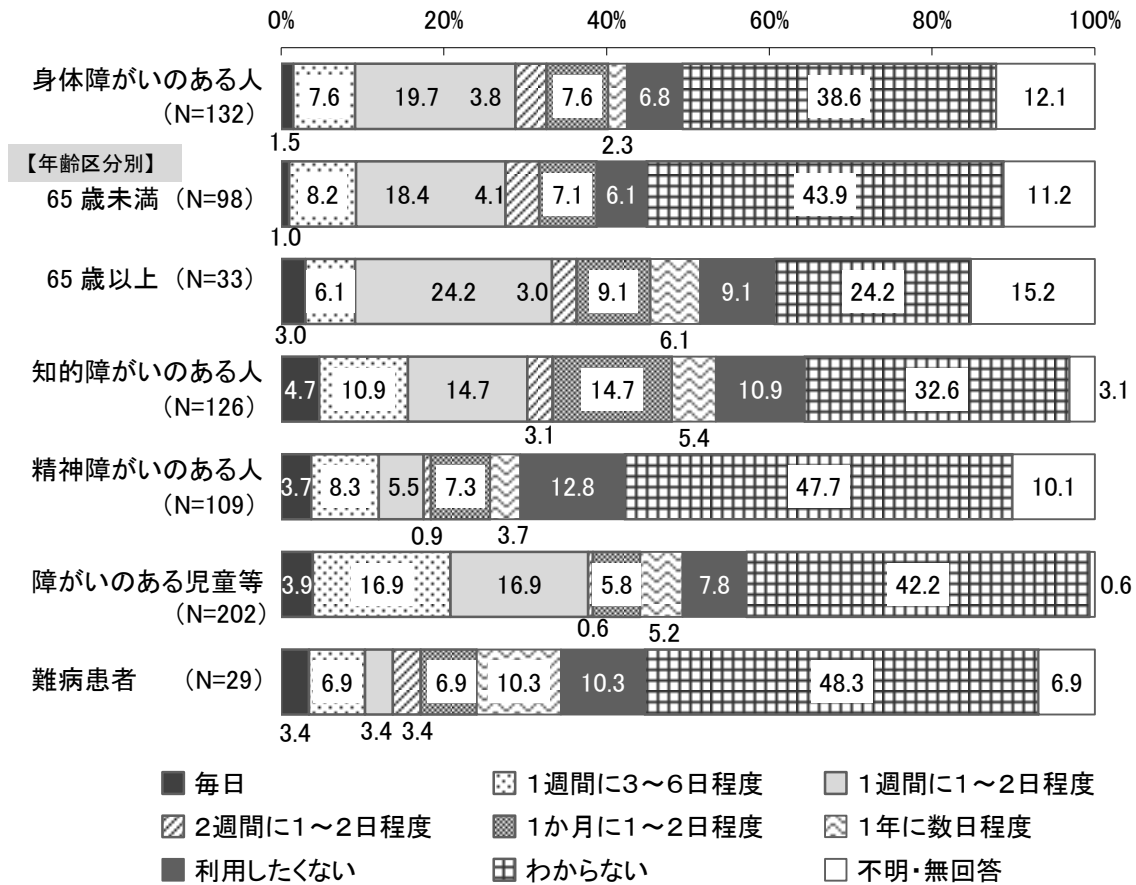


(77) 通勤・通学以外で外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか。

※ (75) で「いつも一人で外出できる」と答えた方以外に聞きました

身体問 46、知的問 44、精神問 46、児童問 40、難病問 40

身体障がいのある人、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で週1日以上（「毎日」「1週間に3～6日程度」「1週間に1～2日程度」の合計）の割合が高くなっています。



## 10. 情報の入手手段について

### (78) 福祉などの情報(県や市が行う福祉サービスやイベント、法律・制度のことなど)を得る手段はどれですか。(複数回答)

身体問 47、知的問 45、精神問 47、児童問 41、難病問 41、一般問 26

全体的には、「市の広報」の割合が高くなっています。知的障がいのある人で「施設や事業所」の割合が高くなっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
	(65歳未満)	(65歳以上)						
有効回答数(件)	323	259	58	196	194	202	155	254
1位	市の広報 (39.6)	市の広報 (39.4)	市の広報 (41.4)	施設や事業所 (42.3)	市の広報 (28.4)	市の広報 (44.6)	市の広報 (49.0)	市の広報 (59.4)
2位	新聞・雑誌・一般図書 (27.9)	新聞・雑誌・一般図書 (28.2)	新聞・雑誌・一般図書 (29.3)	市の広報 (28.6)	特にない (20.6)	家族・友人 (28.2)	新聞・雑誌・一般図書 (31.6)	テレビ (40.2)
3位	テレビ(一般放送) (21.4)	パソコン (23.9)	区・町内会・自治会の回覧板 (20.7)	家族・友人 (23.0)	新聞・雑誌・一般図書 (19.1)	施設や事業所 (27.7)	パソコン (22.6)	インターネット (31.5)
4位	パソコン (20.4)	テレビ(一般放送) (22.0)	テレビ(一般放送) (19.0)	新聞・雑誌・一般図書 (16.8)	テレビ(一般放送) (17.5)	携帯電話・スマートフォン (25.7)	携帯電話・スマートフォン (21.3)	区・町内会・自治会の回覧板 (31.1)
5位	特にない (14.9)	携帯電話・スマートフォン (15.8)	特にない (13.8)	特にない (15.8)	家族・友人 (16.0)	パソコン (22.3)	特にない (14.8)	新聞・雑誌・一般図書 (30.3)

※障がいのない人は選択肢が異なります。

【身体障がいのある人・障がい種別クロス】

(単位：%)

区分	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしやく機能障がい	肢体不自由	心臓機能障がい	腎臓機能障がい	その他内部障がい
有効回答数(件)	26	25	15	146	50	49	25
1位	市の広報 (26.9)	市の広報 (36.0)	施設や事業所 (33.3)	市の広報 (45.9)	市の広報 (36.0)	市の広報 (40.8)	新聞・雑誌・一般図書 (32.0)
2位	テレビ(一般放送) (23.1)	携帯電話・スマートフォン (28.0)	特にな (33.3)	新聞・雑誌・一般図書 (28.8)	新聞・雑誌・一般図書 (28.0)	新聞・雑誌・一般図書 (30.6)	パソコン (32.0)
3位	新聞・雑誌・一般図書 (19.2)	家族・友人 (28.0)	市の広報 (26.7)	テレビ(一般放送) (22.6)	テレビ(一般放送) (28.0)	特にな (24.5)	市の広報 (28.0)
4位	パソコン (15.4)	新聞・雑誌・一般図書 (24.0)	家族・友人 (26.7)	パソコン (18.5)	パソコン (24.0)	テレビ(一般放送) (22.4)	テレビ(一般放送) (16.0)
5位	特にな (15.4)	パソコン (24.0)	新聞・雑誌・一般図書 (20.0)	家族・友人 (13.0)	家族・友人 (24.0)	パソコン (16.3)	特にな (16.0)
				施設や事業所 (13.0)			

参考：平成25年度調査結果

単位：%

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童	難病患者
有効回答数(件)	320	196	183	143	152
1位	市の広報 (47.5)	家族・友人 (34.7)	市の広報 (30.1)	市の広報 (43.4)	市の広報 (53.3)
2位	新聞・雑誌・一般図書 (41.3)	市の広報 (34.2)	新聞・雑誌・一般図書 (29.0)	家族・友人 (39.9)	新聞・雑誌・一般図書 (43.4)
3位	テレビ(一般放送) (30.6)	テレビ(一般放送) (21.9)	テレビ(一般放送) (24.0)	新聞・雑誌・一般図書 (29.4)	ホームページ・電子メール (25.7)
4位	ホームページ・電子メール (15.0)	新聞・雑誌・一般図書 (15.3)	特にな (19.1)	市・県の福祉サービスガイド (23.8)	テレビ(一般放送) (22.4)
5位	家族・友人 (14.7)	特にな (13.3)	家族・友人 (18.6)	ホームページ・電子メール (23.1)	携帯電話・スマートフォン (12.5)
					家族・友人 (12.5)

## 11. 災害など緊急事態の対応について

### (79) 地震などの災害が起こった場合、主に情報を得る手段は何だと思いますか。

身体問 48、知的問 46、精神問 48、児童問 42、難病問 42

障がいのある人等すべてで「テレビ」「家族、近所の人、友人・知人」「携帯電話・スマートフォン」が上位となっています。

(単位：%)

区分	友人・知人 家族、近所の人、	テレビ	ラジオ	ファックス	パソコン	スマートフォン 携帯電話・スマート	その他	自ら情報を得ることはできない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=323)	18.0	43.7	11.5	—	3.1	33.4	1.9	4.6	2.5
[障がい別]									
視覚障がい (N=26)	19.2	26.9	15.4	—	—	30.8	—	3.8	11.5
聴覚・平衡機能障がい (N=25)	52.0	24.0	4.0	—	—	40.0	4.0	—	4.0
音声・言語・そしゃく機能障がい (N=15)	46.7	40.0	6.7	—	—	—	6.7	20.0	—
肢体不自由 (N=146)	14.4	47.9	11.6	—	3.4	31.5	2.1	6.8	1.4
心臓機能障がい (N=50)	16.0	48.0	4.0	—	4.0	42.0	—	—	4.0
腎臓機能障がい (N=49)	16.3	44.9	20.4	—	—	28.6	—	2.0	—
その他内部障がい (N=25)	16.0	52.0	16.0	—	12.0	36.0	4.0	4.0	—
知的障がいのある人 (N=196)	39.8	30.1	6.1	—	2.0	15.8	1.0	14.3	4.6
精神障がいのある人 (N=194)	22.7	38.1	8.2	—	2.6	32.5	1.5	7.7	4.1
障がいのある児童等 (N=202)	36.1	24.3	5.4	—	3.0	39.1	2.0	2.0	1.0
難病患者 (N=155)	12.9	42.6	11.6	—	1.9	47.1	—	—	1.3

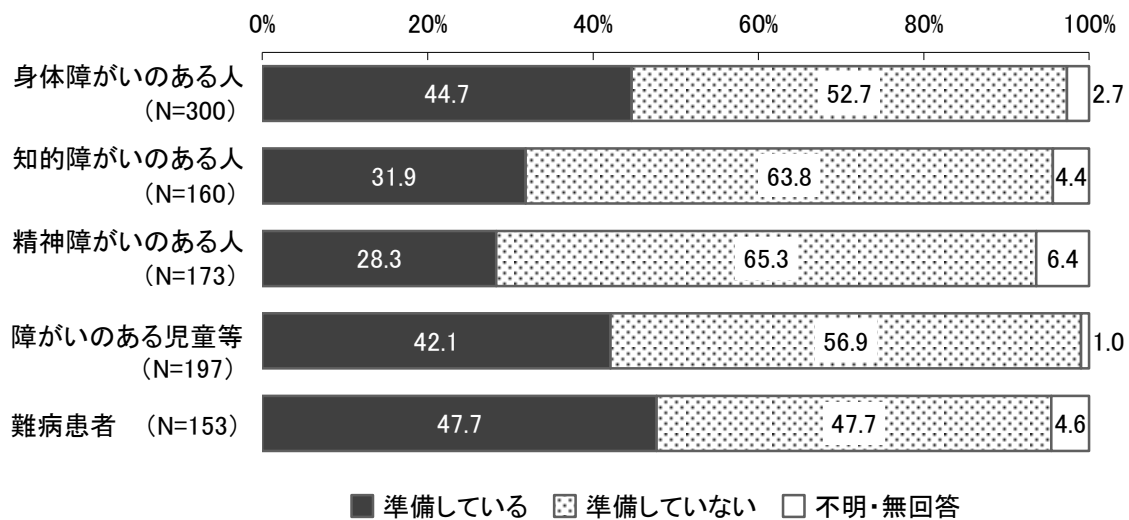
※複数回答した人もいます

**(80) (79)で回答した情報を得る手段について、地震などの災害が起こった場合に利用できるよう準備していますか。**

※ (79) で「自ら情報を得ることはできない」と答えた方以外に聞きました

身体問 49、知的問 47、精神問 49、児童問 43、難病問 43

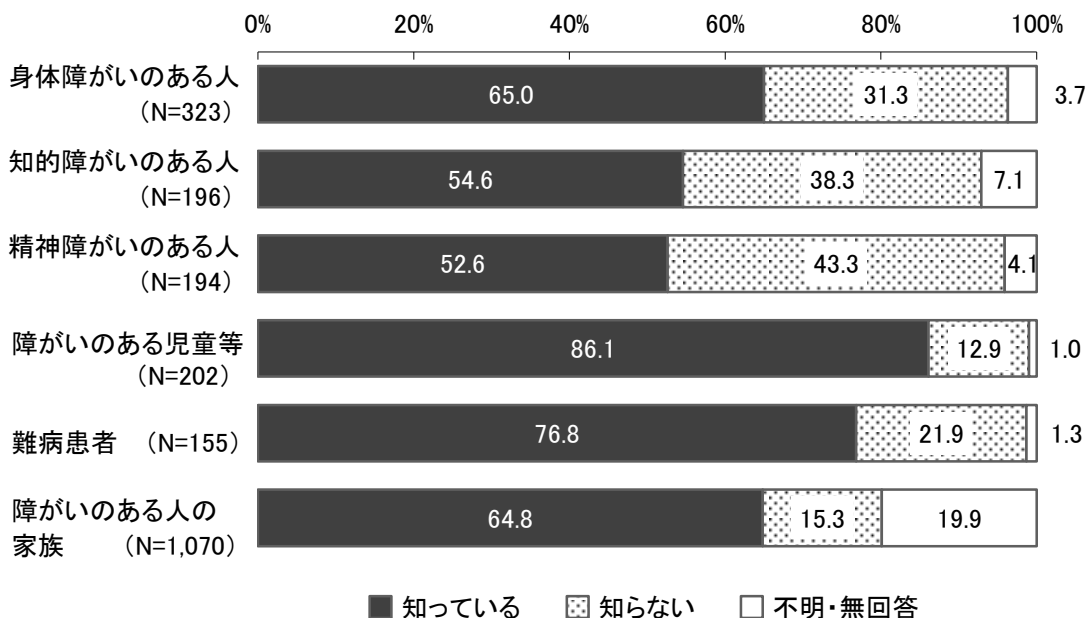
「準備している」の割合は、知的障がいのある人及び精神障がいのある人は3割前後、その他の障がいのある人等で4割強となっています。



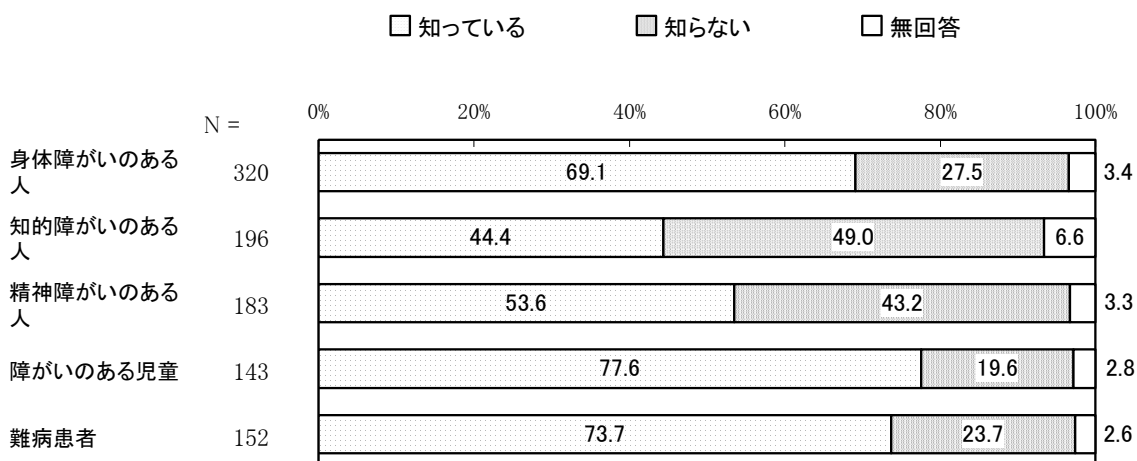
(81) 地震などの災害が起こった場合の避難場所を知っていますか。

身体問 50、知的問 48、精神問 50、児童問 44、難病問 44、家族問 18

前回の調査と比較して、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「知っている」の割合が増加しましたが、他の障がいでは大きな変化はありません。



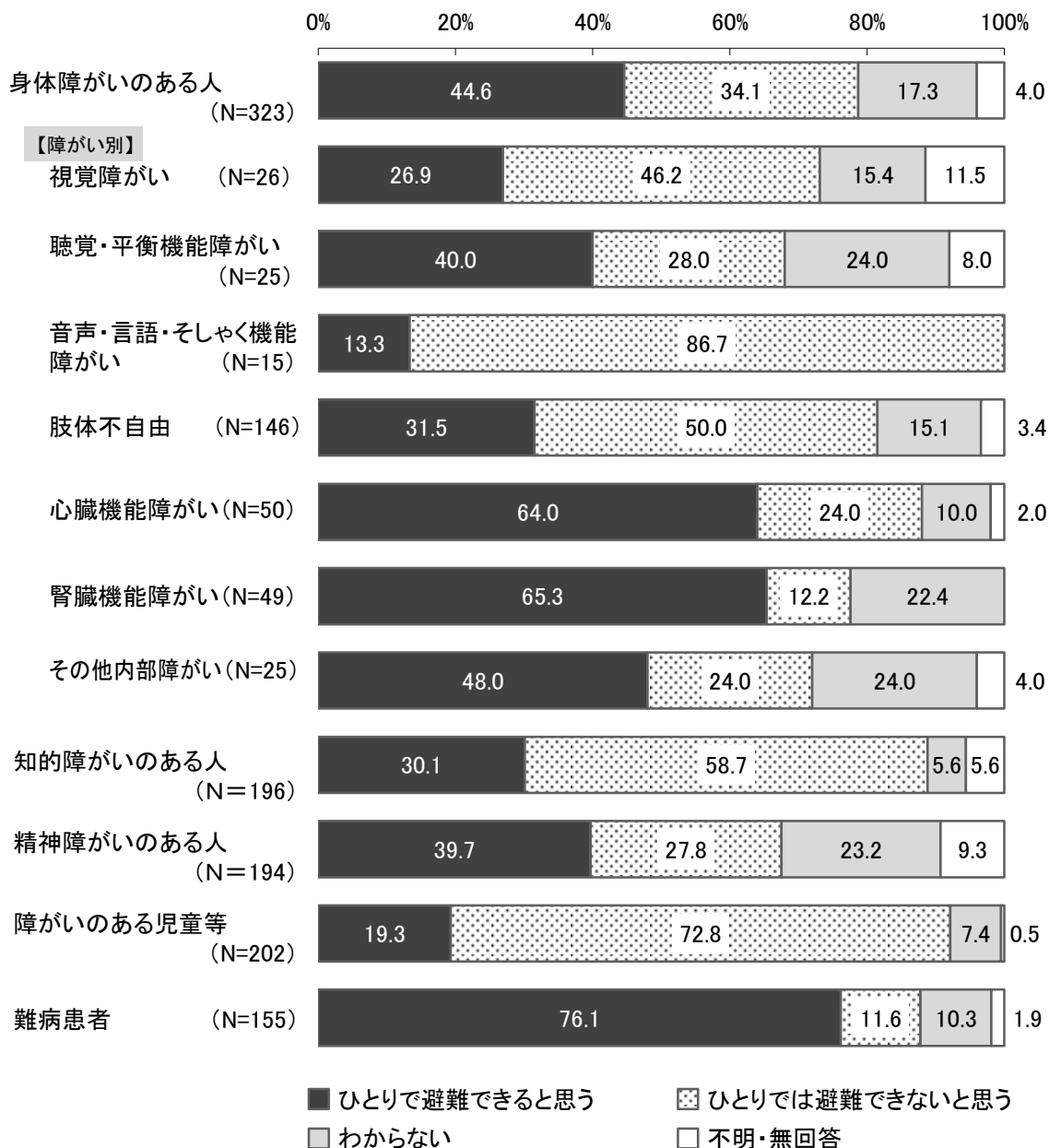
参考：平成 25 年度調査結果

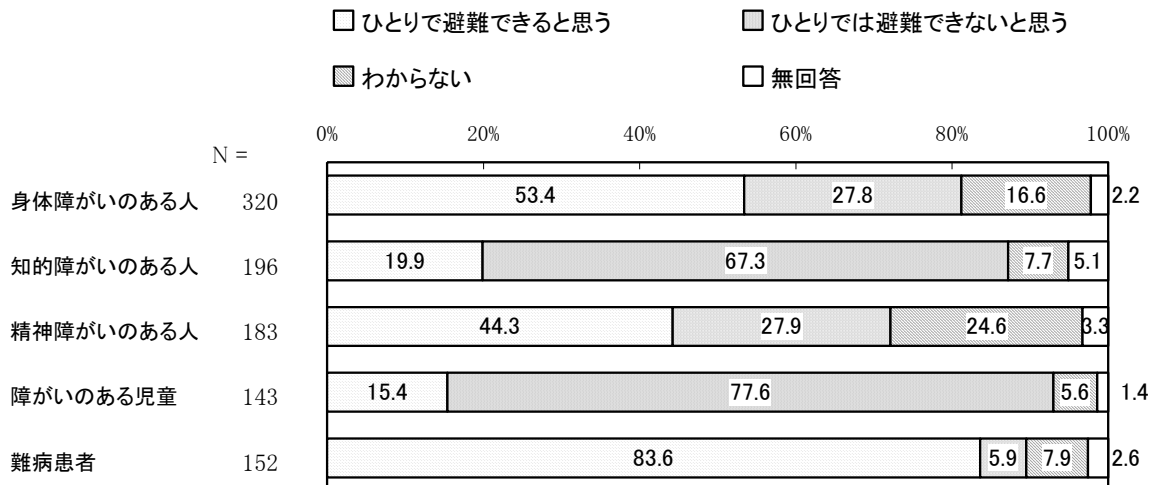


(82) 自宅にいるときに地震などの災害が起こった場合、ひとりで避難場所まで避難できると思いますか。

身体問 51、知的問 49、精神問 51、児童問 45、難病問 45

身体障がいのある人、精神障がいのある人及び難病患者で「ひとりで避難できると思う」、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「ひとりでは避難できないと思う」の割合が最も高くなっています。なお、身体障がいのある人のうち視覚障がいのある人、音声・言語・そしゃく機能障がいのある人及び肢体不自由の人で「ひとりでは避難できないと思う」の割合が高くなっています。





**(83) 一緒に避難場所まで避難してもらう人はだれですか。(複数回答)**

※ (82) で「ひとりでは避難できないと思う」と答えた方に聞きました

身体問 52、知的問 50、精神問 52、児童問 46、難病問 46

障がいのある人等すべてで「同居の家族や親族」の割合が最も高くなっています。

一方、身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「一緒に避難してくれる人がいない」の割合が 1 割前後となっています。

(単位：%)

区分	同居の家族や親族	別居の家族や親族	近所の人	友人・知人	民生委員	区・町内会・自治会の役員	福祉サービスの事業所	その他	一緒に避難してくれる人がいない	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=110)	70.0	10.0	15.5	9.1	3.6	6.4	13.6	8.2	9.1	1.8
知的障がいのある人 (N=115)	80.9	7.0	4.3	1.7	1.7	5.2	23.5	4.3	3.5	0.9
精神障がいのある人 (N=54)	61.1	3.7	5.6	—	5.6	1.9	11.1	13.0	11.1	1.9
障がいのある児童等 (N=147)	91.2	12.9	15.0	6.1	—	0.7	7.5	2.0	4.1	—
難病患者 (N=18)	61.1	22.2	16.7	5.6	5.6	11.1	—	11.1	—	—



(84) 地震などの災害が起こったときに困ると思うことは何ですか。(複数回答)

身体問 53、知的問 51、精神問 53、児童問 47、難病問 47

身体障がいのある人、精神障がいのある人及び難病患者で「一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい」、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい」の割合がそれぞれ高くなっています。

(単位：%)

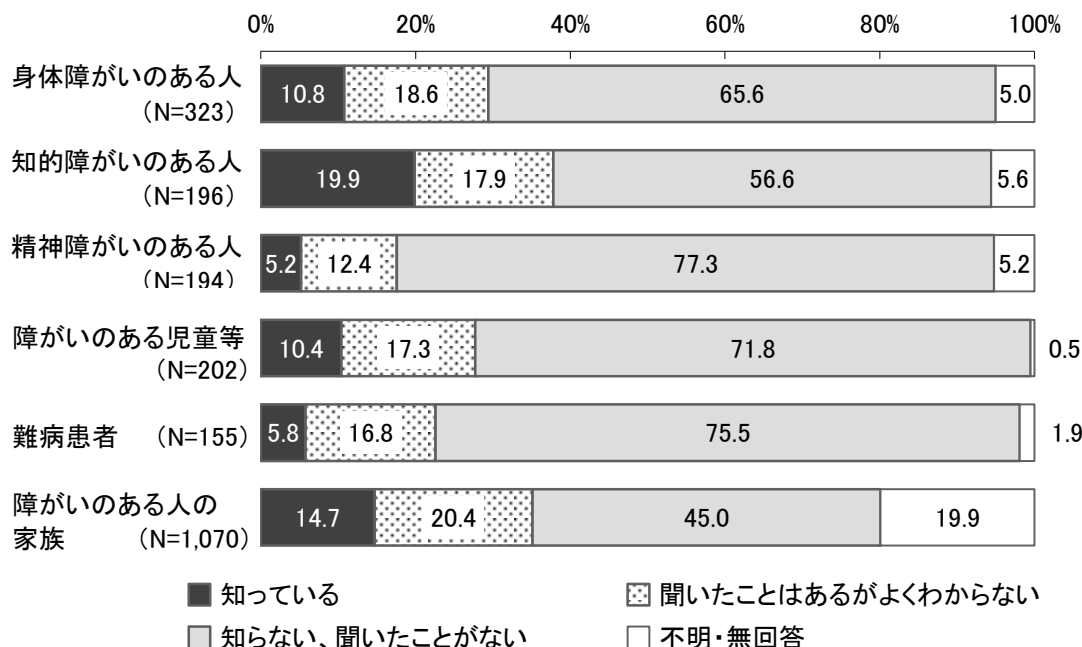
区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
有効回答数(件)	323	196	194	202	155
1位	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (31.3)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (73.5)	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (40.2)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (72.3)	特に困ることはない (33.5)
2位	避難場所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (29.4)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (54.1)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (39.7)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (55.9)	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (32.3)
3位	自力歩行が困難で、安全なところまですばやく避難できない (28.2)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求めることができない (53.1)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (34.0)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (51.0)	避難場所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (21.3)
4位	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (25.1)	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない (49.0)	障がい(病状)への理解が得られず、避難場所で生活できない (25.8)	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない (48.0)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (12.3)
5位	障がい(病状)への理解が得られず、避難場所で生活できない (21.1)	障がい(病状)への理解が得られず、避難場所で生活できない (34.7)	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない (25.3)	障がい(病状)への理解が得られず、避難場所で生活できない (36.6)	自力歩行が困難で、安全なところまですばやく避難できない (9.7)
					障がい(病状)への理解が得られず、避難場所で生活できない (9.7)

(85) 春日井市の災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。

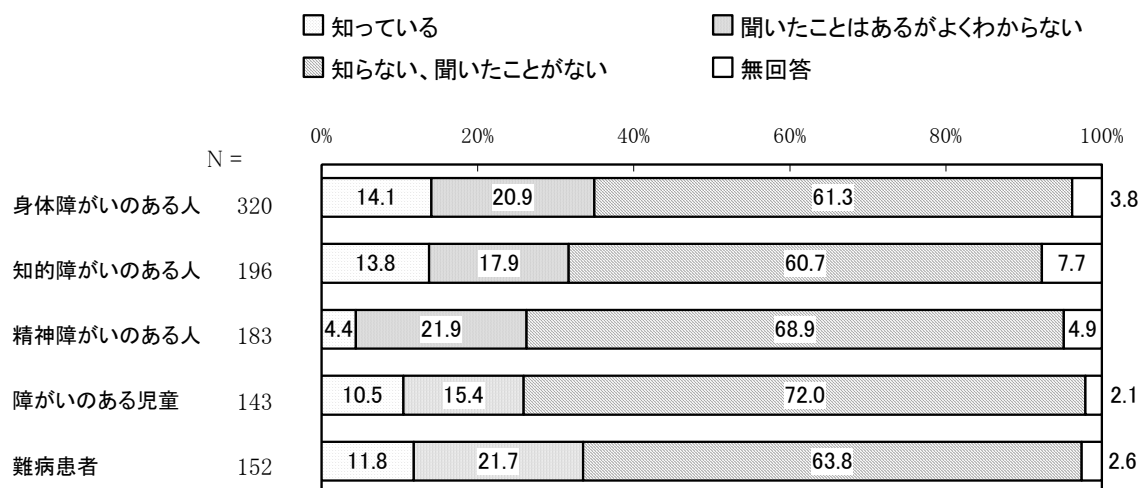
身体問 54、知的問 52、精神問 54、児童問 48、難病問 48、家族問 19

障がいのある人等及びその家族すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。

なお、知的障がいのある人で「知っている」の割合が他の障がい等と比べて高くなっています。



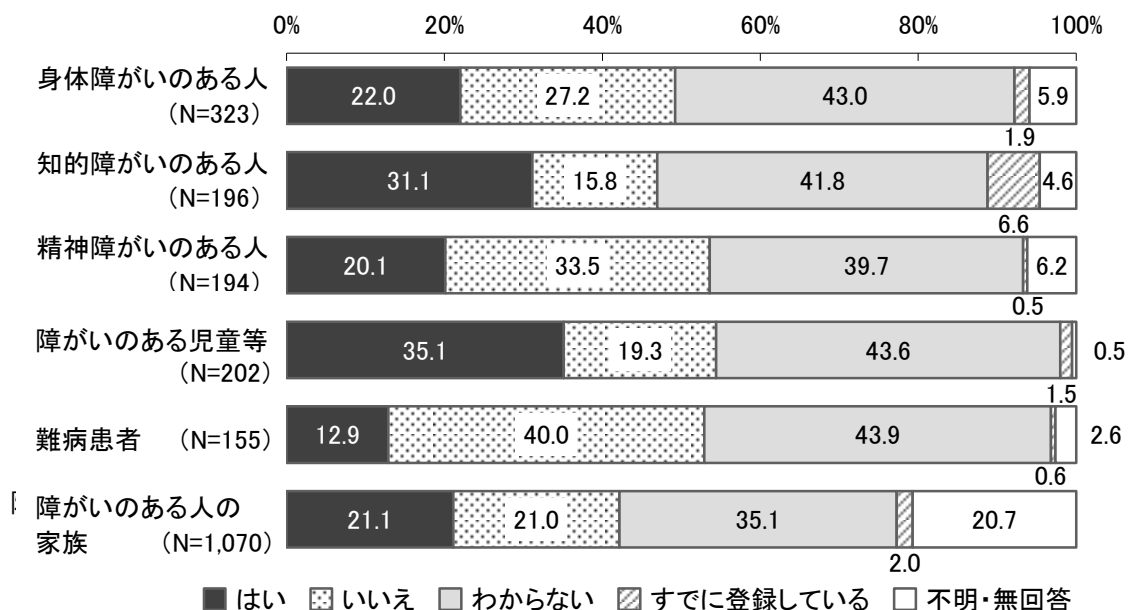
参考：平成 25 年度調査結果



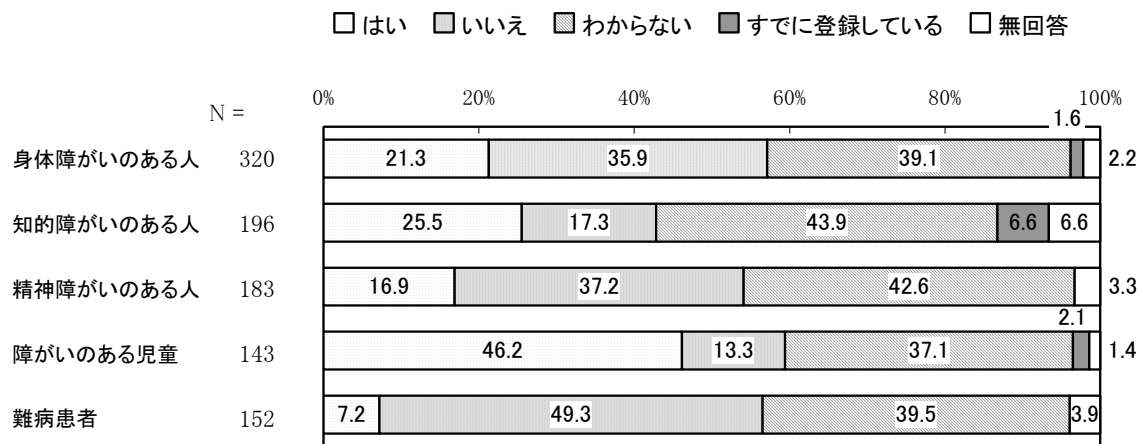
(86) 災害時要援護者名簿に登録したいと思いませんか。

身体問 55、知的問 53、精神問 55、児童問 49、難病問 49、家族問 20

知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「はい」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果



(87) 登録したくないと思う理由は何ですか。(複数回答)

※ (86) で「いいえ」と答えられた方に聞きました

身体問 56、知的問 54、精神問 56、児童問 50、難病問 50、家族問 21

精神障がいのある人で「個人情報保護されるか心配だから」、その他の障がいのある人等及びその家族すべてで「必要だと思わないから」の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	個人情報保護されるか心配だから	他人の世話になりたくないから	必要だと思わないから	自身(家族)の状況を知られたくないから	その他	不明・無回答
身体障がいのある人 (N=88)	14.8	10.2	51.1	13.6	15.9	2.3
知的障がいのある人 (N=31)	12.9	6.5	38.7	9.7	35.5	3.2
精神障がいのある人 (N=65)	35.4	10.8	29.2	33.8	16.9	3.1
障がいのある児童等 (N=39)	12.8	5.1	71.8	7.7	20.5	—
難病患者 (N=62)	8.1	17.7	72.6	11.3	6.5	—
障がいのある人の家族 (N=225)	17.8	5.3	61.8	9.3	13.3	1.3

[主な「その他」の内容]

内容
家族と同居しているため
施設に入所しているから
入院しているから
良く知らない人だとパニックになる。コミュニケーションが取れないため
作業所、グループホームで対応してもらえるから

(88) あなたは、地震や台風などの災害時に備え、障がいのある人や高齢者などの避難について、地域でどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(複数回答)

身体問 57、知的問 55、精神問 57、児童問 51、難病問 51、一般問 17

身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「災害時の医療体制の確立」、知的障がいのある人で「災害時の情報伝達方法の確立」、障がいのある児童等で「福祉避難所の拡充」「障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保」、難病患者及び障がいのない人で「近所での日頃からの協力体制づくり」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

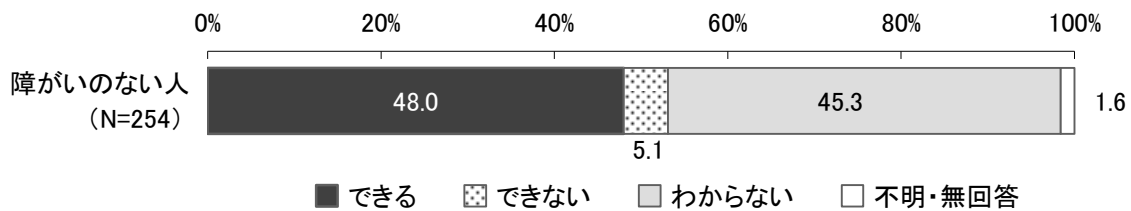
(単位：%)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
有効回答数(件)	323	196	194	202	155	254
1位	災害時の医療体制の確立 (31.3)	災害時の情報伝達方法の確立 (32.1)	災害時の医療体制の確立 (33.5)	福祉避難所の拡充 (41.1)	近所での日頃からの協力体制づくり (40.0)	近所での日頃からの協力体制づくり (44.5)
2位	配慮が必要な人のためのトイレ設備やごみ処理の確保 (29.7)	福祉避難所の数を増やす (27.6)	近所での日頃からの協力体制づくり (28.4)	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (41.1)	災害時の医療体制の確立 (35.5)	災害時の情報伝達方法の確立 (36.2)
3位	近所での日頃からの協力体制づくり (28.8)	わからない (24.0)	災害時の生活を支援する体制の確立 (26.3)	近所での日頃からの協力体制づくり (37.6)	配慮が必要な人のためのトイレ設備やごみ処理の確保 (32.3)	災害時の医療体制の確立 (29.1)
4位	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (27.9)	災害時に早く避難できる方法を考える (21.4)	災害時の情報伝達方法の確立 (23.2)	災害時の生活を支援する体制の確立 (30.7)	災害時の情報伝達方法の確立 (31.6)	福祉避難所の拡充 (29.1)
5位	福祉避難所の拡充 (25.7)	災害時の生活の支援について決めておく (20.9)	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (22.7)	災害時の情報伝達方法の確立 (25.7) 配慮が必要な人のためのトイレ設備やごみ処理の確保 (25.7)	災害時の生活を支援する体制の確立 (22.6)	災害時の円滑な避難方法の確立 (26.8)

(89) あなたは、災害時に障がいのある人を見かけたら、支援を行うことができますか。

一般問 15

約5割の人が「できる」と回答しています。

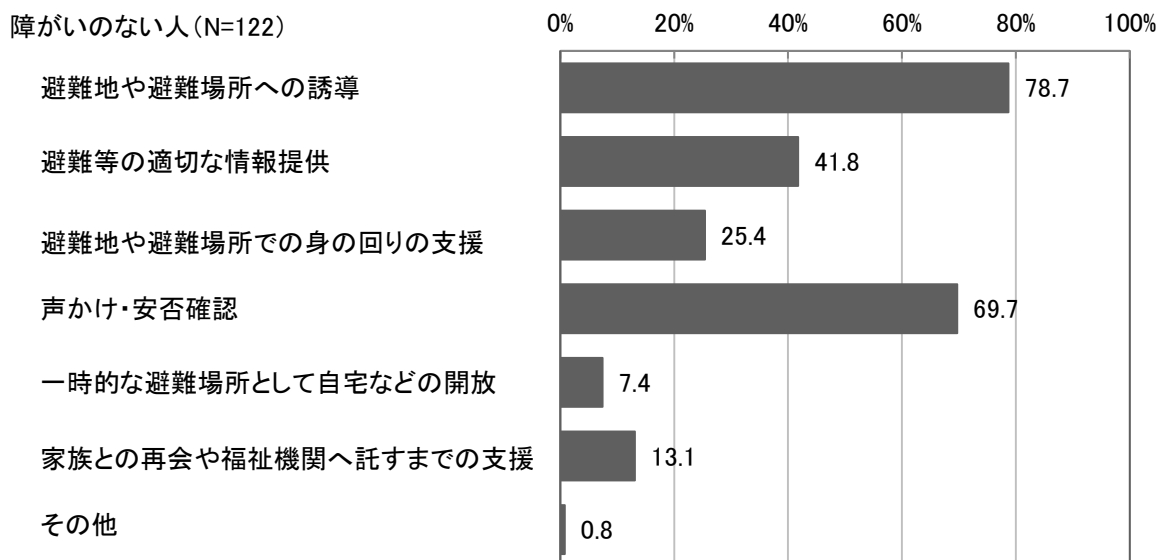


(90) あなたは、どんな支援ができると思いますか。(複数回答)

※ (89) で「できる」と答えた方に聞きました

一般問 16

「避難地や避難場所への誘導」の割合が最も高く、次いで「声かけ・安否確認」となっています。



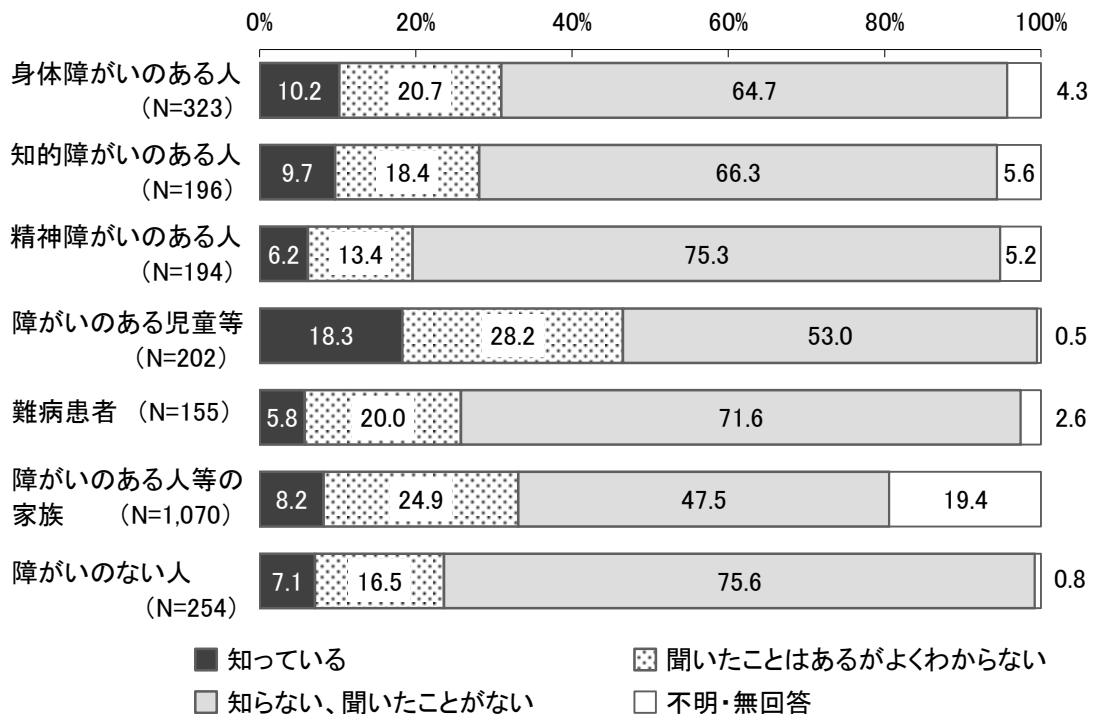
## 12. 障がい者の人権について

(91) 平成 28 年 4 月より障害者差別解消法が施行されています。この法律では、国や地方公共団体、民間事業所で「合理的配慮」を提供することが求められています。あなたは、「合理的配慮」について知っていましたか。

身体問 58、知的問 56、精神問 58、児童問 52、難病問 52、家族問 12、一般問 18

障がいのある人等及びその家族すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。

なお、障がいのある児童等で「知っている」「聞いたことはあるがよくわからない」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。

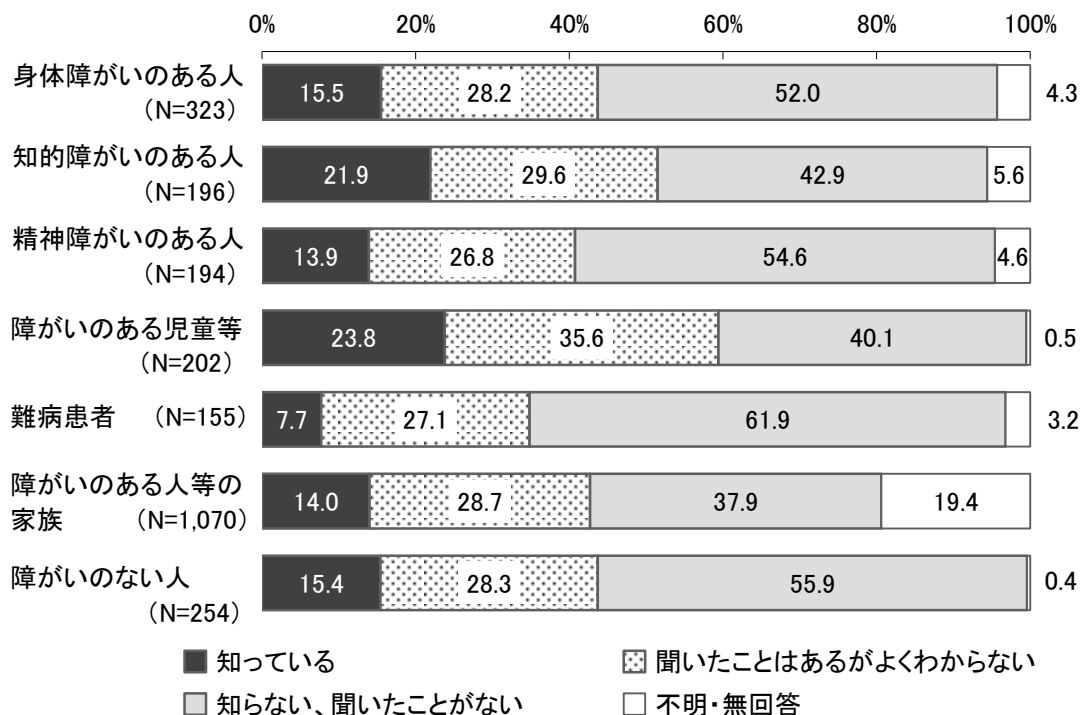


(92) 障害者虐待防止法(障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)について知っていますか。

身体問 59、知的問 61、精神問 63、児童問 57、難病問 53、家族問 13、一般問 19

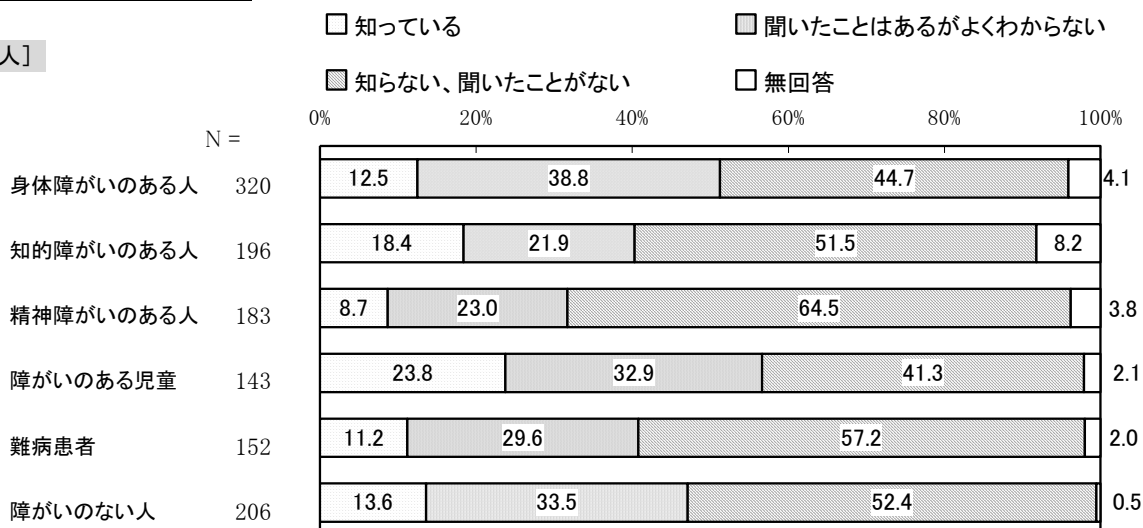
障がいのある人等及びその家族すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高く、身体障がいのある人、精神障がいある人、難病患者、障がいのない人で5割を超えています。

なお、障がいのある児童等で「知っている」「聞いたことはあるがよくわからない」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



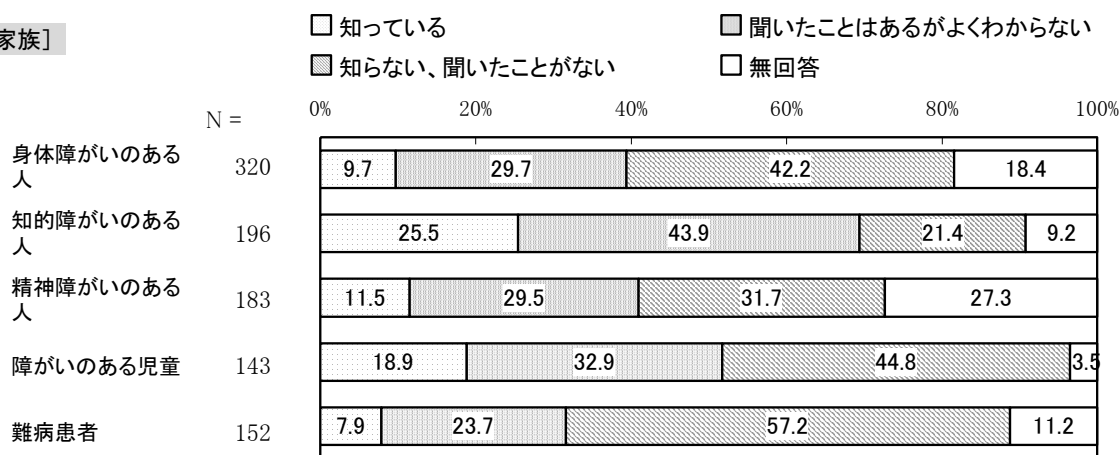
参考：平成 25 年度調査結果

[本人]





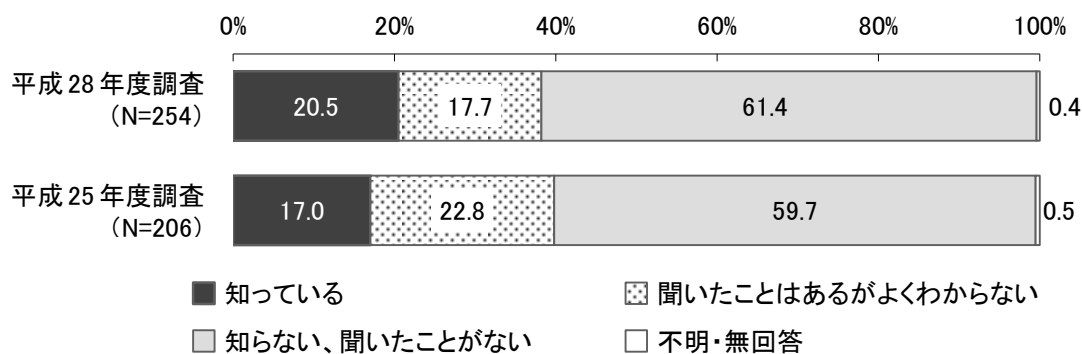
[家族]



(93) 障害者虐待防止法について、虐待を受けたと思われる障がいのある人を発見した場合に通報する義務があることを知っていますか。

一般問 20

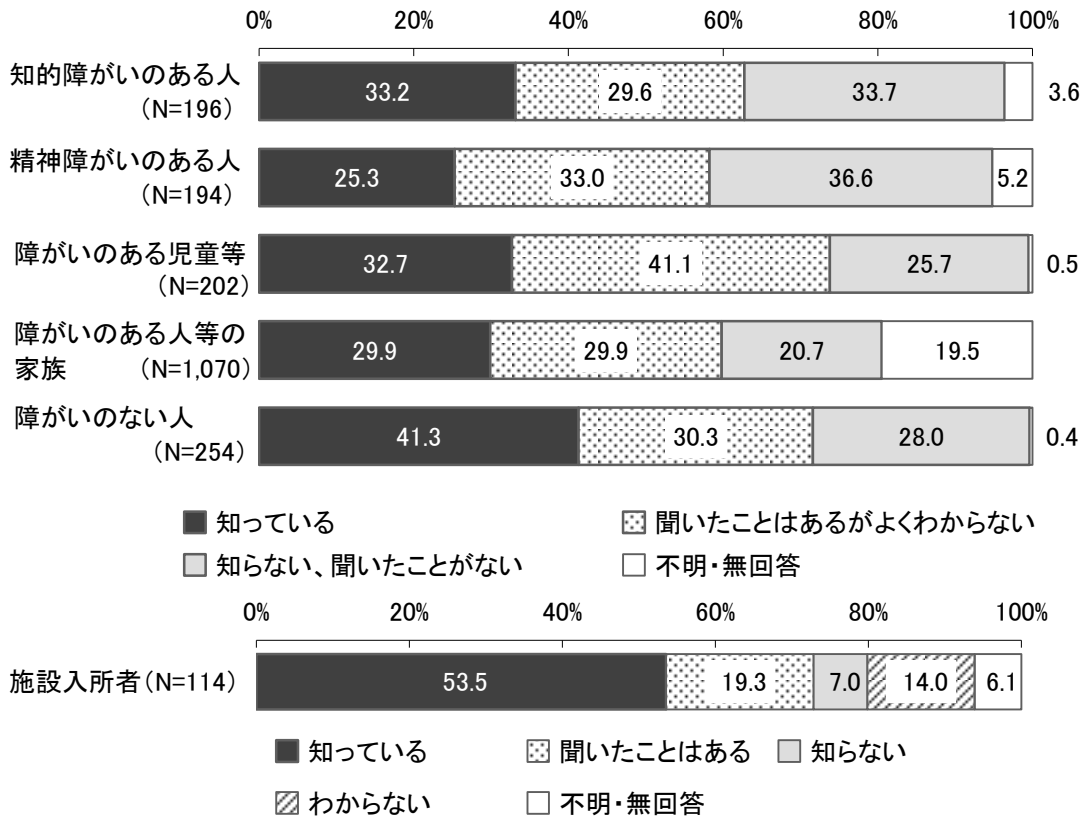
前回の調査と比較して、「知っている」の割合が少し増加しています。



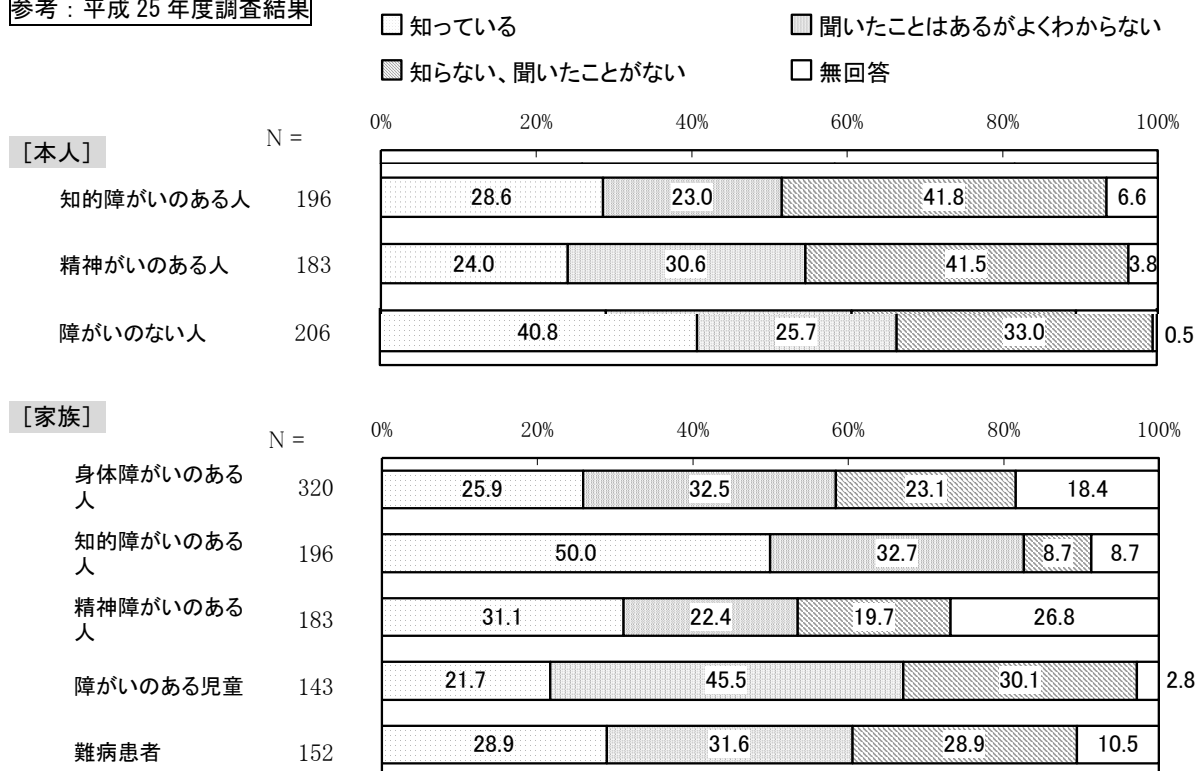
(94) 成年後見制度について、知っていますか。

知的問 57、精神問 59、児童問 53、家族問 14、一般問 22、施設問 3

知的障がいのある人及び精神障がいのある人で「知らない、聞いたことがない」、障がいのある児童等及び障がいのある人等の家族で「聞いたことはあるがよくわからない」、障がいのある人等の家族、障がいのない人及び施設入所者で「知っている」の割合がそれぞれ最も高くなっています。



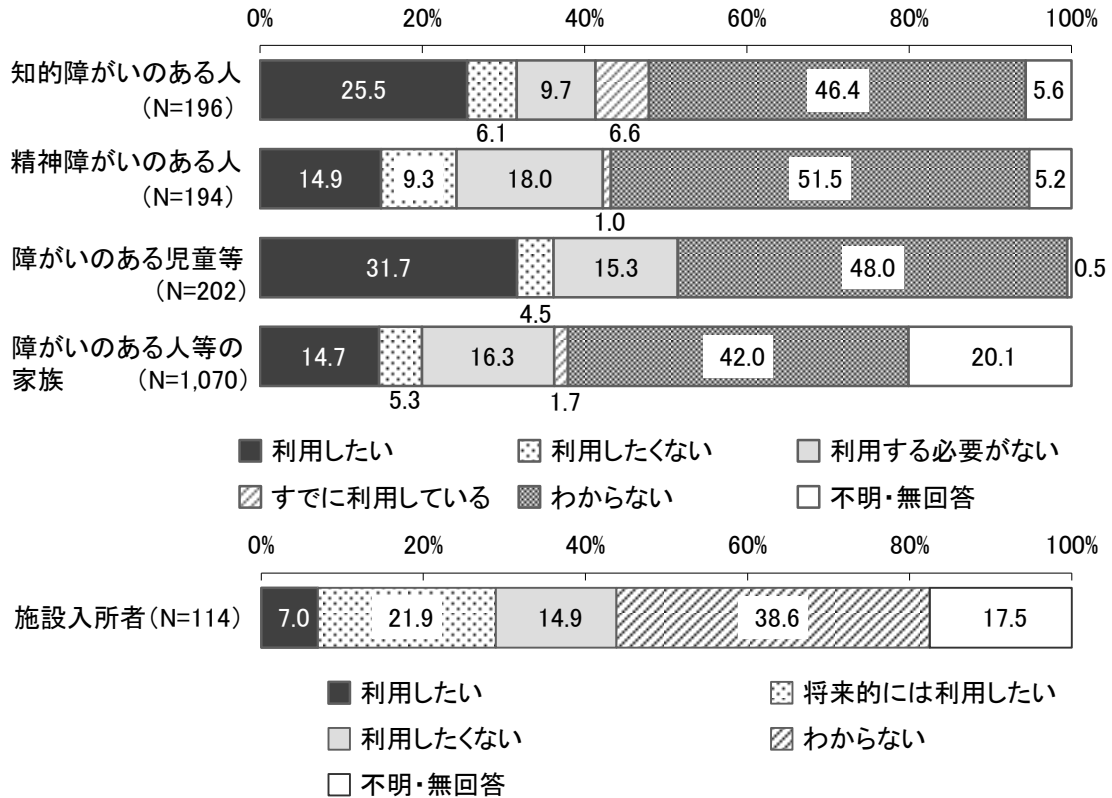
参考：平成 25 年度調査結果



(95) 成年後見制度について、将来的に利用したいと思いますか。

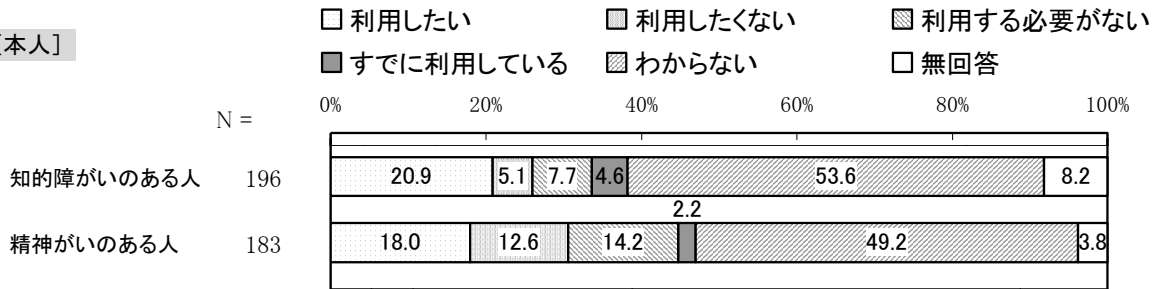
知的問 58、精神問 60、児童問 54、家族問 15、施設問 4

「わからない」を除いて、知的障がいのある人、障がいのある児童等及び施設入所者で「利用したい(「将来的には利用したい」を含む)の割合が高くなっています。

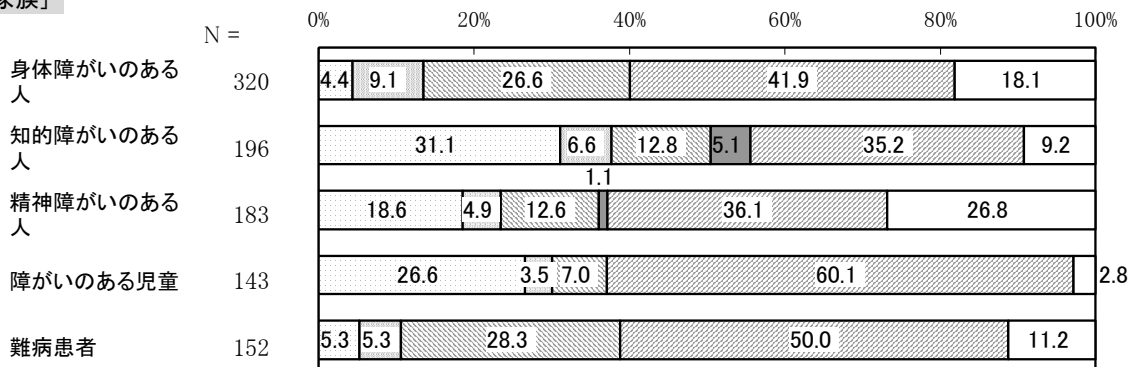


参考：平成 25 年度調査結果

[本人]



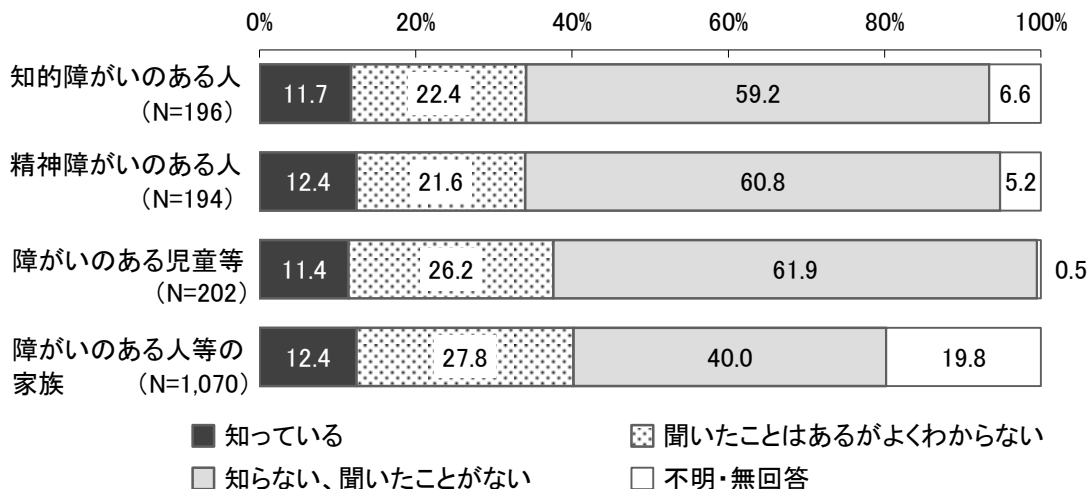
[家族]



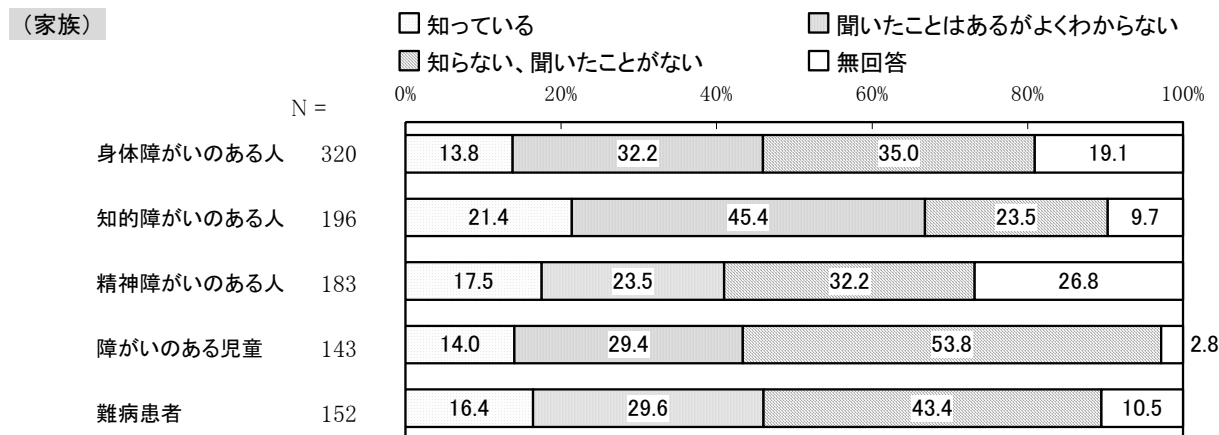
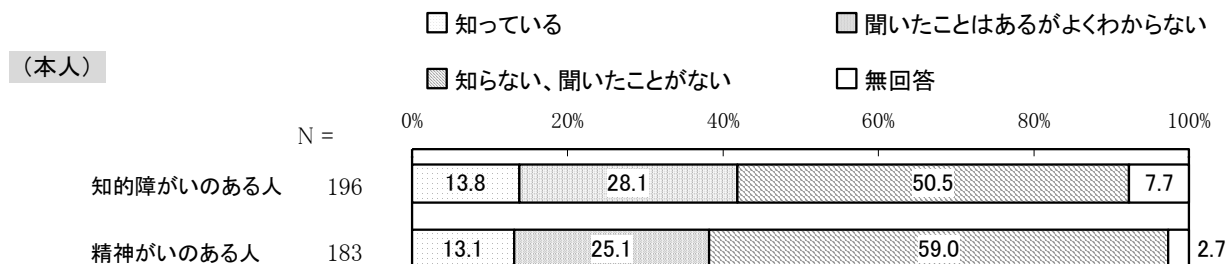
(96) 日常生活自立支援事業について、知っていますか。

知的問 59、精神問 61、児童問 55、家族問 16

障がいのある人等及びその家族すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果

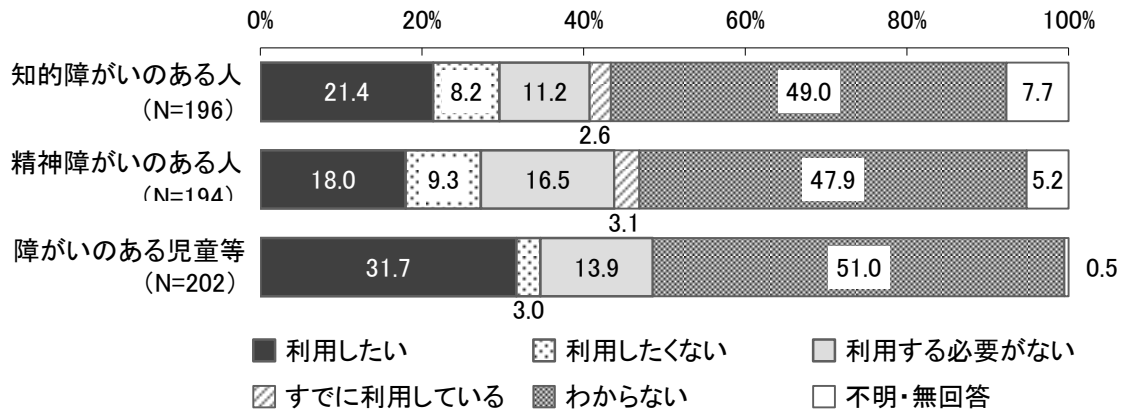


(97) 日常生活自立支援事業について、将来的に利用したいと思いますか。

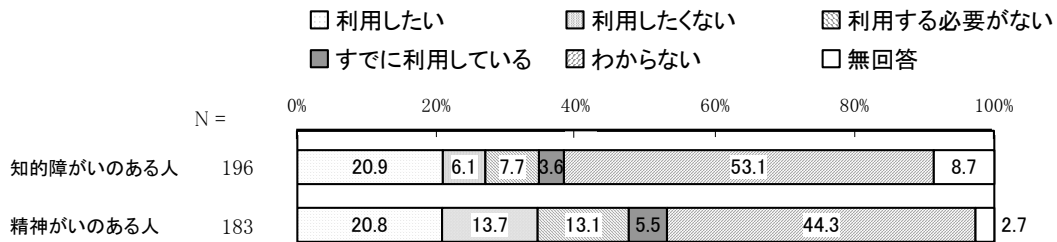
知的問 60、精神問 62、児童問 56

障がいのある人等すべてで「わからない」の割合が最も高くなっています。

なお、障がいのある児童等で「利用したい」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



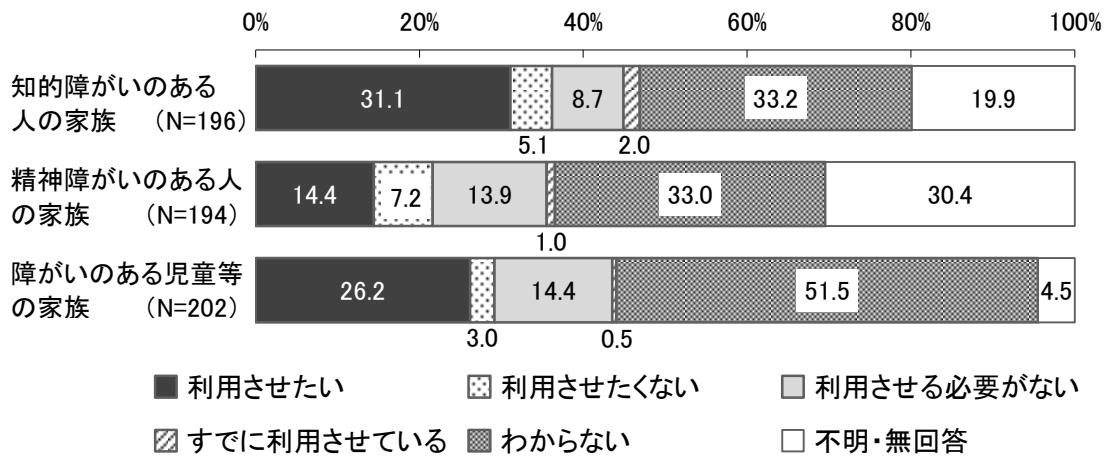
参考：平成 25 年度調査結果



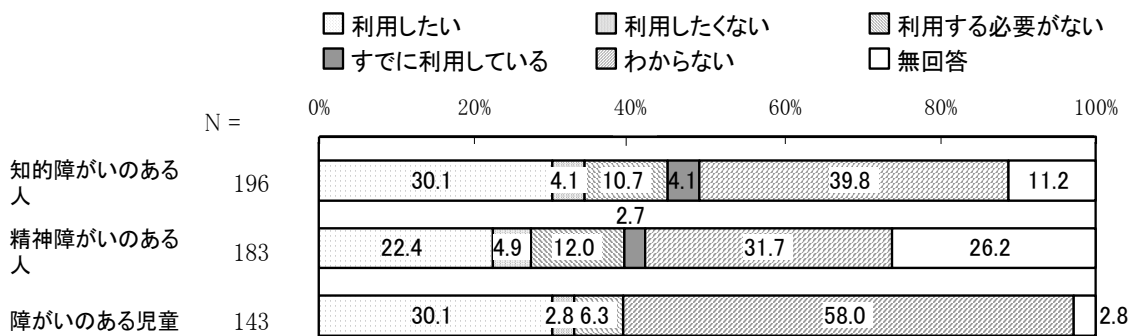
(98) あなたは、宛名の方について、将来的に日常生活自立支援事業を利用させたいと思いますか。

家族問 17

知的障がいのある人の家族及び障がいのある児童等の家族で「利用させたい」の割合が他の障がいのある人の家族と比べて高くなっています。



参考：平成 25 年度調査結果

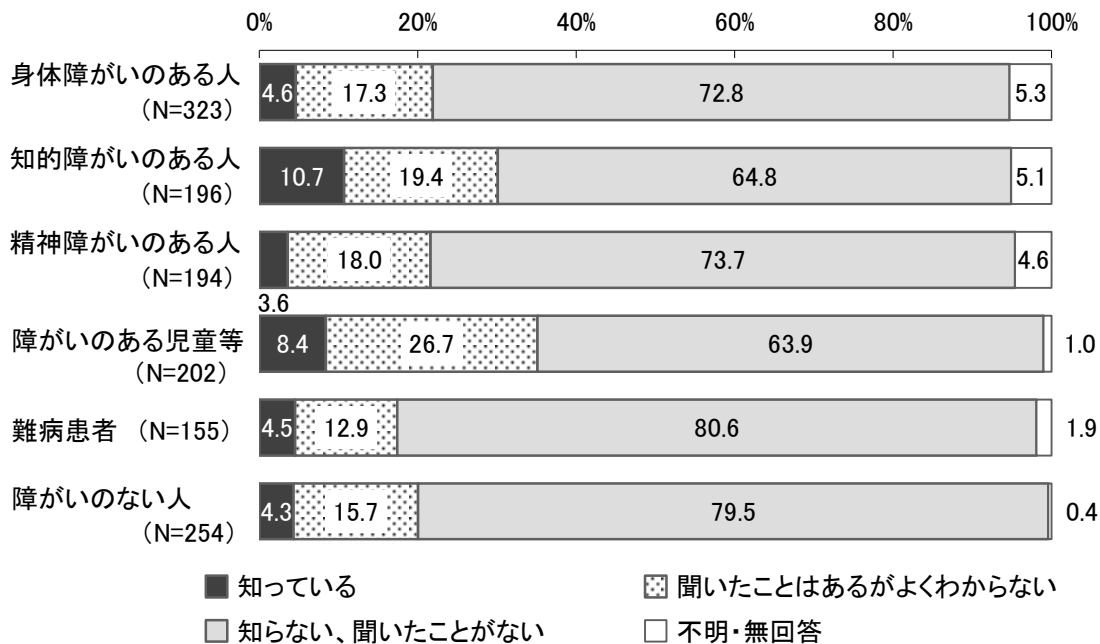


**(99) 障がい者虐待に関する通報を受けつける電話窓口の障がい者虐待防止ホットラインを知っていますか。**

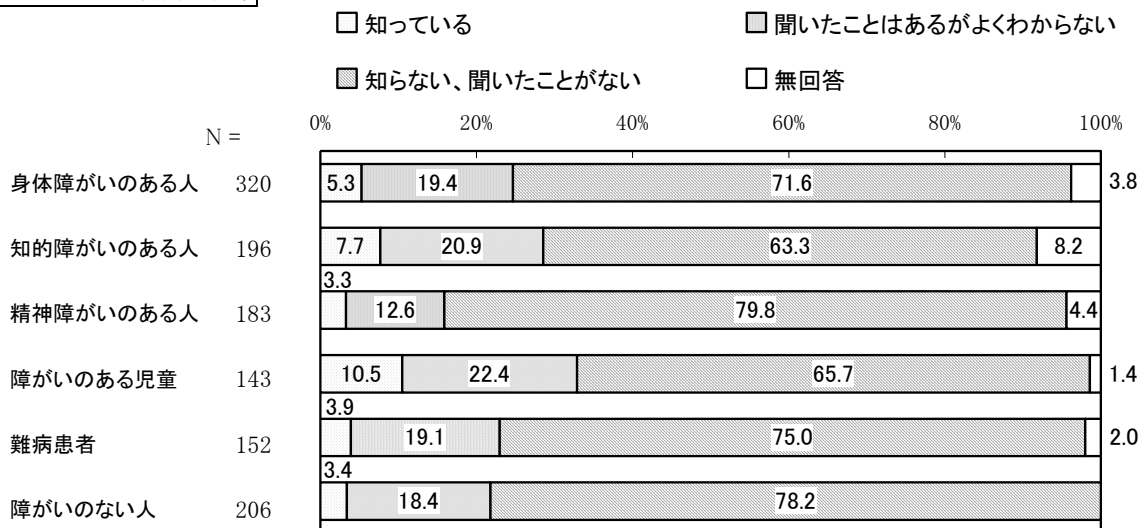
身体問 60、知的問 62、精神問 64、児童問 58、難病問 54、一般問 21

障がいのある人等及び障がいのない人すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。

前回の調査と比較して、「知っている」の割合に大きな変化はありません。



**参考：平成 25 年度調査結果**

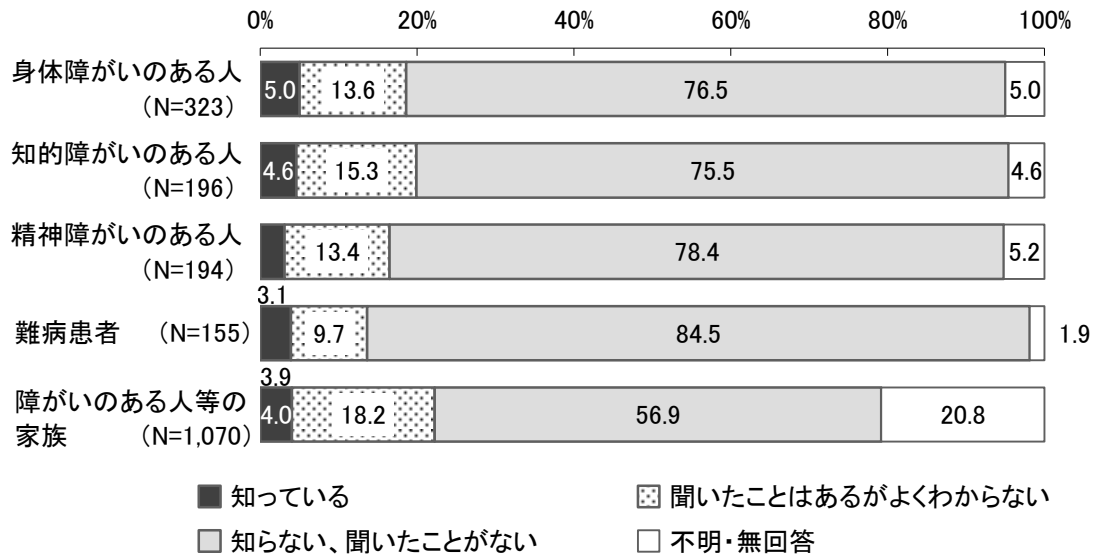


(100) 国において、障がいのある人の意思決定支援について検討がされています。あなたは、意思決定支援について知っていますか。

※意思決定支援とは、意思決定が困難な障がいのある人が、日常生活や社会生活等に関して自分自身がしたいと思う生活を送ることができるよう、障がいのある人を支援することです。

身体問 61、知的問 63、精神問 65、難病問 55、家族問 22

障がいのある人及びその家族すべてで「知らない、聞いたことがない」の割合が最も高くなっています。

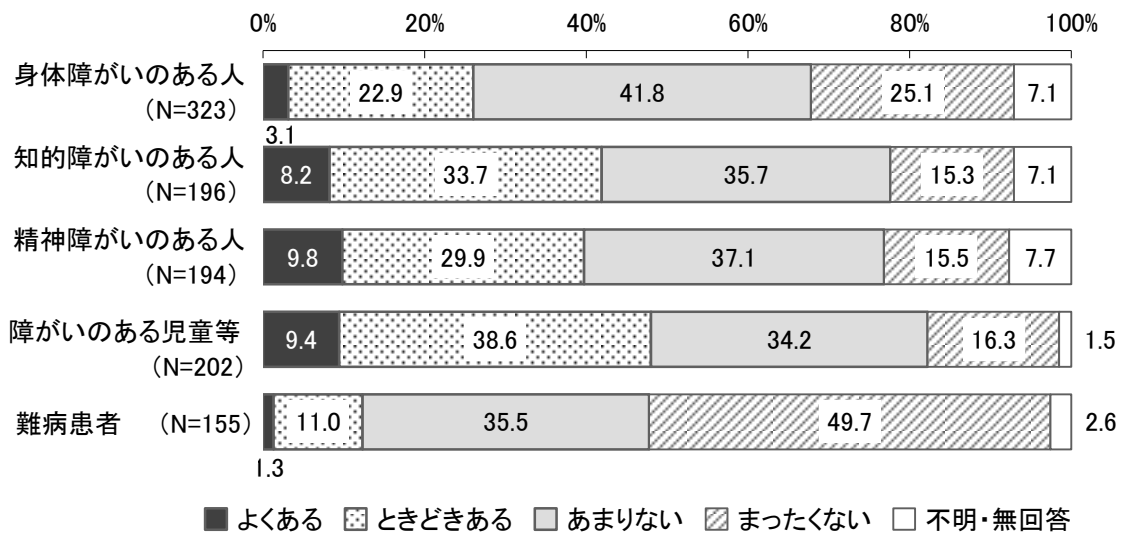




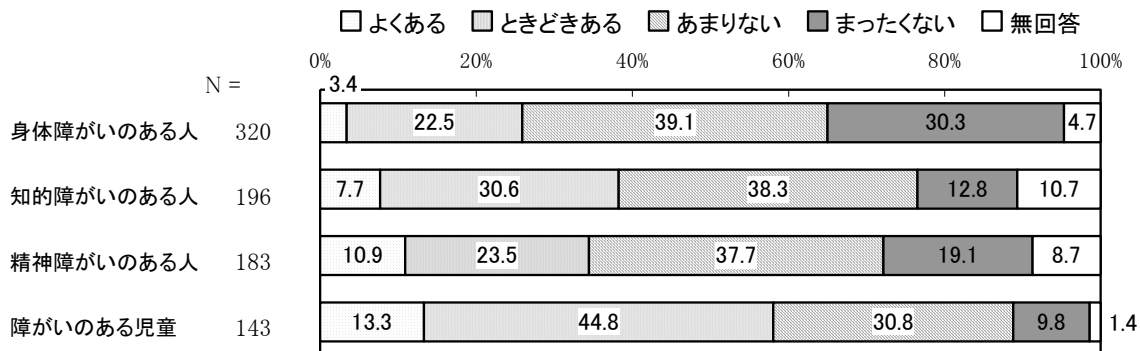
(101) 障がい(疾病)があることで、あなた(お子さん)はふだんの生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。

身体問 62、知的問 64、精神問 66、児童問 59、難病問 56

「よくある」「ときどきある」の割合が知的障がいのある人及び精神障がいのある人で4割前後、障がいのある児童等で5割弱となっています。



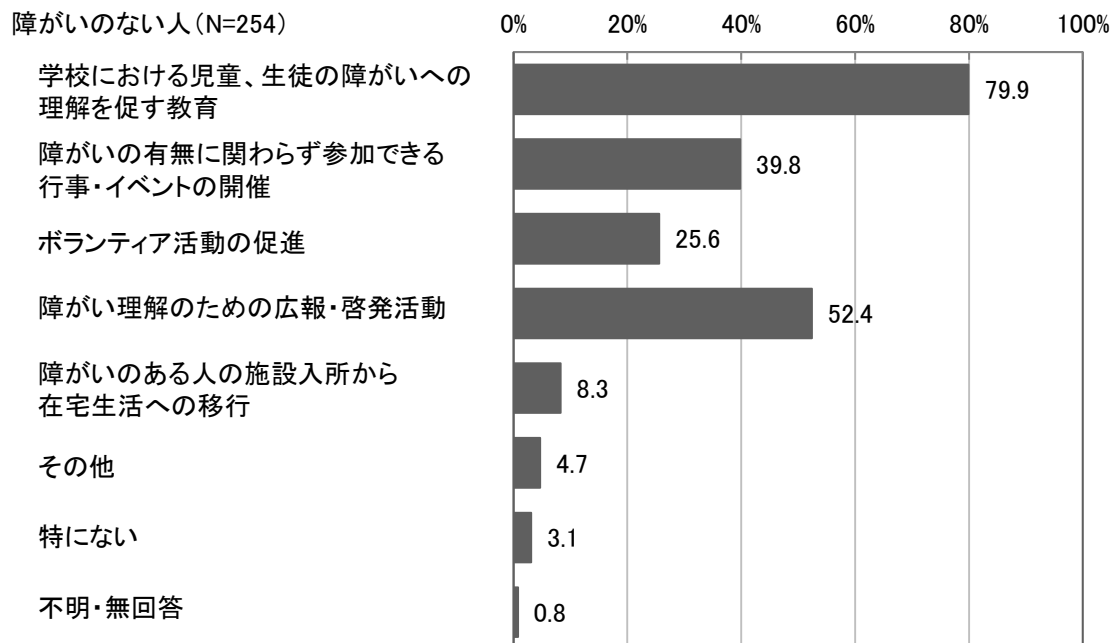
参考：平成 25 年度調査結果



(102) あなたは、障がいのある人への理解を深めるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

一般問 23

「学校における児童、生徒の障がいへの理解を促す教育」の割合が最も高く、次いで「障がい理解のための広報・啓発活動」となっています。

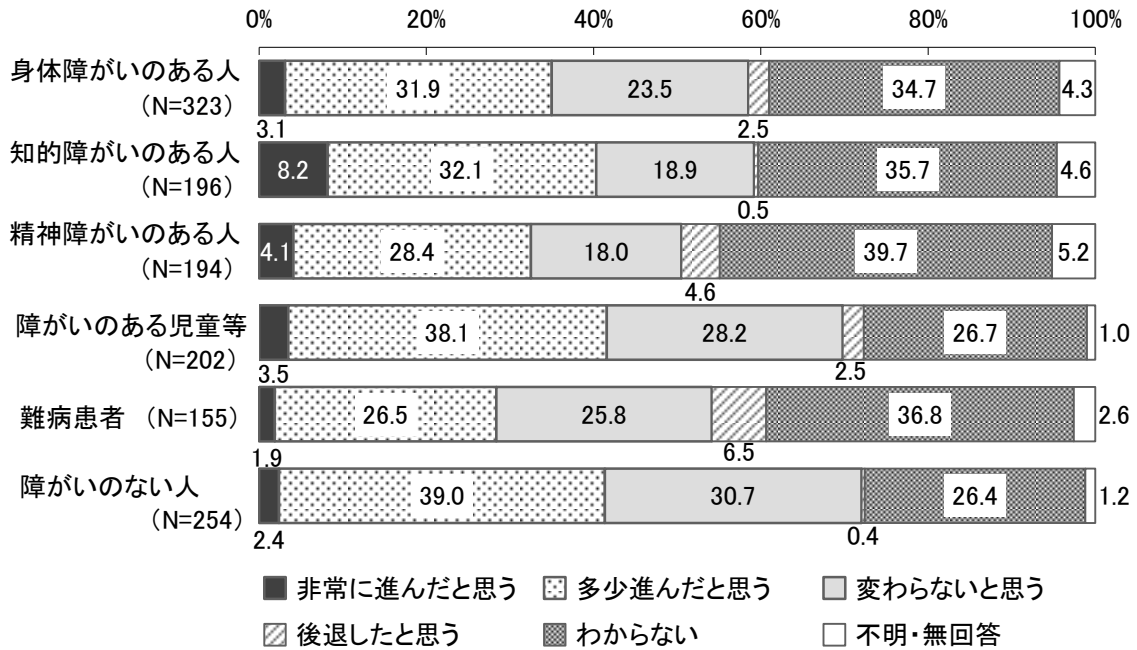


### 13. 障がい者施策について

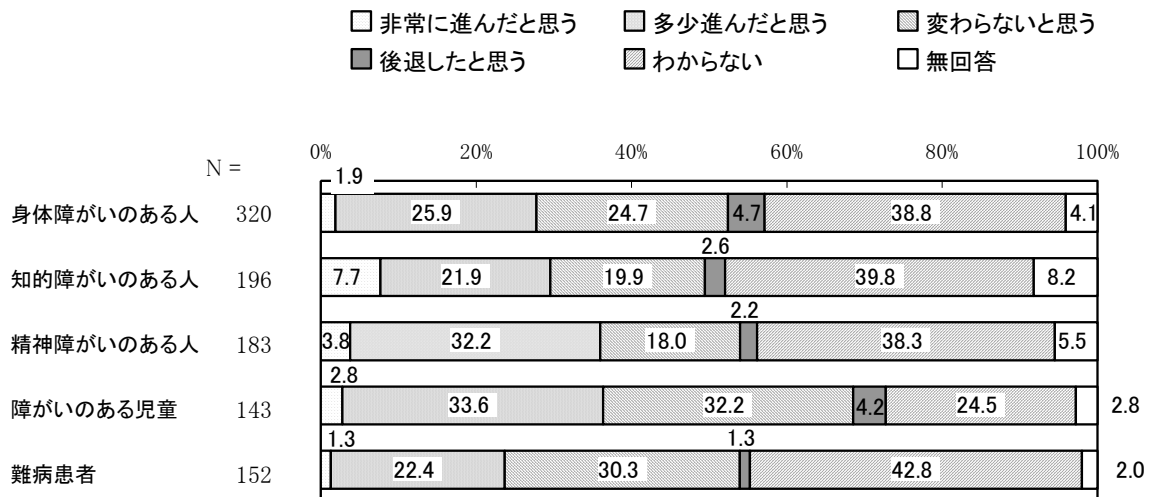
(103) 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの(難病患者を含む)障がい者施策は進んだと思いますか。

身体問 63、知的問 65、精神問 67、児童問 60、難病問 57、一般問 24

知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「非常に進んだと思う」「多少進んだと思う」の合計の割合が前回の調査と比較して増加しています。



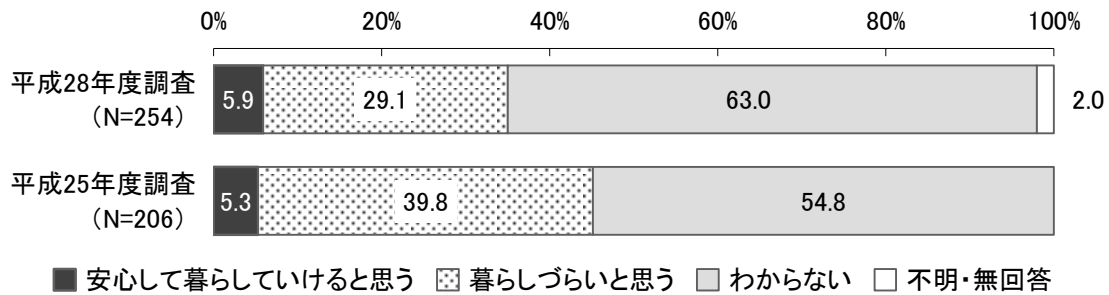
参考：平成 25 年度調査結果



(104) あなたが、もし障がいのある状態になったとしたら、春日井市で安心して暮らしていけると思いますか。

一般問 25

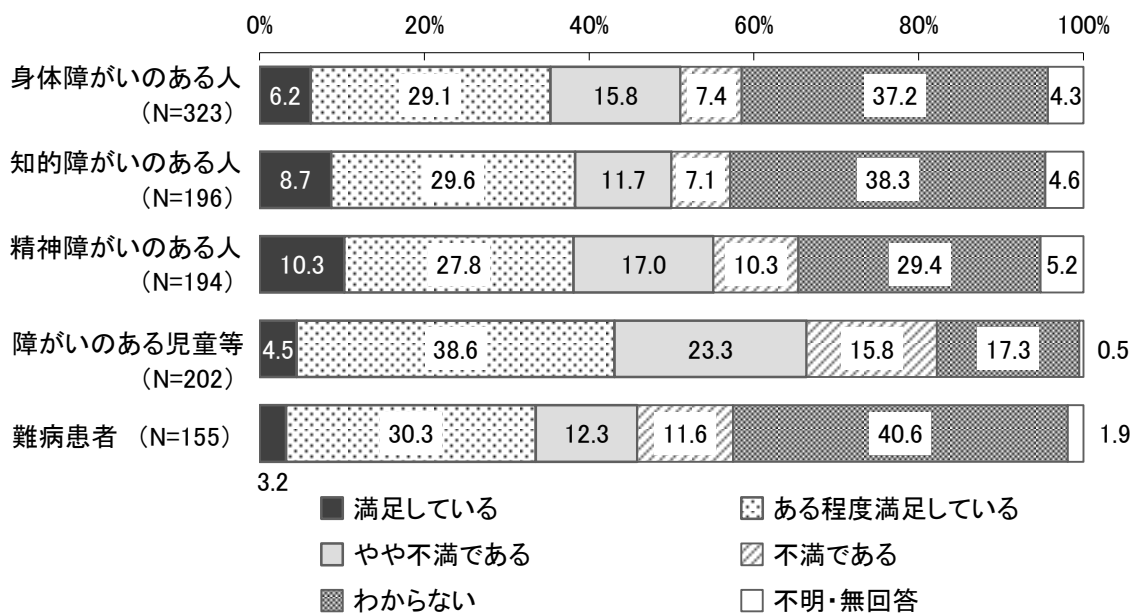
前回の調査と比較して、「暮らしづらいと思う」の割合が低くなっています。



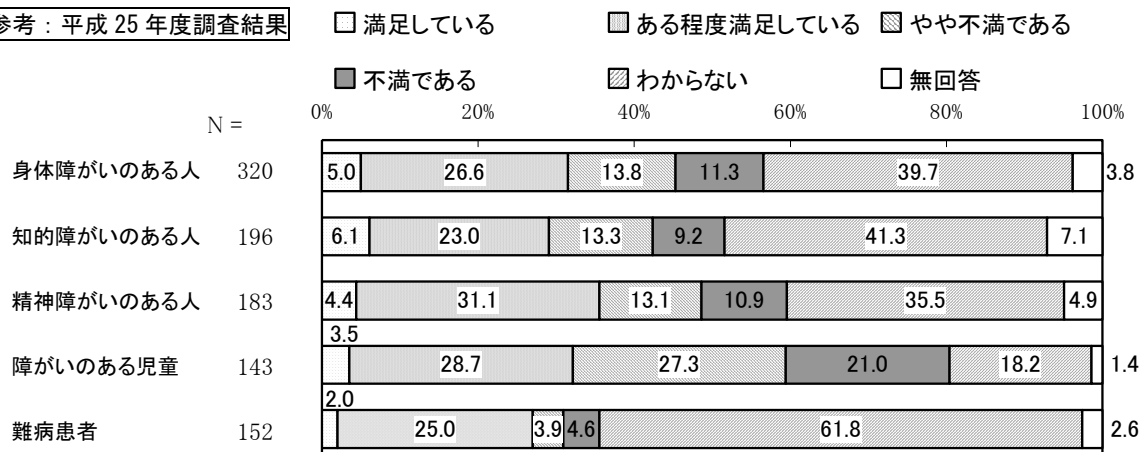
(105) 春日井市における福祉・教育・雇用・まちづくりなどの(難病患者を含む)障がい者施策について満足していますか。

身体問 64、知的問 66、精神問 68、児童問 61、難病問 58

「満足している」「ある程度満足している」の合計の割合が3割強～4割強となっています。



参考：平成25年度調査結果



(106) 今後、特に充実すべきだと考える難病患者を含む障がい者の施策について(複数回答)

身体問 65、知的問 67、精神問 69、児童問 62、難病問 59、一般問 27

災害時の避難体制に関すること、就労支援に関すること、医療費の負担軽減に関することが上位となっています。

(単位：%)

区分	身体障がいの ある人	知的障がいの ある人	精神障がいの ある人	障がいの ある児童等	難病患者	障がいのない人
有効回答 数(件)	323	196	194	202	155	254
1位	障がいのある 人が災害時の 避難で困ら ないような体制 をつくること  (38.1)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人や施設 の数を増やす こと  (43.9)	障がいのある 人が負担する 医療費を減ら すこと  (40.2)	障がいのある 人がその適性 に応じて能力 を十分に発揮 することがで きるよう、就労 を支援するこ と  (59.9)	障がいのある 人が負担する 医療費を減ら すこと  (64.5)	障がいのある 人がその適性 に応じて能力 を十分に発揮 することがで きるよう、就労 を支援するこ と  (61.0)
2位	障がいのある 人が負担する 医療費を減ら すこと  (28.5)	障がいのある 人が災害時の 避難で困ら ないような体制 をつくること  (39.8)	障がいのある 人がその適性 に応じて能力 を十分に発揮 することがで きるよう、就労 を支援するこ と  (30.9)	障がいのある 人が災害時の 避難で困ら ないような体制 をつくること  (34.7)	障がいのある 人が身近な病 院や診療所で 検診や検査を 受けることが できるように すること  (31.0)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人や施設 の数を増やす こと  (44.9)
3位	障がいのある 人がその適性 に応じて能力 を十分に発揮 することがで きるよう、就労 を支援するこ と  (28.2)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人の支援 や施設の設備 の質を高める こと  (37.8)	障がいのある 人に対する差 別をなくすこ と  (28.9)	障がいのある 人に対する差 別をなくすこ と  (34.7)	障がいのある 人がその適性 に応じて能力 を十分に発揮 することがで きるよう、就労 を支援するこ と  (30.3)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人の支援 や施設の設備 の質を高める こと  (37.8)
4位	公共施設、駅、 デパートなど をバリアフリ ー化すること  (27.2)	障がいのある 人が適性に 応じて能力を 十分に発揮す ることができ るよう、就労 を支援するこ と  (36.7)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人や施設 の数を増やす こと  (27.8)	相談支援の相 談員やヘルパ ー、施設の支援 員など、障がい のある人の日 常生活を支援 する人の支援 や施設の設備 の質を高める こと  (34.2)	障がいのある 人が災害時の 避難で困ら ないような体制 をつくること  (29.0)	障がいのある 人に対する差 別をなくすこ と  (37.8)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
5位	障がいのある人が身近な病院や診療所で検診や検査を受けることができるようにすること  (25.4)	障がいのある人に対する差別をなくすこと  (30.1)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること  (26.8)	可能な限り障がいのある児童・生徒が障がいのない児童・生徒と共に学ぶことができるようにすること  (33.2)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援の質を高めること  (25.8)	可能な限り障がいのある児童・生徒が障がいのない児童・生徒と共に学ぶことができるようにすること  (37.4)

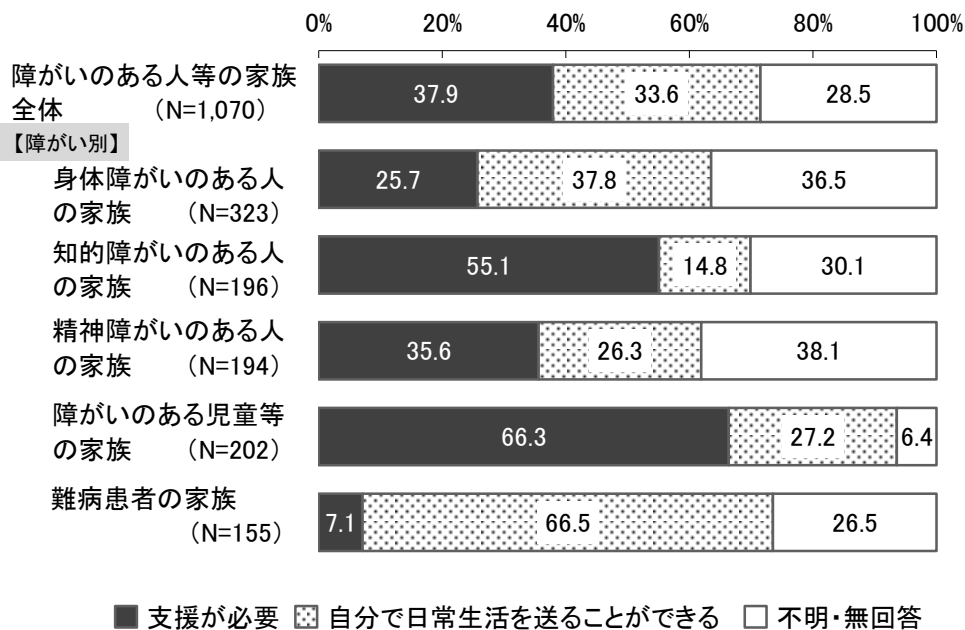
## 14. 障がいのある人等の家族について

(107) 宛名の方は、日常生活において家族の方などの支援(見守りなどの配慮を含む。)を必要としていますか。

家族問1

全体的には、「支援が必要」の割合が4割弱、「自分で日常生活を送ることができる」の割合が3割強となっています。

障がい別では、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「支援が必要」の割合がその他の障がいのある人の家族と比べて高くなっています。



(108) 宛名の方から見てあなた(支援者)は次のどれにあたりますか。

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問2

全体的には、「親」の割合が最も高く、次いで「夫・妻」となっています。

(単位：%)

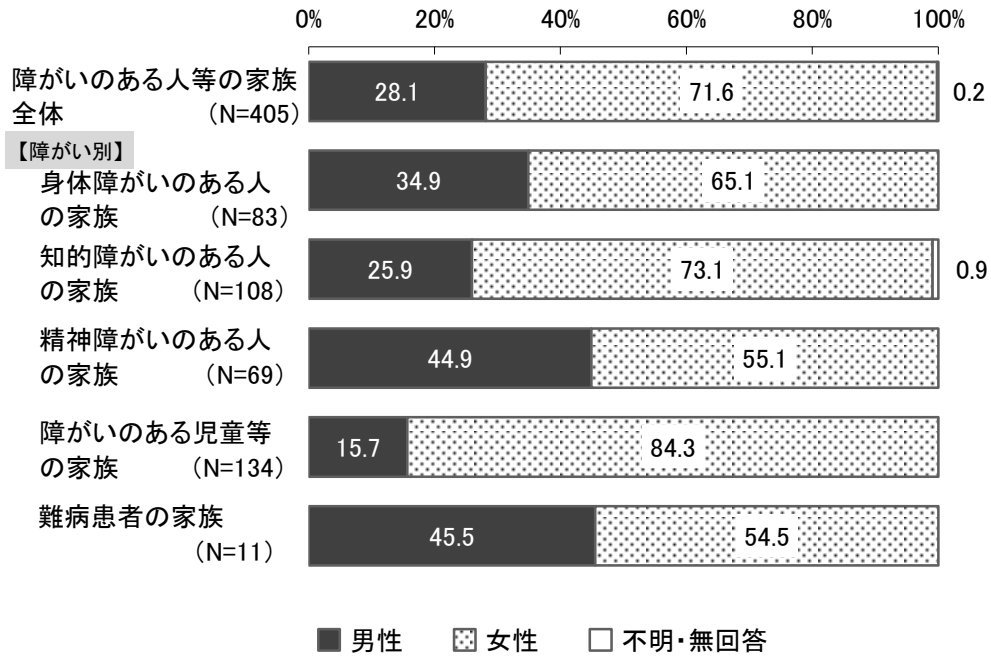
区分	夫・妻	親	子ども	子どもの夫・妻	兄弟姉妹	祖父・祖母	孫	その他の親族	その他	不明・無回答
障がいのある人等の家族全体 (N=405)	18.3	61.0	11.6	1.2	4.9	0.2	—	1.0	1.5	0.2
身体障がいのある人の家族 (N=83)	38.6	28.9	19.3	4.8	7.2	—	—	—	1.2	—
知的障がいのある人の家族 (N=108)	1.9	78.7	5.6	—	8.3	—	—	2.8	1.9	0.9
精神障がいのある人の家族 (N=69)	39.1	37.7	13.0	—	7.2	—	—	1.4	1.4	—
障がいのある児童等の家族 (N=134)	6.0	82.8	9.0	0.7	—	0.7	—	—	0.7	—
難病患者の家族 (N=11)	45.5	9.1	36.4	—	—	—	—	—	9.1	—

## (109) (支援者の)性別について

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問3

「女性」の割合が7割強となっています。



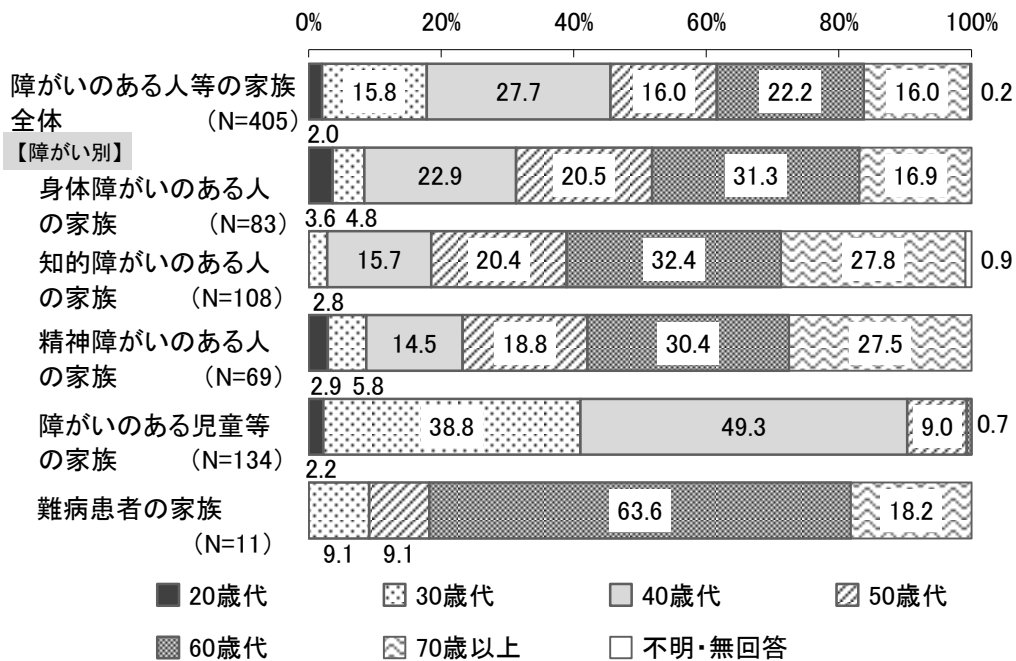


(110) (支援者の)年齢を数字で記入してください。(平成 28 年 10 月 1 日現在)

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 4

全体的には、「40 歳代」の割合が最も高く、次いで「60 歳代」となっています。

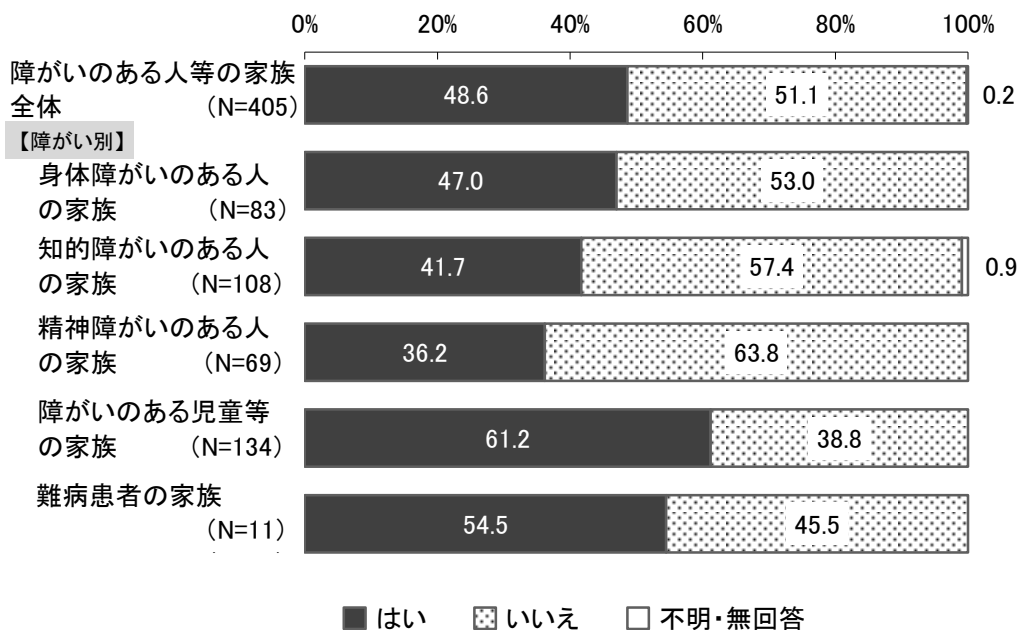


(111) あなた(支援者)は仕事をしていますか。

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 5

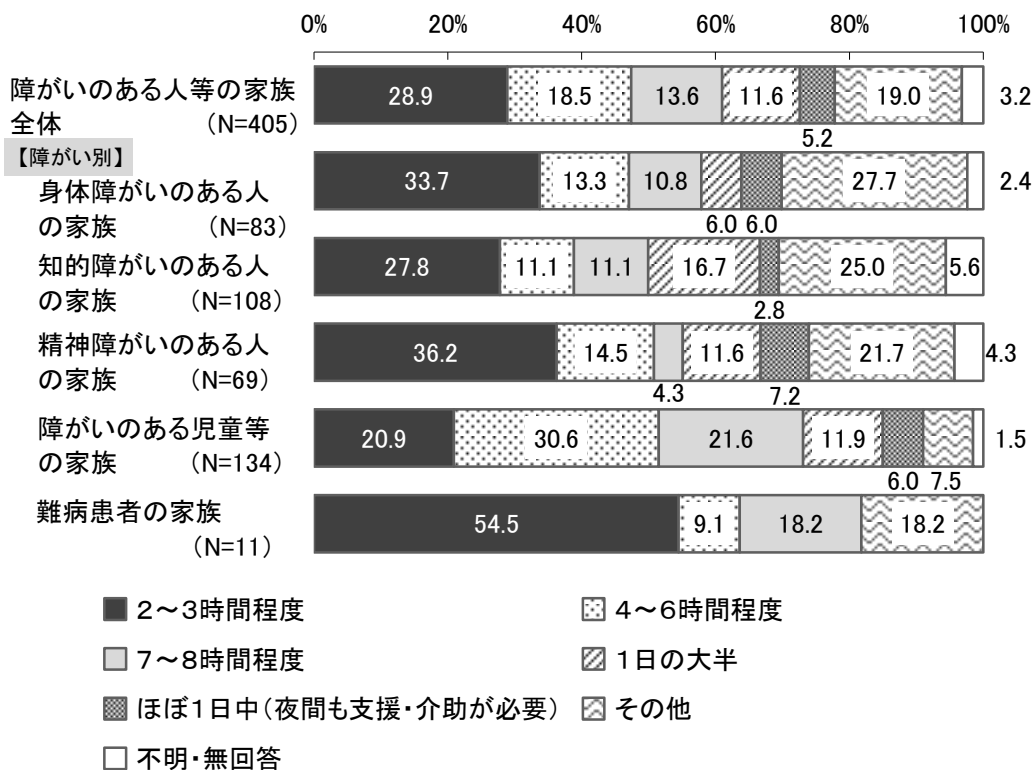
全体的には、「はい」(仕事をしている)の割合が5割弱となっています。



(112) あなた(支援者)が1日あたりの支援にかけている時間はどれくらいですか。

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

全体的には、「2～3時間程度」の割合が最も高く、次いで「4～6時間程度」となっています。

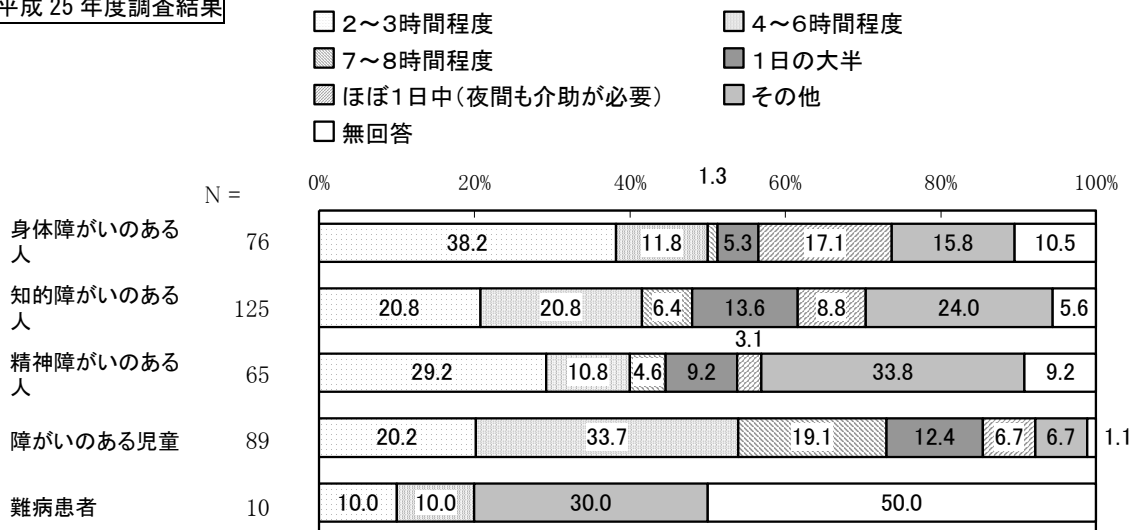


[主な「その他」の内容]

内容
0時間
特に必要ない
施設や学校へ行ってない時間全て
1日1時間未満
週に数時間
1か月に数日

内容
週に数回施設に行っている
現在入所、入院中
グループホームにいるため週末のみ
自分(家族)に介助が必要
ゴミ出し、通院、買物等の家事
体の調子が悪い時に支援している

参考：平成25年度調査結果

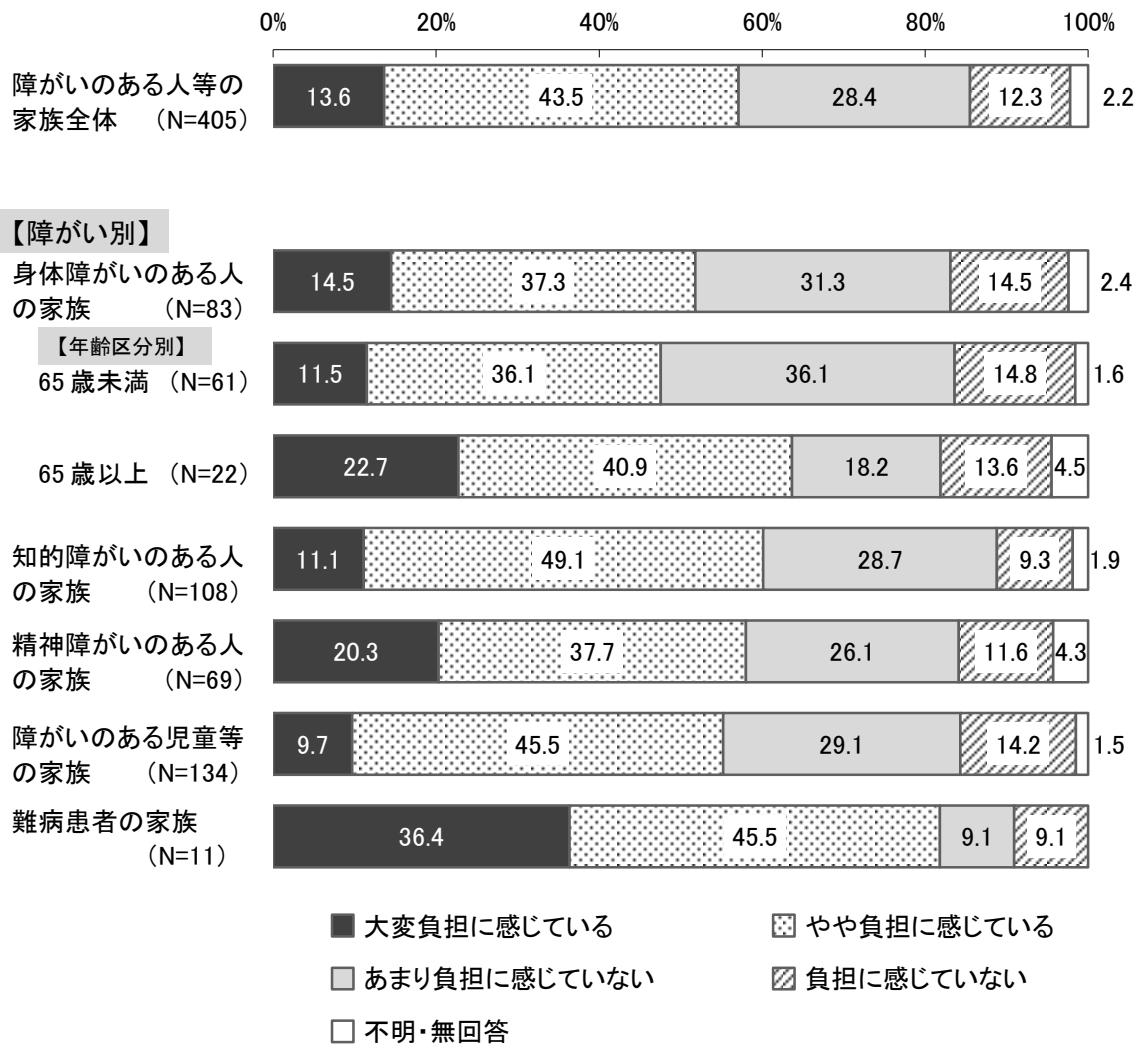


(113) あなた(支援者)が宛名の方ご本人の支援について、負担に感じることはありますか。

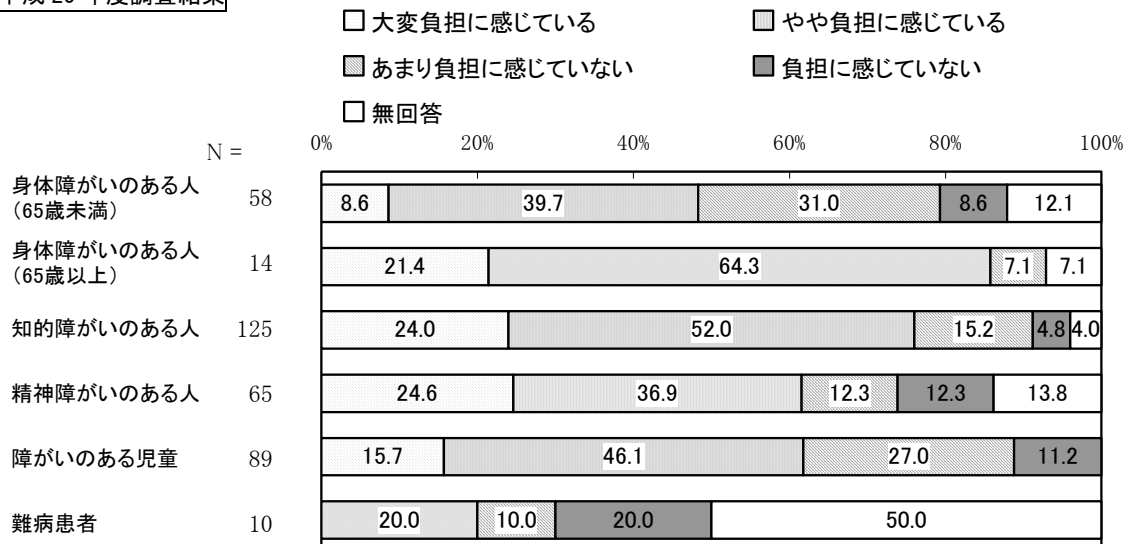
※(107)で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問7

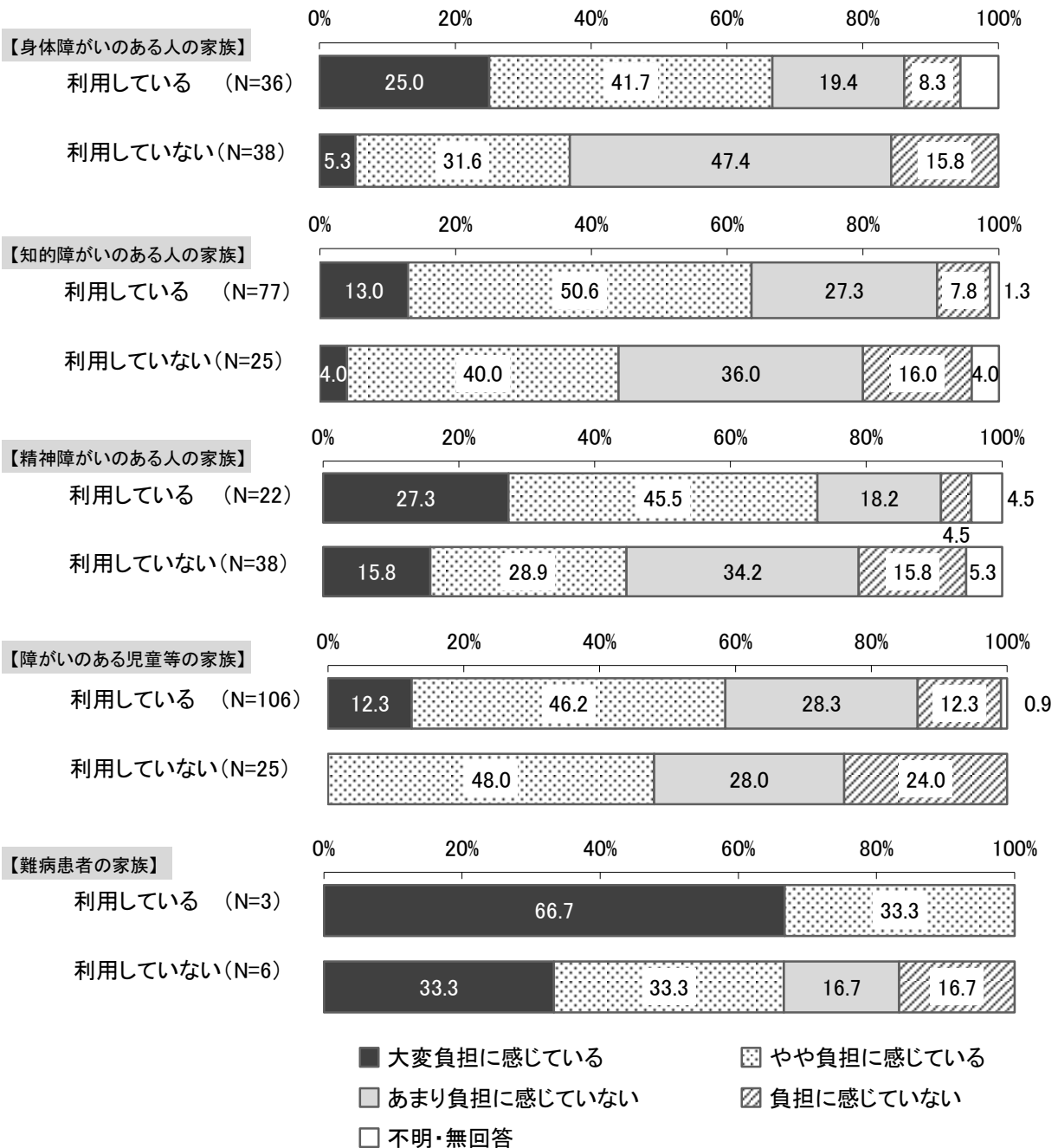
「負担に感じている」(「大変負担に感じている」と「やや負担に感じている」の合計)の割合は障がいのある人等の家族すべてで5割を超えており、特に難病患者の家族は他の障がいのある人等の家族と比べて高くなっています。



参考：平成25年度調査結果



【障がい福祉サービスの利用の有無別】



(114) あなた(支援者)が支援する上で困っていることは何ですか。(複数回答)

※ (107) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 8

全体的には、「心身が疲れる」の割合が最も高く、次いで「必要な時に他の人に支援を頼めない」となっています。

(単位：%)

有効回答数(件)	身体障がいのある人の家族全体			知的障がいのある人の家族	精神障がいのある人の家族	障がいのある児童等の家族	難病患者の家族
	(65歳未満)	(65歳以上)					
83	61	22	108	69	134	11	
1位	心身が疲れる (49.4)	心身が疲れる (45.9)	心身が疲れる (59.1)	心身が疲れる (56.5)	心身が疲れる (49.3)	心身が疲れる (50.0)	心身が疲れる (72.7)
2位	特にない (32.5)	特にない (34.4)	必要な時に他の人に支援を頼めない (31.8)	必要なときに他の人に支援を頼めない (38.9)	特にない (27.5)	必要なときに他の人に支援を頼めない (38.8)	必要なときに他の人に支援を頼めない (27.3)
3位	必要なときに他の人に支援を頼めない (27.7)	必要な時に他の人に支援を頼めない (26.2)	特にない (27.3)	特にない (17.6)	必要なときに他の人に支援を頼めない (23.2)	特にない (25.4)	相談相手がない (27.3)
4位	外出できない (15.7)	外出できない (14.8)	外出できない (18.2)	外出できない (14.8)	外出できない (17.4)	外出できない (23.1)	外出できない (18.2)
5位	相談相手がない (10.8)	相談相手がない (9.8)	相談相手がない (13.6)	相談相手がない (9.3)	相談相手がない (15.9)	相談相手がない (10.4)	特にない (9.1)

障がい福祉サービスの利用の有無別では、全体的に、利用している人の方が「心身が疲れる」「外出できない」等の割合が利用していない人と比べて高くなっています。

【障がい福祉サービスの利用の有無別】

(単位：%)

区分	外出できない	心身が疲れる	相談相手がいらない	必要な時に他の人に支援を頼めない	その他	特にない	不明・無回答
<b>身体障がいのある人の家族</b>							
利用している (N=36)	22.2	63.9	8.3	25.0	5.6	25.0	—
利用していない(N=38)	7.9	36.8	13.2	31.6	5.3	39.5	2.6
<b>知的障がいのある人の家族</b>							
利用している (N=77)	18.2	58.4	7.8	44.2	11.7	15.6	1.3
利用していない(N=25)	8.0	48.0	12.0	32.0	4.0	28.0	8.0
<b>精神障がいのある人の家族</b>							
利用している (N=22)	27.3	54.5	27.3	40.9	0.0	18.2	4.5
利用していない(N=38)	10.5	39.5	10.5	15.8	7.9	34.2	7.9
<b>障がいのある児童の家族</b>							
利用している (N=106)	24.5	55.7	9.4	39.6	6.6	22.6	0.9
利用していない(N=25)	20.0	32.0	12.0	36.0	—	36.0	—
<b>難病患者の家族</b>							
利用している (N=3)	33.3	66.7	33.3	66.7	—	—	—
利用していない(N=6)	16.7	66.7	33.3	16.7	—	16.7	—

(115) あなた(支援者)は、支援する上で困ったとき、だれに相談していますか。(複数回答)

※(107)で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問9

全体的には、「家族」の割合が最も高く、次いで「施設や事業所の職員」となっています。

障がい別では、身体障がいのある人及び知的障がいのある人で「施設や事業所の職員」、精神障がいのある人及び難病患者で「病院などの医療機関」、障がいのある児童等で「同じ障がいのある家族をもつ友人・知人」の割合がそれぞれ他の障がい等と比べて高くなっています。

【障がいのある家族・手帳等別クロス】

(単位：%)

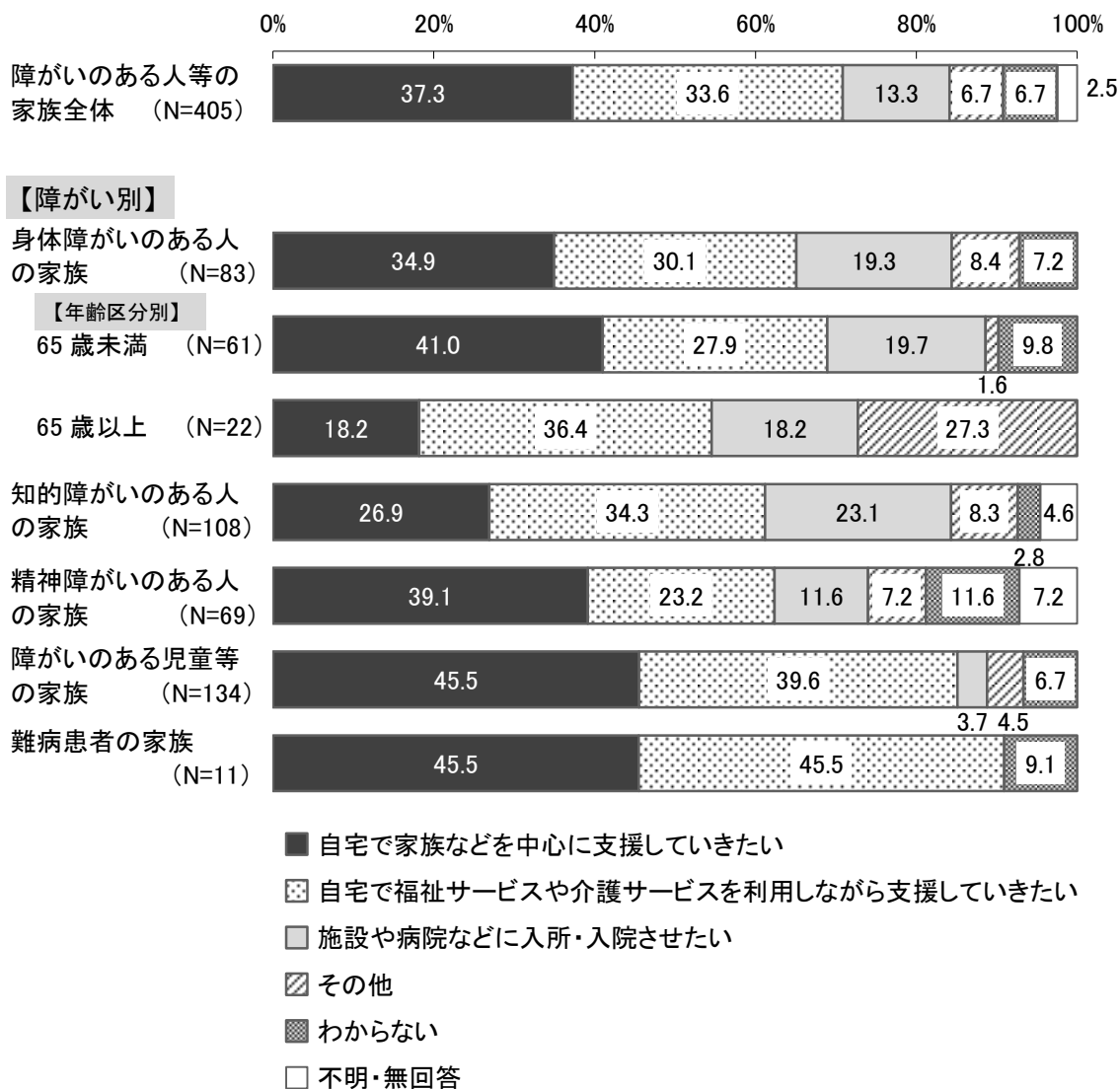
区分	家族	同じ障がいのある家族をもつ友人・知人	2以外の友人・知人	病院などの医療機関	施設や事業所の職員	市の窓口	相談支援センター	身体障がい者相談員	いない	困っていることはない
障がいのある人等の家族全体 (N=405)	68.6	30.1	13.6	27.7	33.3	6.2	8.6	1.2	7.2	2.7
身体障がいのある人の家族 (N=83)	65.1	10.8	9.6	19.3	27.7	6.0	6.0	1.2	7.2	9.6
65歳未満(N=61)	62.3	14.8	11.5	23.0	26.2	8.2	6.6	1.6	6.6	11.5
65歳以上(N=22)	72.7	—	4.5	9.1	31.8	—	4.5	—	9.1	4.5
知的障がいのある人の家族 (N=108)	69.4	39.8	11.1	20.4	45.4	8.3	15.7	1.9	2.8	—
精神障がいのある人の家族 (N=69)	47.8	2.9	8.7	36.2	14.5	5.8	2.9	1.4	21.7	2.9
障がいのある児童等の家族(N=134)	80.6	50.7	20.9	34.3	38.8	4.5	8.2	0.7	2.2	—
難病患者の家族 (N=11)	72.7	—	9.1	27.3	9.1	9.1	—	—	18.2	9.1

区分	その他	不明・無回答
障がいのある人等の家族全体 (N=405)	5.9	1.2
身体障がいのある人の家族 (N=83)	3.6	—
65歳未満(N=61)	1.6	—
65歳以上(N=22)	9.1	—
知的障がいのある人の家族 (N=108)	4.6	1.9
精神障がいのある人の家族 (N=69)	5.8	4.3
障がいのある児童等の家族(N=134)	9.0	—
難病患者の家族 (N=11)	—	—

(116) 今後、あなた(支援者)は、どのように支援していきたいと思いますか。

※(107)で「支援が必要」と答えた方に聞きました

知的障がいのある人の家族で「自宅で福祉サービスや介護サービスを利用しながら支援していきたい」、その他の障がいのある人等の家族で「自宅で家族などを中心に支援していきたい」の割合が、それぞれ最も高くなっています。なお、身体障がいのある人及び知的障がいのある人の家族で「施設や病院などに入所・入院させたい」の割合がその他の障がいのある人等の家族と比べて高くなっています。



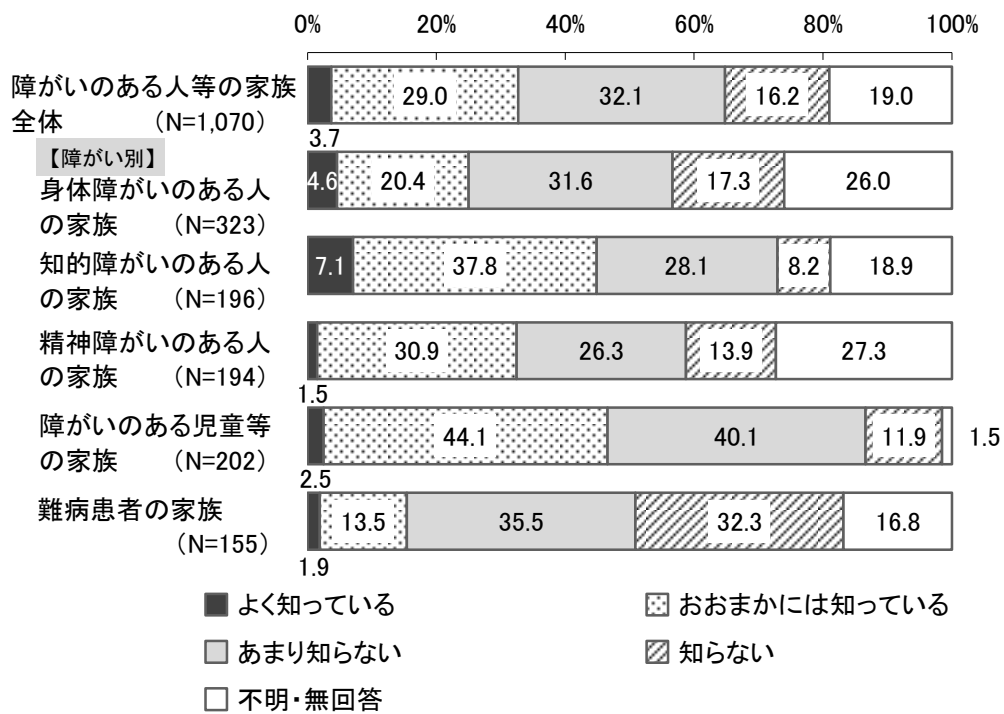


(117) あなたは、福祉サービスを利用するための方法やサービスの内容について、知っていますか。

家族問 11

全体的には、「あまり知らない」「知らない」の合計の割合が5割弱となっています。

障がい別では、難病患者の家族で「あまり知らない」「知らない」の合計の割合が7割弱となっています。

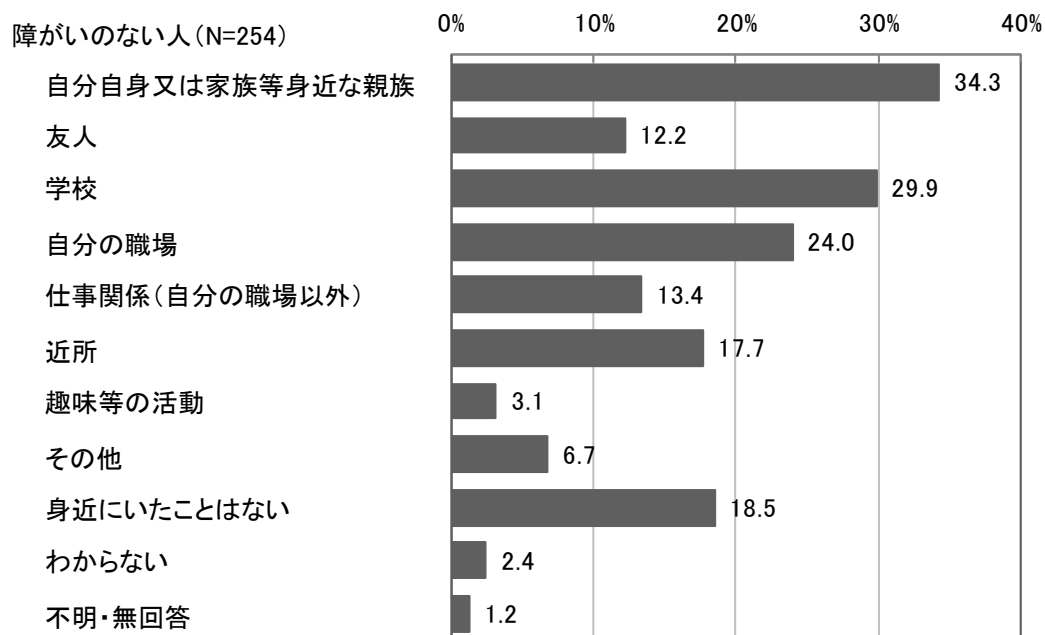


## 15. 共生社会について

(118) これまで、あなたの身近に障がいのある人がいたことはありましたか。また、それはどのような場面でしたか。(複数回答)

一般問 4

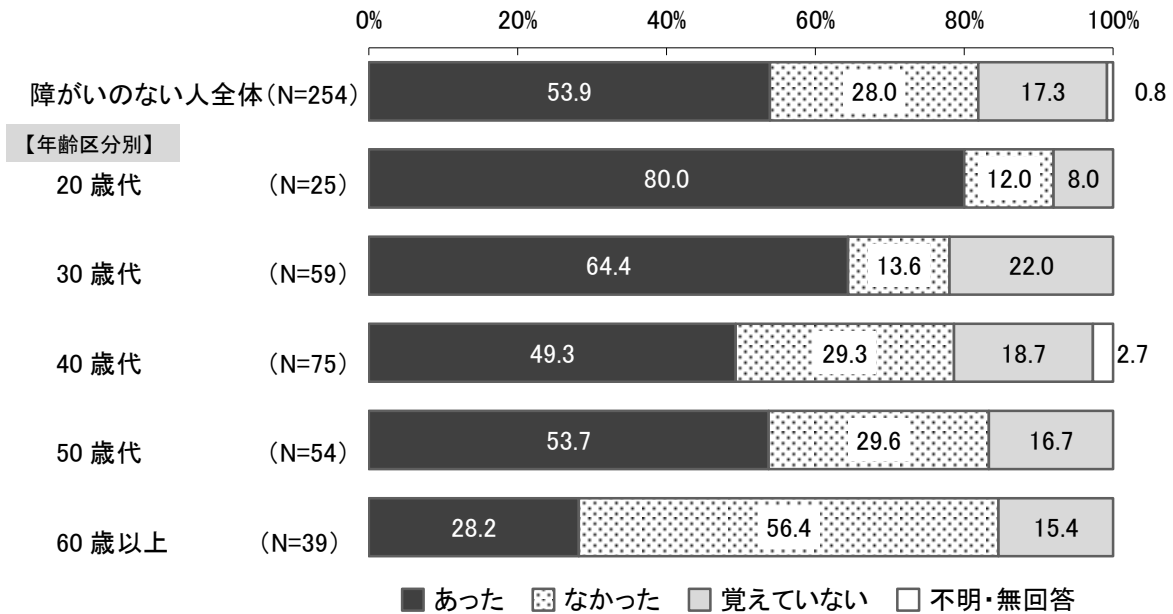
「自分自身又は家族等身近な親族」の割合が最も高く、次いで「学校」となっています。



(119) あなたは、これまでに学校の授業などで障がいについて学んだり障がいのある人に接する機会がありましたか。

一般問 5

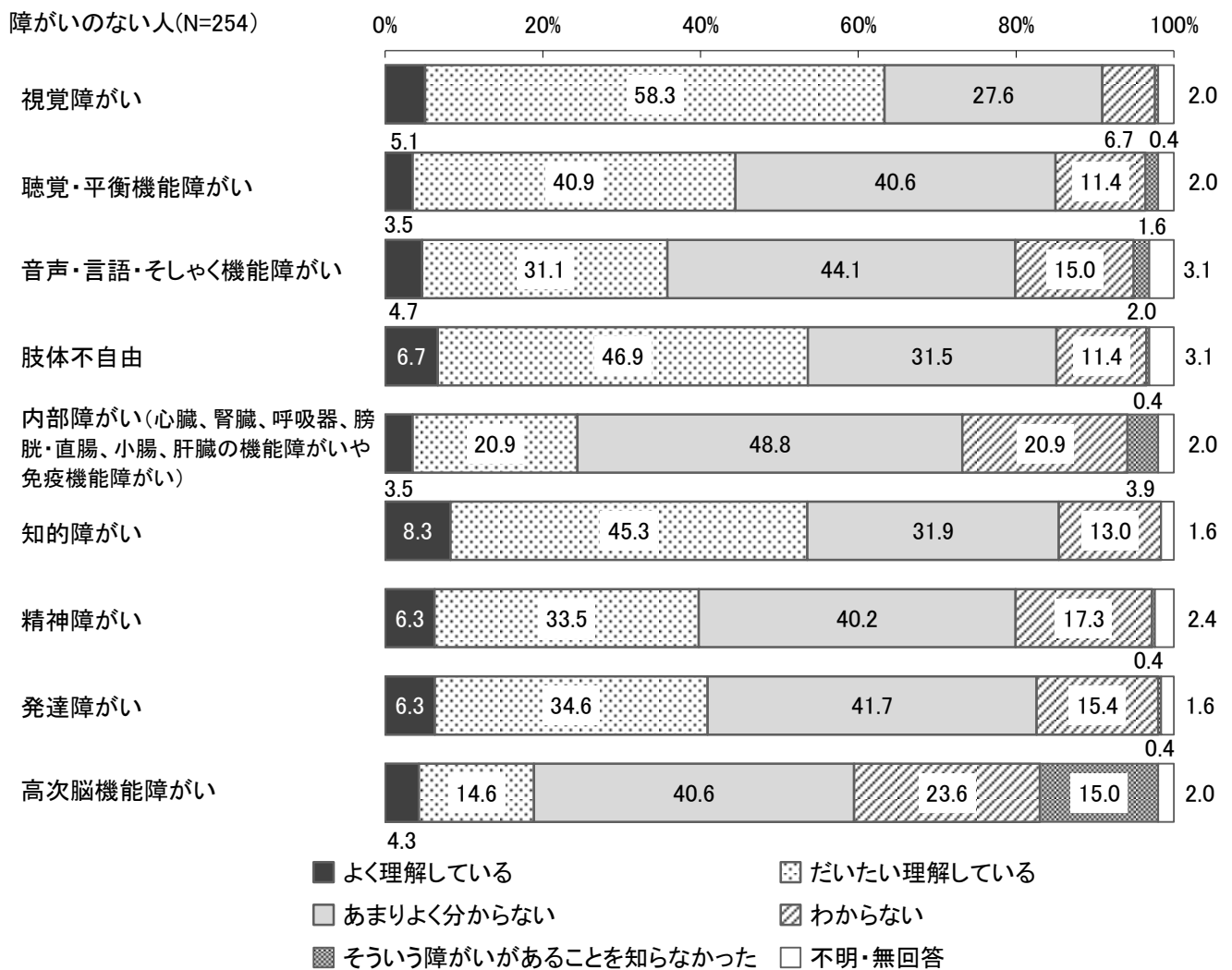
「あった」の割合が5割強、「なかった」の割合が3割弱となっています。



(120) あなたは、次の障がいについて、その特性やどのような支援が必要かを理解していると思いますか。

一般問6

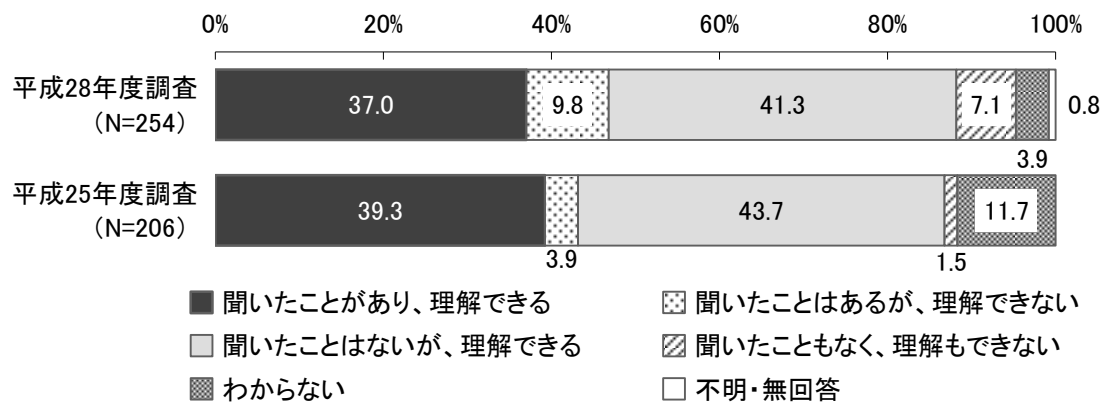
「視覚障がい」「肢体不自由」「知的障がい」においては「理解している」（「よく理解している」と「だいたい理解している」の合計）の割合が5割を超えています。「内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、肝臓の機能障がいや免疫機能障がい）」「高次脳機能障がい」で「わからない」（「あまりよく分からない」と「わからない」の合計）の割合が6割を超え、また、「そういう障がいがあることを知らなかった」の割合が他の障がいと比べて高くなっています。



(121) 「共生社会」とは、障がいの有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会のことです。あなたは、この「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。

一般問 7

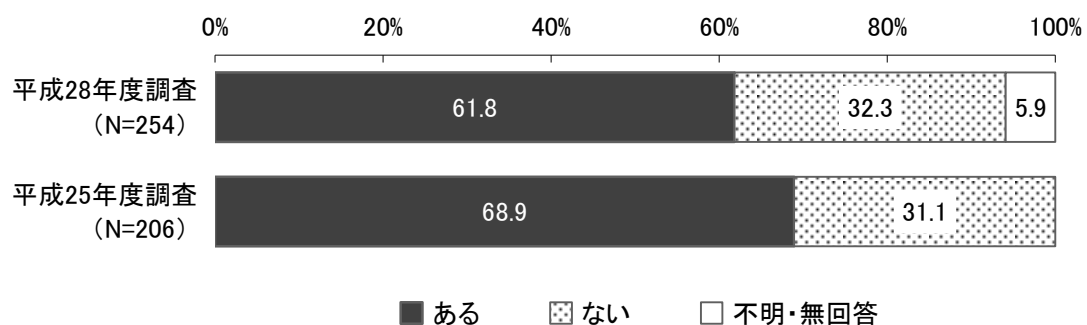
「聞いたことはないが、理解できる」の割合が最も高く、次いで「聞いたことがあります、理解できる」となっています。



(122) あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。

一般問 8

「ある」の割合が6割強となっています。

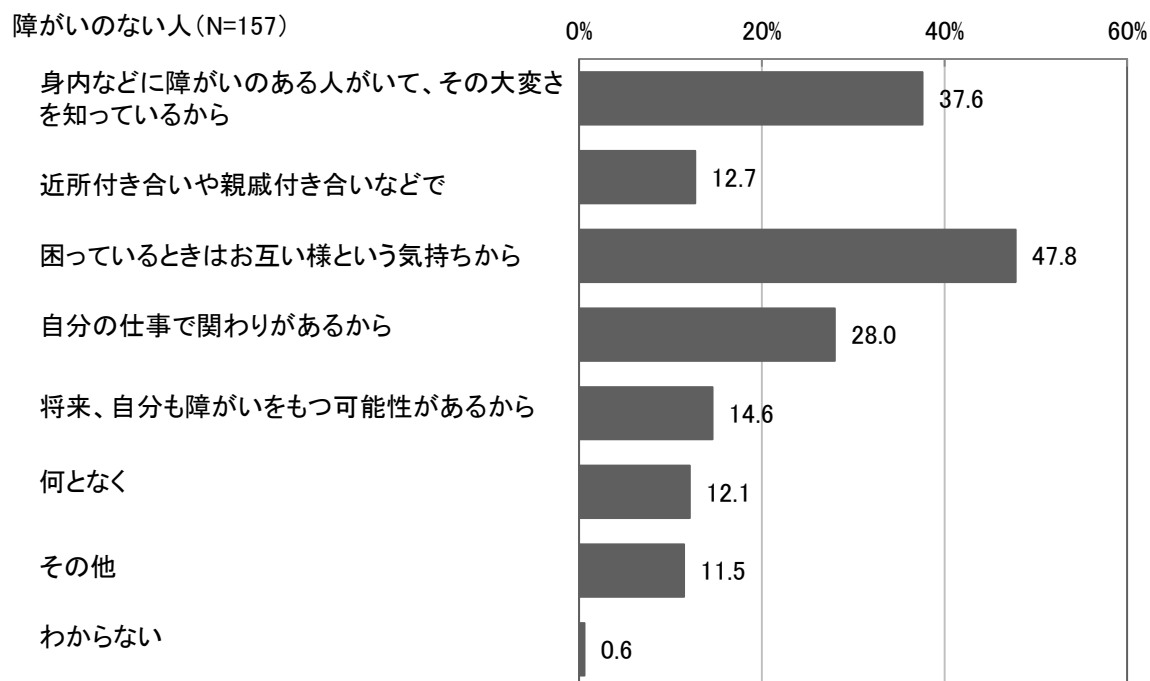


### (123) それはどのような気持ちからですか。(複数回答)

※ (122) で「ある」と答えた方に聞きました

一般問 9

「困っているときはお互い様という気持ちから」の割合が最も高く、次いで「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」となっています。

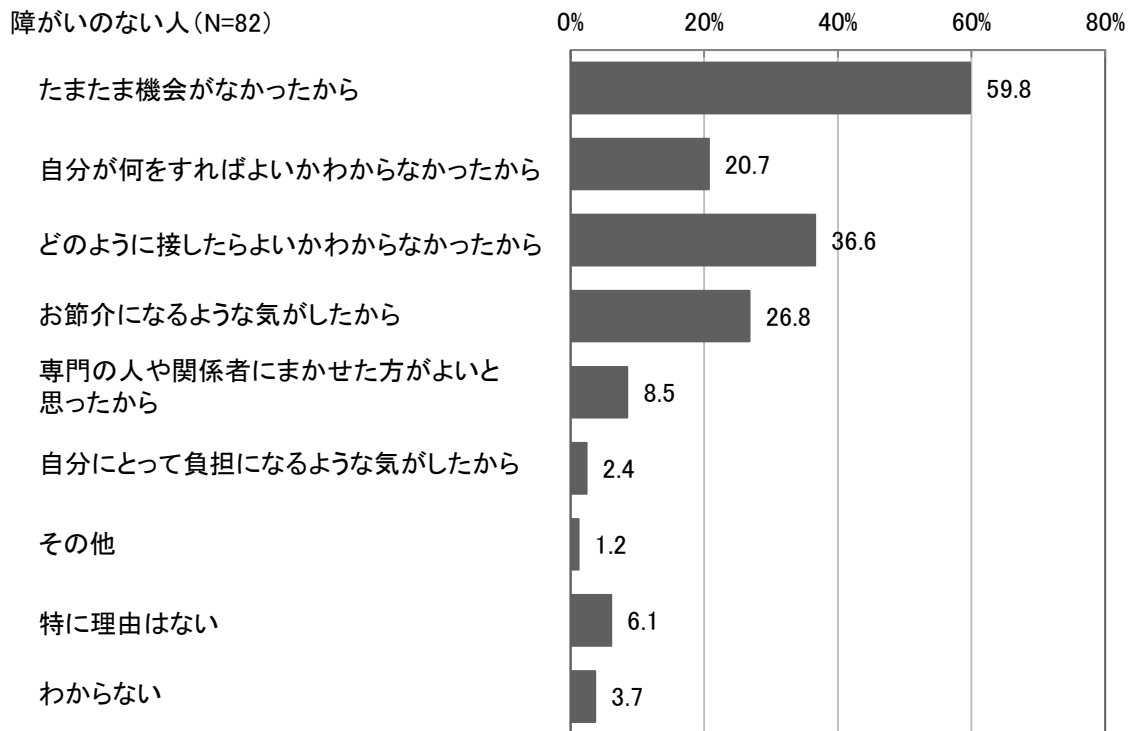


(124) 障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがない理由は何ですか。(複数回答)

※(122)で「ない」と答えた方に聞きました

一般問 10

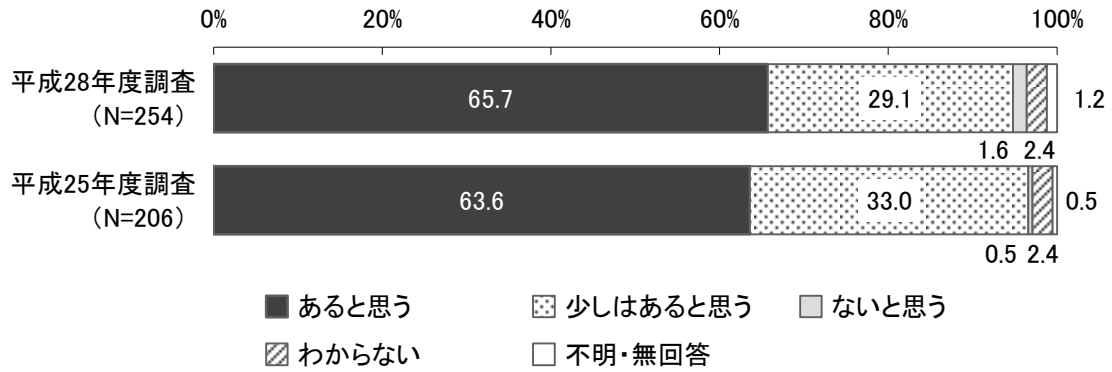
「たまたま機会がなかったから」の割合が最も高く、次いで「どのように接したらよいかわからなかったから」となっています。



(125) あなたは、世の中には障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。

一般問 11

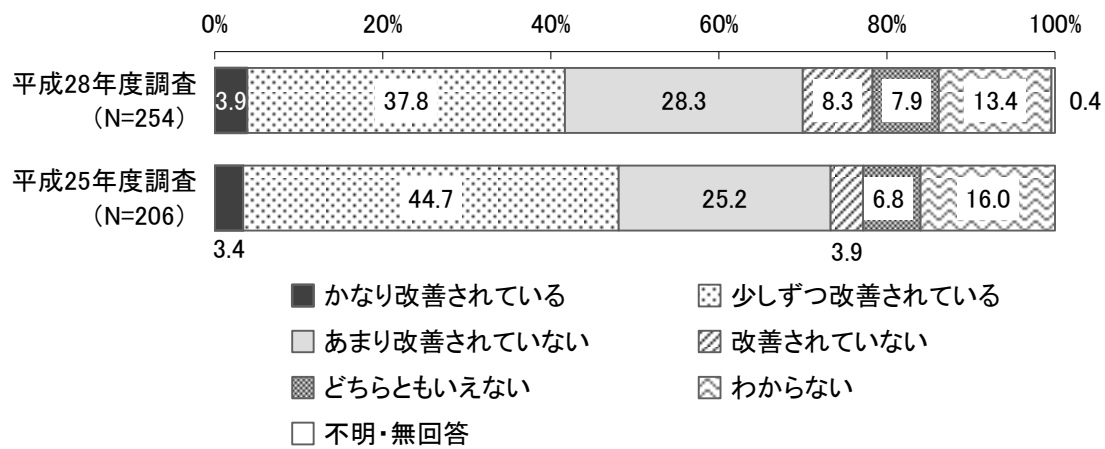
「あると思う」「少しはあると思う」の合計の割合が9割を超えています。



(126) あなたは、5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。

一般問 12

「かなり改善されている」「少しずつ改善されている」の合計の割合が約4割となっています。

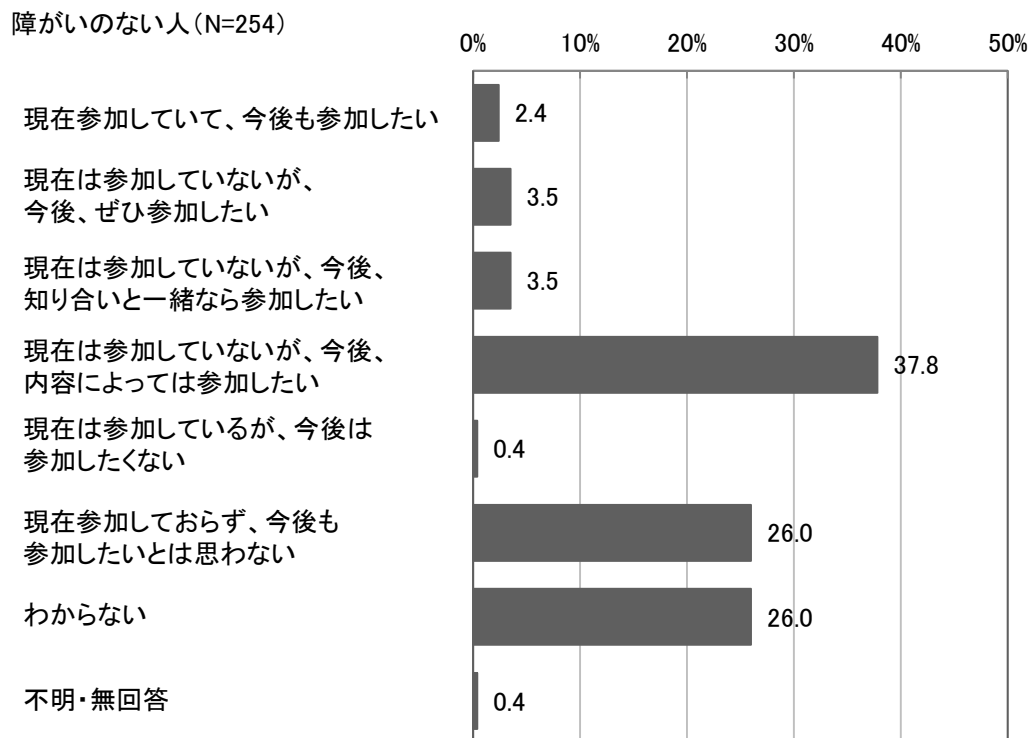




(127) 障がいのある人に関わるボランティア活動(近所のボランティア、市のボランティア問わず)に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。

一般問 13

「現在は参加していないが、今後、内容によっては参加したい」の割合が最も高く、次いで「現在参加しておらず、今後も参加したいとは思わない」「わからない」となっています。

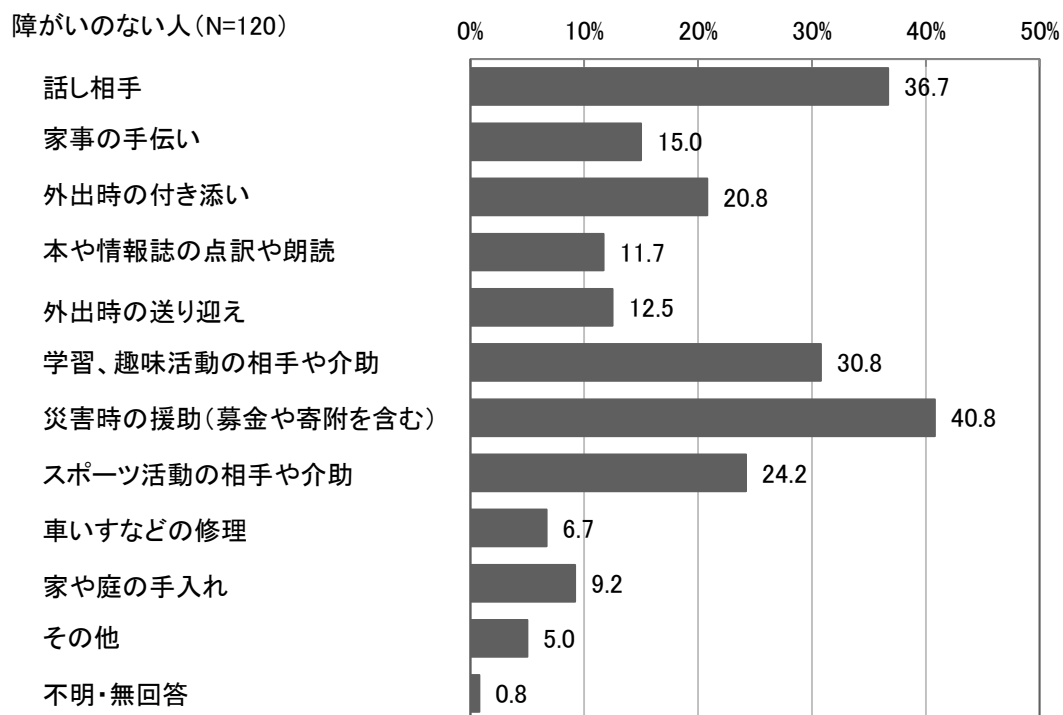


### (128) どのようなボランティアに参加したいですか。(複数回答)

※ (127) で「ボランティア活動に参加したい」と答えた方に聞きました

一般問 14

「災害時の援助（募金や寄附を含む）」の割合が最も高く、次いで「話し相手」となっています。









---

---

春日井市障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査  
【結果報告書】

発 行 : 春日井市  
編 集 : 春日井市 健康福祉部 障がい福祉課  
住 所 : 〒486-8686 愛知県春日井市鳥居松町5-4-4  
TEL : (0568) 85-6186  
発行年月 : 平成 29 年 3 月

---

---